

＜第3章 調査の集計結果＞

その1

ボランティア・NPO活動について

防災意識・防災対策について

食習慣・生活習慣について

地域医療の充実について

第3章 調査の集計結果

1. ボランティア・NPO活動について

(1)ボランティアやNPO活動に対しての関心度

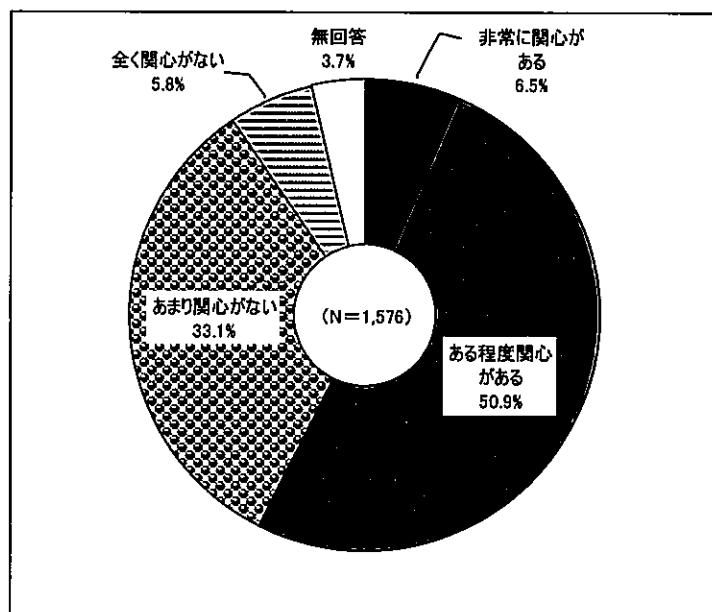
問1 あなたは、ボランティアやNPO活動にどの程度関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

- | | |
|-------------|-------|
| 1 非常に関心がある | 6.5% |
| 2 ある程度関心がある | 50.9% |
| 3 あまり関心がない | 33.1% |
| 4 全く関心がない | 5.8% |
| (無回答) | 3.7% |

ボランティアやNPO活動に対しての関心度について、「ある程度関心がある」(50.9%)が最も多く、次いで「あまり関心がない」(33.1%)、「非常に関心がある」(6.5%)、「全く関心がない」(5.8%)などとなっている。

図表 1-(1)-1 ボランティアやNPO活動に対しての関心度



ボランティアやN P O活動に対しての関心度について、

性別にみると、男女ともに「ある程度関心がある」が最も高く、その比率は『男性』(47.6%)、『女性』(55.2%) となっており、また「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた【関心がある】が、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせた【関心がない】を上回っている。

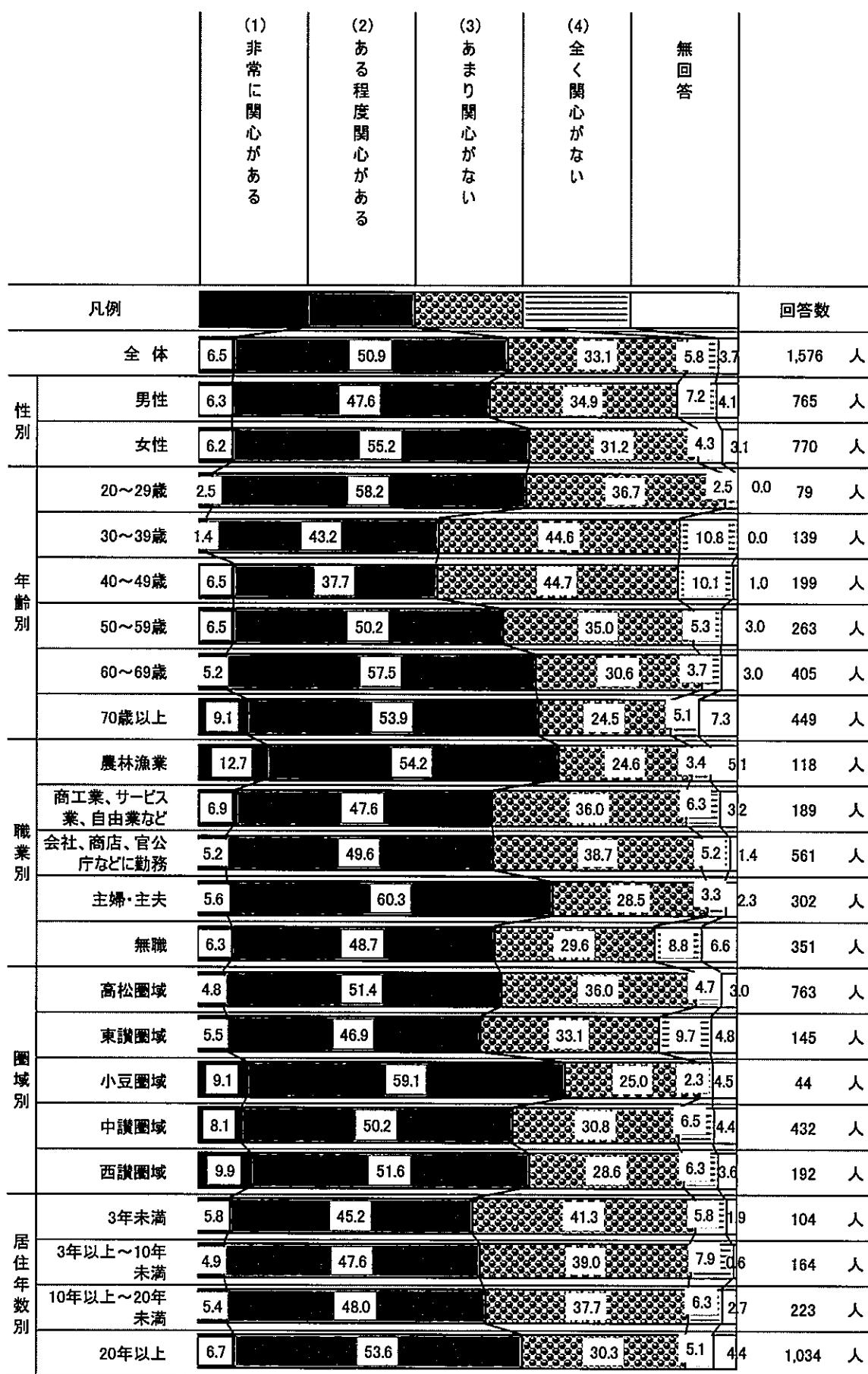
年齢別にみると、『30~39 歳』、『40~49 歳』では「あまり関心がない」が最も多く、【関心がない】が【関心がある】を上回っている。そのほかの年齢では、「ある程度関心がある」が半数を超える最も多く、また、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

職業別にみると、いずれも「ある程度関心がある」が最も多く、特に『主婦・主夫』では6割を超えており、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも「ある程度関心がある」が最も多く、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも「ある程度関心がある」が最も多く、特に『20年以上』では半数を超えており、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

図表 1-(1)-2 ボランティアやNPO活動に対しての関心度



グラフ単位:(%)

(2)ボランティアやNPO活動の経験の有無

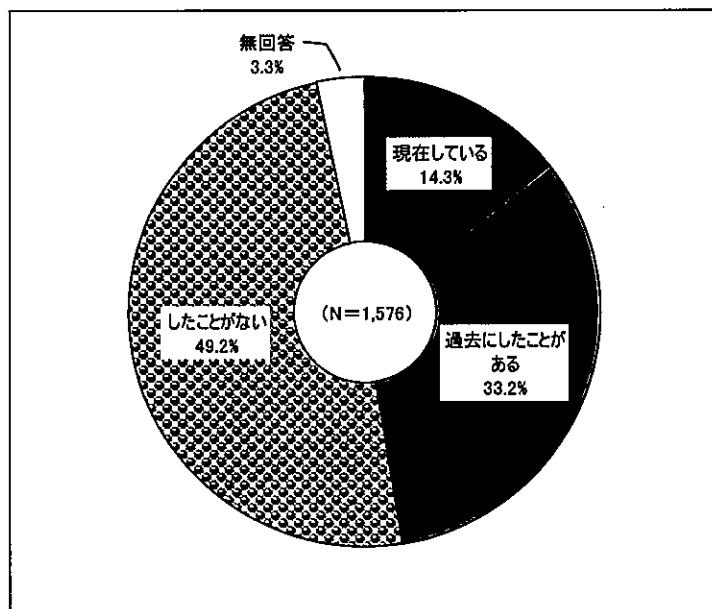
問2 あなたは、これまでにボランティアやNPO活動をしたことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

- | | | |
|--------------|---------------------|-------|
| 1 現在している | ⇒ 付問1にお進みください | 14.3% |
| 2 過去にしたことがある | ⇒ 付問1および付問3にお進みください | 33.2% |
| 3 したことがない | ⇒ 付問2および付問3にお進みください | 49.2% |
| (無回答) | | 3.3% |

ボランティアやNPO活動の経験の有無について、「したことがない」(49.2%)が最も多く、次いで「過去にしたことがある」(33.2%)、「現在している」(14.3%)などとなっている。

図表1-(2)-1 ボランティアやNPO活動の経験の有無



ボランティアやNPO活動の経験の有無について、

性別にみると、男女ともに「したことがない」が最も多く、その比率は『男性』(48.9%)、『女性』(49.9%)となっており、これに「過去にしたことがある」『男性』(32.7%)、『女性』(34.0%)が続いている。

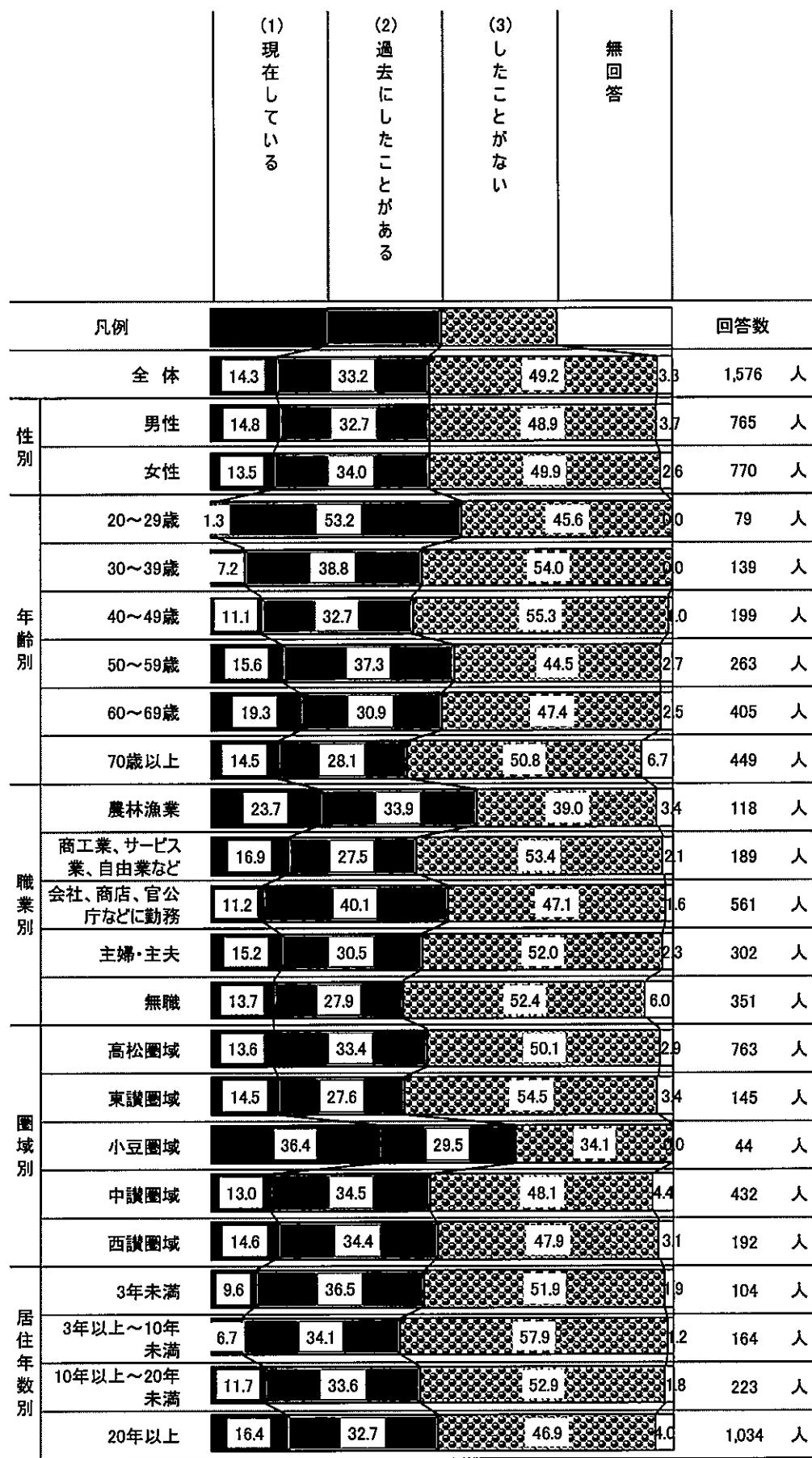
年齢別にみると、『20~29歳』では「過去にしたことがある」が半数を越えて最も多く、これに「したことがない」が続いている。そのほかの年齢ではいずれも「したことがない」が最も多く、これに、いずれも「過去にしたことがある」が続いている。

職業別にみると、いずれも「したことがない」が最も多く、これに「過去にしたことがある」が続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「現在している」が最も多く、これに「したことがない」が続いている。そのほかの圏域では「したことがない」が最も多く、これに「過去にしたことがある」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「したことがない」が最も多く、これに「過去にしたことがある」が続いている。

図表 1-(2)-2 ボランティアやNPO活動の経験の有無



グラフ単位:(%)

(3)これまでに経験があるボランティアやNPO活動

【問2で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問1 あなたがこれまでにしたことがあるボランティアやNPO活動を次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=748】

1 保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）	41.4%
2 社会教育関係（生涯学習、生きがいづくり支援活動など）	10.0%
3 まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）	59.6%
4 観光の振興関係（観光ボランティアなど）	4.7%
5 農山漁村の振興関係（農作業の援助など）	8.3%
6 学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）	29.7%
7 環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）	59.2%
8 災害救援関係（災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など）	28.1%
9 地域安全関係（交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など）	27.9%
10 人権擁護・平和の推進関係（家庭内暴力や差別問題解消活動など）	2.5%
11 国際交流・協力関係（通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など）	8.3%
12 男女共同参画関係（女性の自立支援活動、DV防止活動など）	1.5%
13 子どもの健全育成関係（子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など）	25.3%
14 情報化社会の発展関係（パソコン技能やIT（情報通信技術）の普及活動など）	1.1%
15 科学技術の振興関係（科学技術の普及活動など）	0.1%
16 経済活動の活性化関係（起業の支援、商店街の活性化活動など）	1.7%
17 職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係（就職支援、障害者の雇用支援活動など）	2.0%
18 消費者保護関係（消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など）	1.2%
19 ボランティアやNPO活動支援関係（ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など）	3.3%
20 その他（具体的に：)	4.0%
(無回答)	1.5%

これまでに経験があるボランティアやNPO活動について、「まちづくり関係」(59.6%) が最も多く、次いで「環境保全関係」(59.2%)、「保健・医療・福祉関係」(41.4%)、「学術・文化・芸術・スポーツ関係」(29.7%) などとなっている。

図表 1-(3)-1 これまでに経験があるボランティアやNPO活動

	回答数
全体	100.0
(1) 保健・医療・福祉関係(献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など)	41.4
(2) 社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	10.0
(3) まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	59.6
(4) 観光の振興関係(観光ボランティアなど)	4.7
(5) 農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	8.3
(6) 学術・文化・芸術・スポーツ関係(PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など)	29.7
(7) 環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など)	59.2
(8) 災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など)	28.1
(9) 地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	27.9
(10) 人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	2.5
(11) 国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など)	8.3
(12) 男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	1.5
(13) 子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話をなどの子育て支援、青少年非行防止活動など)	25.3
(14) 情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信技術)の普及活動など)	1.1
(15) 科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	0.1
(16) 経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	1.7
(17) 職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	2.0
(18) 消費者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	1.2
(19) ボランティアやNPO活動支援関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	3.3
(20) その他	4.0
無回答	1.5

グラフ単位:(%)

これまでに経験があるボランティアやNPO活動について、性別にみると、『男性』では「まちづくり関係」(62.3%)が、『女性』では「環境保全関係」(57.7%)が最も多くなっている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『50～59歳』では「環境保全関係」が半数を超え最も多く、『30～39歳』、『40～49歳』では「保健・医療・福祉関係」が、『60～69歳』、『70歳以上』では「まちづくり関係」がそれぞれ最も多くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「まちづくり関係」が7割を超え最も多く、これに「環境保全関係」が続いている。そのほかの職業では『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』では「まちづくり関係」、「環境保全関係」が同率で最も多く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「環境保全関係」が、『無職』では「まちづくり関係」が最も多くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「環境保全関係」が半数を超える最も多く、そのほかの圏域では「まちづくり関係」が6割を超える最も多くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「まちづくり関係」が6割を超える最も多く、そのほかでは「環境保全関係」が半数を超える最も多くなっている。

図表 1-(3)-2 これまでに経験があるボランティアやNPO活動

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	質問
回答者数(人)		高齢者・医療活動・福祉・手話・点字訳などの障害者支援活動など	社会教育関係(生涯学習・生きがいづくり支援活動など)	まちづくり関係(地域おこし活動・自治会・町内会の活動など)	被災者の援助関係(被災ボランティアなど)	登山・進歩の振興関係(登山学習・生きがいづくり支援活動など)	学術・文化・芸術・スポーツ関係(図書館・出版社でのボランティア活動・スポーツ教室の指導など)	環境保護関係(環境活動・花壇など)	地政・防災安全関係(交通安全・防犯活動・交通安全活動など)	男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	国際交流(寄付・留学生支援・海外支援活動など)	医療・募金など)	災害救援体制(災害時のボランティア活動・救援物資の提供など)	人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	情報化社会の発展関係(パソコン技術やIT情報通信技術などの普及活動など)	科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	職業能効力の開発・雇用機会の拡充・支援関係(就職支援者等の雇用・活動紹介など)	消費者防護関係(消費者教育・学習・商品知識や消費者権利の啓発活動など)	ボランティアやNPO活動支援関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	その他の活動		
単位:比率(%)																						
全体	746	41.4	10.0	59.6	4.7	8.3	29.7	59.2	28.1	27.8	2.5	8.3	1.5	25.3	1.1	0.1	1.7	2.0	1.2	3.3	4.0	1.5
性別																						
男性	363	36.1	8.8	62.3	6.1	11.8	27.5	60.6	27.3	30.3	3.3	8.9	1.0	19.8	1.4	0.3	1.1	2.5	1.1	3.0	4.7	2.5
女性	383	46.7	10.9	56.6	3.6	4.6	31.7	57.7	28.7	25.4	1.9	9.0	1.1	30.1	0.5	-	1.9	1.1	1.4	3.8	3.8	0.5
年齢別																						
20~29歳	43	51.2	2.3	30.2	-	2.3	9.3	58.1	18.3	-	-	4.7	-	7.0	-	-	-	2.3	-	4.7	2.3	-
30~39歳	64	60.9	4.7	32.8	-	3.1	29.7	40.6	29.7	10.9	1.6	12.5	-	12.5	-	-	-	-	-	-	3.1	-
40~49歳	87	49.4	4.6	47.1	3.4	-	47.1	42.5	33.3	24.1	1.1	6.0	1.1	39.1	-	-	-	2.3	-	4.6	3.4	2.3
50~59歳	139	42.4	7.2	64.7	5.0	4.3	48.2	69.1	28.1	32.4	2.2	10.8	1.4	32.4	-	-	0.7	1.4	0.7	4.3	5.8	-
60~69歳	203	36.0	9.4	66.5	3.9	10.3	24.1	64.5	30.0	33.5	3.0	8.4	1.5	24.6	2.5	-	2.5	1.5	1.0	2.5	3.0	1.5
70歳以上	191	34.0	18.3	69.6	8.9	15.7	18.3	60.7	25.7	32.5	4.2	5.2	2.6	22.0	1.0	0.5	2.6	2.8	3.1	4.2	5.2	3.1
職業別																						
農林漁業	66	32.4	19.1	79.4	5.9	42.6	28.5	70.8	42.6	51.5	1.5	7.4	1.5	32.4	1.5	-	-	2.9	2.8	2.8	2.8	-
商工業・サービス業・自由業など	64	36.9	11.8	52.4	7.1	6.0	28.8	52.4	29.8	21.4	3.6	7.1	-	27.4	-	-	4.6	2.4	4.8	7.1	2.4	1.2
会社・商店・官公署などに勤務	288	48.3	5.2	52.4	1.7	1.7	35.8	59.3	27.4	22.9	1.4	8.0	1.0	28.7	0.3	-	-	1.4	-	3.1	3.8	1.0
主婦・主夫	138	41.3	13.8	62.3	5.6	7.2	28.3	62.3	27.5	32.6	1.4	8.7	2.8	28.0	1.4	-	2.2	1.4	1.4	4.3	4.3	1.4
無職	146	35.6	10.3	66.4	8.2	7.5	19.8	61.6	21.9	26.7	6.2	8.2	2.1	13.7	2.1	0.7	2.7	2.1	0.7	4.1	5.5	3.4
都道府県																						
高松圏域	359	37.9	8.4	54.3	4.2	8.4	29.0	59.9	28.2	28.4	1.9	9.5	1.7	25.1	1.1	0.3	2.2	2.2	1.4	3.1	3.8	1.8
東横圏域	61	41.0	6.6	62.3	4.9	9.8	29.5	54.1	20.5	19.7	1.6	6.6	-	18.0	-	-	-	-	-	1.6	1.6	-
小笠圏域	29	48.3	6.8	75.9	8.9	10.3	37.9	62.1	37.9	20.7	6.9	10.3	-	27.6	-	-	3.4	-	8.9	3.4	3.4	-
中横圏域	205	42.4	13.2	64.9	5.4	8.8	30.7	60.0	28.3	30.2	3.9	6.6	2.0	24.4	1.0	-	2.0	2.4	1.0	3.9	5.4	1.5
西横圏域	94	51.1	12.8	61.7	4.3	5.3	27.7	57.4	30.9	28.7	1.1	7.4	1.1	31.9	2.1	-	2.1	-	4.3	3.2	1.1	-
居住年数別																						
3年末満	48	47.0	4.2	29.2	4.2	2.1	22.0	50.0	22.9	8.3	2.1	6.3	-	10.4	-	-	-	-	-	2.1	4.2	-
3年以上~10年末満	67	50.7	-	40.3	1.5	-	31.3	58.2	32.8	23.9	1.5	11.9	3.0	31.3	-	-	-	3.0	-	3.0	6.0	-
10年以上~20年末満	101	40.6	8.9	51.5	4.0	5.0	34.7	55.4	28.7	20.8	-	10.9	-	25.7	2.0	-	1.0	-	-	3.0	4.0	2.0
20年以上	506	40.0	11.8	66.0	5.5	10.4	29.1	61.2	27.8	31.9	3.3	6.8	1.8	25.6	1.0	0.2	2.0	2.2	1.8	3.7	3.7	1.8

(4) ボランティアやNPO活動をしたことがない理由

【問2で「3」と答えた方にお聞きします】

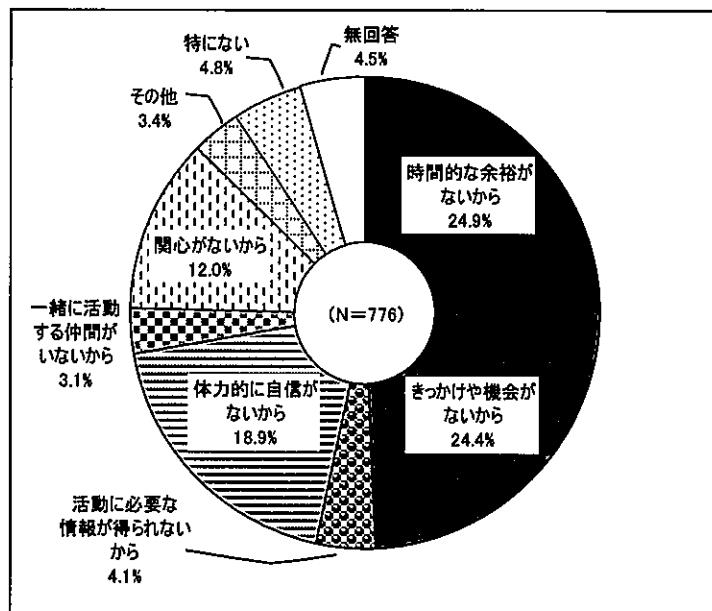
付問2 あなたがボランティアやNPO活動をしたことがない理由を、次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=776】

1 時間的な余裕がないから	24.9%
2 きっかけや機会がないから	24.4%
3 活動に必要な情報が得られないから	4.1%
4 体力的に自信がないから	18.9%
5 一緒に活動する仲間がいないから	3.1%
6 関心がないから	12.0%
7 その他（具体的に）	3.4%
8 特にない	4.8%
(無回答)	4.5%

ボランティアやNPO活動をしたことがない理由について、「時間的な余裕がないから」(24.9%) が最も多く、次いで「きっかけや機会がないから」(24.4%)、「体力的に自信がないから」(18.9%)、「関心がないから」(12.0%) などとなっている。

図表 1-(4)-1 ボランティアやNPO活動をしたことがない理由



ボランティアやNPO活動をしたことがない理由について、

性別にみると、『男性』では「時間的な余裕がないから」(26.7%)が最も多く、これに「きっかけや機会がないから」(23.5%)が続いている。『女性』では「きっかけや機会がないから」(25.3%)が最も多く、これに「体力的に自信がないから」(23.7%)が続いている。

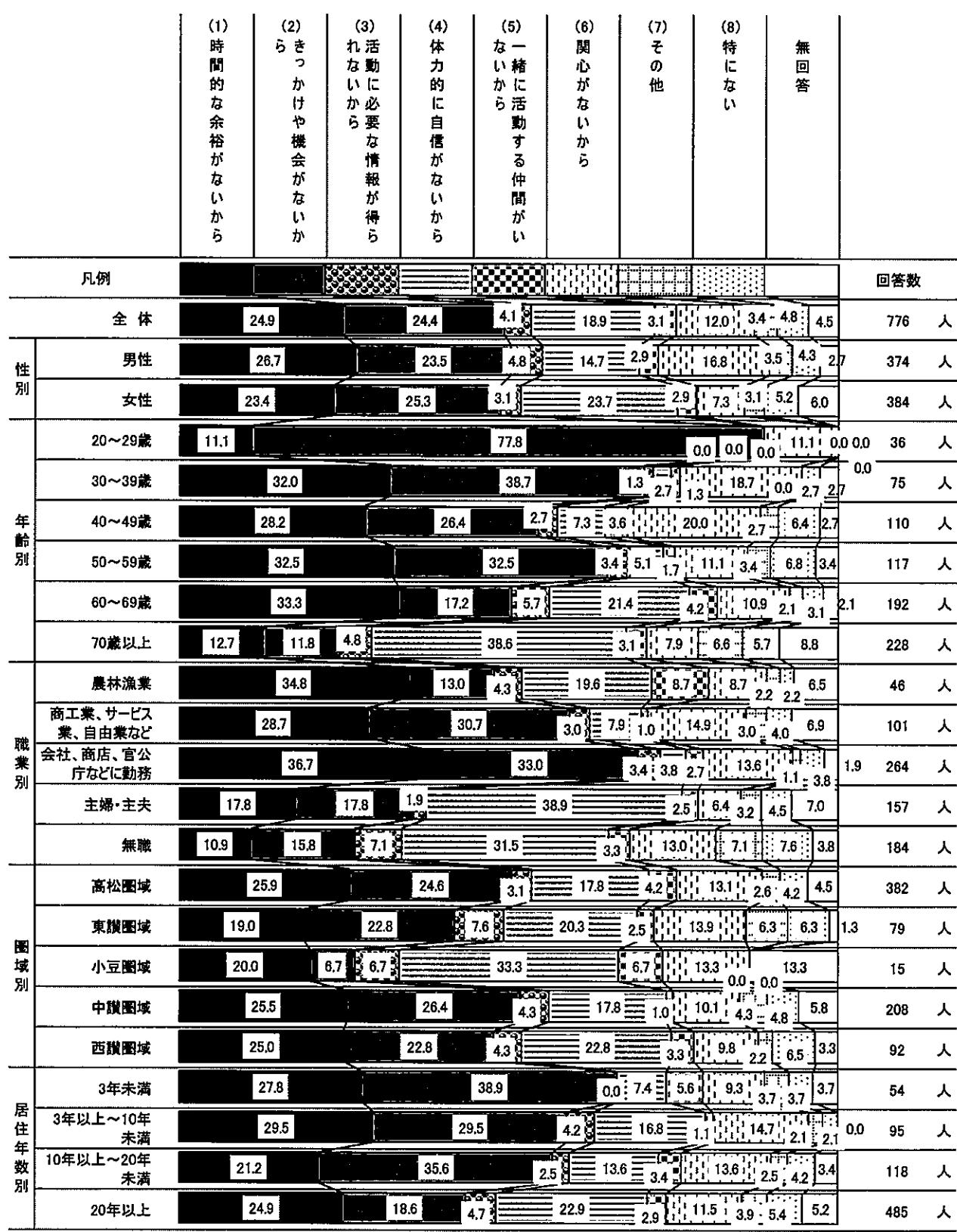
年齢別にみると、『20~29歳』、『30~39歳』では「きっかけや機会がないから」が最も多く、『40~49歳』、『60~69歳』では「時間的な余裕がないから」が最も多くなっている。また、『50~59歳』では「時間的な余裕がないから」、「きっかけや機会がないから」が同率で最も多く、『70歳以上』では「体力的に自信がないから」が最も多くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「時間的な余裕がないから」が最も多く、『商工業、サービス業、自由業など』では「きっかけや機会がないから」が最も多くなっている。『主婦・主夫』、『無職』では「体力的に自信がないから」が最も多くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『西讃圏域』では「時間的な余裕がないから」が最も多く、『東讃圏域』、『中讃圏域』では「きっかけや機会がないから」が最も多くなっている。また、『小豆圏域』では「体力的に自信がないから」が最も多くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『10年以上~20年未満』では「きっかけや機会がないから」が最も多く、『20年以上』では「時間的な余裕がないから」が最も多くなっている。また、『3年以上~10年未満』では「時間的な余裕がないから」、「きっかけや機会がないから」が同率で最も多くなっている。

図表 1-(4)-2 ボランティアやNPO活動をしたことがない理由



グラフ単位:(%)

(5) 今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うか

【問2で「2」または「3」と答えた方にお聞きします】

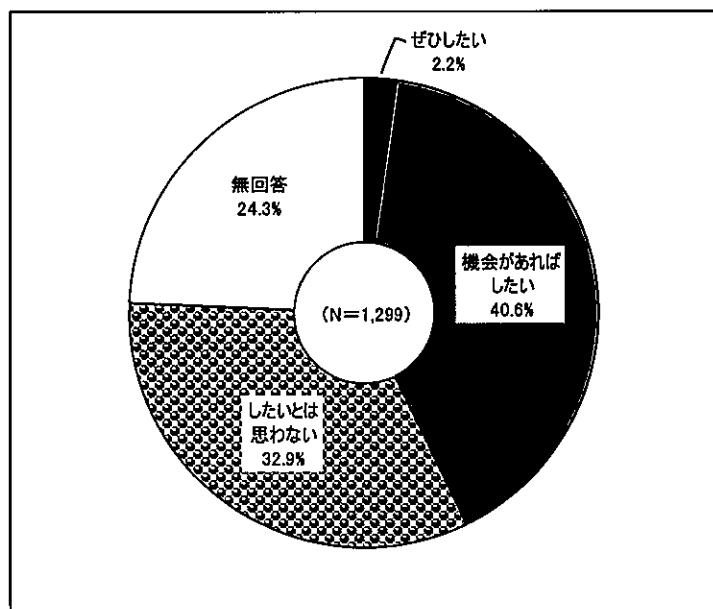
付問3 あなたは、今後ボランティアやNPO活動をしたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,299】

- | | |
|-------------|-------|
| 1 ゼひしたい | 2.2% |
| 2 機会があればしたい | 40.6% |
| 3 したいとは思わない | 32.9% |
| (無回答) | 24.3% |

今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うかについて、「機会があればしたい」(40.6%)が最も多く、次いで「したいとは思わない」(32.9%)、「ぜひしたい」(2.2%)などとなってい る。

図表 1-(5)-1 今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うか



今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うかについて、

性別にみると、男女ともに「機会があればしたい」が最も多く、その比率は『男性』(38.3%)、『女性』(43.0%) となっており、これに「ぜひしたい」を合わせた【したいと思う】が「したいとは思わない」を上回っている。

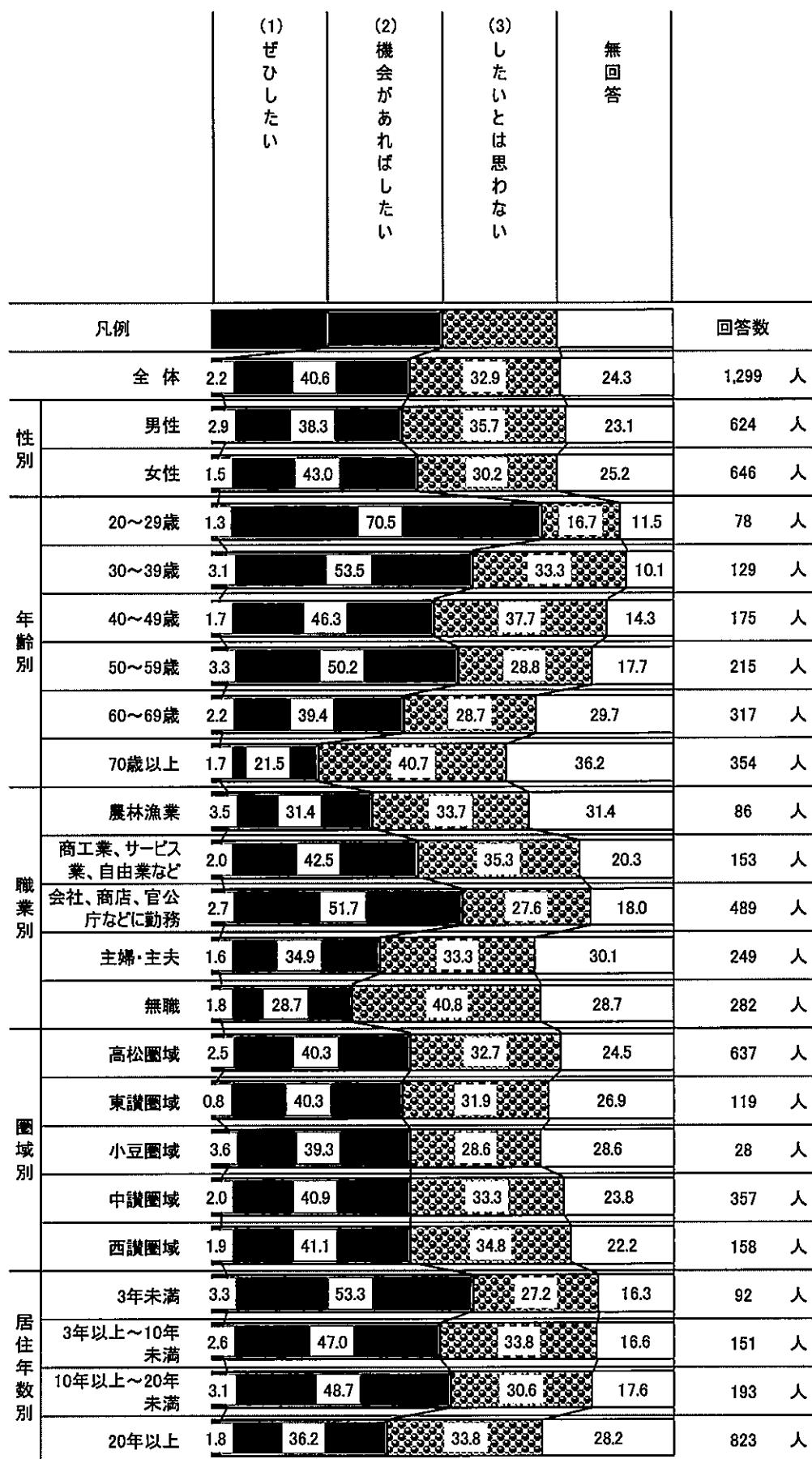
年齢別にみると、『70歳以上』では「したいとは思わない」が最も多く、【したいと思う】を上回っている。一方そのほかの年齢では「機会があればしたい」が最も多く、【したいと思う】が「したいとは思わない」を上回っている。

職業別にみると、『無職』では「したいとは思わない」が最も多く、【したいと思う】を上回っている。一方そのほかの職業では【したいと思う】が「したいとは思わない」を上回っている。

圏域別にみると、いずれも「機会があればしたい」が最も多くなっている。また、いずれも【したいと思う】が「したいとは思わない」を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも「機会があればしたい」が最も多く、特に『3年未満』では半数を超え最も多くなっている。また、いずれも【したいと思う】が「したいとは思わない」を上回っている。

図表 1-(5)-2 今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うか



グラフ単位:(%)

(6) 今後、してみたいボランティアやNPO活動

【付問3で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問3.1 今後してみたいボランティアやNPO活動を問2付問1の1~20までの活動分野から2つまで選んで、番号を記入してください。

①ぜひとと回答した人の希望する活動分野【回答者数=28】

②機会があればしたいと回答した人の希望する活動分野【回答者数=527】

	①	②
1 保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）	25.0%	19.0%
2 社会教育関係（生涯学習、生きがいづくり支援活動など）	7.1%	8.5%
3 まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）	32.1%	24.7%
4 観光の振興関係（観光ボランティアなど）	10.7%	11.0%
5 農山漁村の振興関係（農作業の援助など）	17.9%	7.6%
6 学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）	10.7%	11.6%
7 環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）	28.6%	28.3%
8 災害救援関係（災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など）	14.3%	17.5%
9 地域安全関係（交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など）	14.3%	7.6%
10 人権擁護・平和の推進関係（家庭内暴力や差別問題解消活動など）	0.0%	1.7%
11 国際交流・協力関係（通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など）	3.6%	4.6%
12 男女共同参画関係（女性の自立支援活動、DV防止活動など）	0.0%	2.5%
13 子どもの健全育成関係（子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など）	3.6%	12.3%
14 情報化社会の発展関係（パソコン技能やIT（情報通信技術）の普及活動など）	3.6%	2.1%
15 科学技術の振興関係（科学技術の普及活動など）	0.0%	1.1%
16 経済活動の活性化関係（起業の支援、商店街の活性化活動など）	0.0%	1.5%
17 職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係（就職支援、障害者の雇用支援活動など）	3.6%	1.5%
18 消費者保護関係（消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など）	0.0%	2.3%
19 ボランティアやNPO活動支援関係（ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など）	0.0%	1.3%
20 その他（具体的に： （無回答）	3.6%	0.2%
	3.6%	11.6%

図表 1-(6)-1 今後ぜひしたいボランティアやNPO活動

	回答数
全体	100.0
(1) 保健・医療・福祉関係(献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など)	25.0
(2) 社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	7.1
(3) まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	32.1
(4) 観光の振興関係(観光ボランティアなど)	10.7
(5) 農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	17.9
(6) 学術・文化・芸術・スポーツ関係(PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など)	10.7
(7) 環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など)	28.6
(8) 災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など)	14.3
(9) 地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	14.3
(10) 人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	0.0
(11) 国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など)	3.6
(12) 男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	0.0
(13) 子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など)	3.6
(14) 情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信技術)の普及活動など)	3.6
(15) 科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	0.0
(16) 経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	0.0
(17) 職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	3.6
(18) 消費者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	0.0
(19) ボランティアやNPO活動支援関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	0.0
(20) その他	3.6
無回答	3.6

グラフ単位:(%)

図表 1-(6)-2 今後機会があればしたいボランティアやNPO活動

	回答数
全体	100.0
	527 人
(1) 保健・医療・福祉関係(献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など)	19.0
(2) 社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	8.5
(3) まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	24.7
(4) 観光の振興関係(観光ボランティアなど)	11.0
(5) 農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	7.6
(6) 学術・文化・芸術・スポーツ関係(PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など)	11.6
(7) 環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など)	28.3
(8) 災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など)	17.5
(9) 地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	7.6
(10) 人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	1.7
(11) 国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など)	4.6
(12) 男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	2.5
(13) 子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など)	12.3
(14) 情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信技術)の普及活動など)	2.1
(15) 科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	1.1
(16) 経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	1.5
(17) 職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	1.5
(18) 消費者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	2.3
(19) ボランティアやNPO活動支援関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	1.3
(20) その他	0.2
無回答	11.6

グラフ単位:(%)

今後ぜひしたいボランティアやNPO活動について、「まちづくり関係」(32.1%)が最も多く、次いで「環境保全関係」(28.6%)、「保健・医療・福祉関係」(25.0%)などとなっている。

また、今後機会があればしたいボランティアやNPO活動について、「環境保全関係」(28.3%)が最も多く、次いで「まちづくり関係」(24.7%)、「保健・医療・福祉関係」(19.0%)などとなっている。

今後機会があればしたいボランティアやNPO活動について、性別にみると、『男性』では「まちづくり関係」(29.3%)が最も多く、これに「環境保全関係」(28.5%)が続いている。『女性』では「環境保全関係」(28.4%)が最も多く、これに「保健・医療・福祉関係」(24.5%)が続いている。

年齢別にみると、『20~29歳』、『30~39歳』では「保健・医療・福祉関係」が最も多く、『50~59歳』、『60~69歳』、『70歳以上』では「環境保全関係」が最も多くなっている。また『40~49歳』では「災害救援関係」が最も多くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『無職』では「まちづくり関係」が最も多く、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「環境保全関係」が最も多くなっている。『農林漁業』では「まちづくり関係」、「環境保全関係」が同率で最も多くなっている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「環境保全関係」が最も多くなっている。一方『西讃圏域』では「まちづくり関係」が最も多くなっている。また、『小豆圏域』では「観光の振興関係」、「環境保全関係」が同率で最も多くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「災害救援関係」が最も多くなっている。一方『3年以上~10年未満』では「子どもの健全育成関係」が、『20年以上』では「環境保全関係」が最も多くなっている。また『10年以上~20年未満』では「保健・医療・福祉関係」、「環境保全関係」が同率で最も多くなっている。

図表 1-(6)-3 今後ぜひしたいボランティアやNPO活動

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	
回答者数(人)		蒲光のボランティア	高松のボランティア	まちづくり関係(地域おこし活動・自治会・町内会の活動など)	社会教育関係(生涯学習・生きがいづくり支援活動など)	保健・医療活動・福祉関係(献血・献血ボランティアなど)	高齢者支援活動(手話・盲導犬などの障害者支援活動など)	農山漁村のボランティア	環境保全関係(資源のゴミ分別などの環境美化活動・花壇など)	学術・文化・芸術・スポーツ・飲食・美術館など	防災・救護関係(災害時のボランティア活動・救援物資の提供・募金など)	地場安全網体(交通安全・防犯活動・更生支援活動・自衛防災活動など)	人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解決活動など)	男女共同参画関係(女性の自立支援活動・DV防止活動など)	情報化社会の発展関係(パソコン技術の普及活動など)	科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	経済活動の活性化関係(起業の支援・商店街の活性化活動など)	被災者保護関係(被災者教育・学習・商品知識や消費安全技術への普及活動など)	P.O.に関する相談やN.P.O.活動支援関係(ボランティア・N.P.O.の紹介など)	被害防止の普及活動(被害防止の普及活動など)	ボランティアの開発・雇用機会の拡充・支援団体(就職支援など)	その他
単位:比率(%)																						
全体		28	25.0	7.1	32.1	10.7	17.9	10.7	28.6	14.3	14.3	-	3.6	3.6	-	3.6	-	3.6	3.6	3.6		
性別	男性	16	16.7	5.6	44.4	5.6	22.2	16.7	22.2	16.7	22.2	-	-	-	-	5.6	-	5.6	-	-		
	女性	10	40.0	10.0	10.0	20.0	10.0	-	40.0	10.0	-	10.0	-	10.0	-	-	-	-	10.0	10.0		
年齢別	20~29歳	1	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	30~39歳	4	25.0	-	50.0	-	25.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	40~49歳	3	-	33.3	66.7	-	-	-	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	50~59歳	7	57.1	-	28.6	28.6	28.6	-	14.3	-	-	-	-	14.3	-	-	-	-	-	14.3		
	60~69歳	7	28.6	-	14.3	-	14.3	14.3	14.3	28.6	28.6	-	-	-	-	-	-	14.3	-	14.3		
	70歳以上	6	-	16.7	33.3	-	16.7	-	33.3	33.3	16.7	-	16.7	-	16.7	-	-	-	-	-		
職業別	農林漁業	3	-	-	66.7	33.3	66.7	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	商工業、サービス業、自由業など	3	-	-	-	-	33.3	33.3	-	33.3	33.3	-	-	33.3	-	33.3	-	33.3	-	-		
	会社、商店、官公庁などに勤務	13	46.2	7.7	46.2	7.7	15.4	15.4	46.2	-	-	-	-	7.7	-	-	-	-	-	-		
	主婦・主夫	4	-	25.0	-	-	-	-	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	25.0		
	無職	5	20.0	-	20.0	20.0	-	-	-	40.0	60.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	高松開域	16	18.8	6.3	25.0	18.8	25.0	12.5	25.0	18.8	18.8	-	-	6.3	6.3	-	-	-	-	6.3		
地域別	東横開域	1	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	小豆開域	1	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	中横開域	7	42.9	14.3	28.6	-	-	14.3	-	14.3	-	14.3	-	-	-	-	-	14.3	-	14.3		
	西横開域	3	33.3	-	33.3	-	-	-	100.0	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	3年未満	3	33.3	-	100.0	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
居住年数別	3年以上~10年未満	4	-	-	25.0	25.0	-	-	50.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0		
	10年以上~20年未満	6	16.7	16.7	16.7	-	-	33.3	50.0	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7		
	20年以上	15	33.3	6.7	26.7	13.3	26.7	-	20.0	13.3	20.0	6.7	-	6.7	6.7	-	6.7	-	-	-		

図表 1-(6)-4 今後機会があればしたいボランティアやNPO活動

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	総回答	
回答者数(人)		高齢者・虐待・暴力・虐待活動など	社会教育関係(生涯学習・生きがいづくり支援活動など)	まちづくり団体(地域おこし活動・自治会・町内会の活動など)	農光の振興団体(電光ボランティアなど)	農山漁村の振興団体(農作業の援助など)	環境保全団体(環境美化活動、花壇など)	環境保全団体(環境美化活動、花壇など)	災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供・募金など)	地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、消防活動など)	人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	動物・医療・募金など	男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	児童の健全育成関係(子ども会・青少年育てサロンや乳幼児の世話をなどの子育て支援活動など)	情報化社会の先駆者関係(パソコン技能やIT情報通信技術)の普及活動など)	科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	経済活性化活動(起業の支援・商店街の活性化活動など)	被験者保護関係(消費者教育・学習・商品知識や消費者権利の開発・児童扶養金の拡充・支援活動など)	P.Oに携わる者(ボランティアやNPO活動支援団体)の開発・児童扶養金の拡充・支援活動など)	被験者保護者の普及活動などを	その他のボランティアやNPO活動支援団体(ボランティア・NPOに携わる者)の開発・児童扶養金の拡充・支援活動などを		
単位:比率(%)																							
全体	527	19.0	8.5	24.7	11.0	7.6	11.6	28.3	17.5	7.6	1.7	4.6	2.5	12.3	2.1	1.1	1.5	1.5	2.3	1.3	0.2	11.6	
性別																							
男性	239	13.0	5.4	29.3	13.4	11.7	11.3	28.5	24.3	10.9	1.3	4.2	0.4	6.3	3.8	2.5	2.5	0.8	1.3	0.4	-	10.5	
女性	278	24.5	11.2	20.9	9.4	4.3	12.2	28.4	11.8	5.0	2.2	5.0	4.3	17.8	0.7	-	0.7	1.8	2.9	2.2	0.4	11.5	
年齢別																							
20~29歳	55	23.6	1.8	21.8	14.5	5.5	20.0	21.8	21.8	1.8	3.6	5.5	5.5	18.4	5.5	1.8	3.6	-	1.8	-	1.8	5.5	
30~39歳	69	29.0	2.9	23.2	10.1	11.6	11.8	17.4	24.8	4.3	-	5.8	2.9	21.7	1.4	1.4	2.9	4.3	2.9	2.9	-	5.8	
40~49歳	81	24.7	8.2	14.8	19.8	4.8	17.3	19.8	27.2	3.7	3.7	8.6	3.7	14.8	1.2	-	3.7	-	2.5	1.2	-	2.5	
50~59歳	108	24.1	11.1	25.0	9.3	7.4	13.0	31.5	15.7	9.3	-	5.6	1.9	11.1	4.8	3.7	-	0.9	0.9	0.9	-	7.4	
60~69歳	125	13.6	12.0	28.8	7.2	6.4	5.6	32.8	12.0	12.8	2.4	2.4	2.4	8.0	-	-	0.8	2.4	1.6	2.4	-	18.4	
70歳以上	76	1.3	11.8	31.6	10.5	11.8	7.9	42.1	10.5	9.2	1.3	1.3	-	6.6	1.3	-	-	-	3.8	-	-	22.4	
職業別																							
農林漁業	27	11.1	3.7	40.7	7.4	29.6	3.7	40.7	11.1	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10.5	
製工業、サービス業、自由業など	65	15.4	12.3	28.2	18.5	6.2	7.7	21.5	18.5	12.3	3.1	7.7	-	12.3	1.5	-	1.5	1.5	1.5	3.1	-	10.8	
会社、商店、官公庁などに勤務	253	24.5	7.9	17.8	11.5	7.1	14.6	28.5	21.7	8.3	2.0	5.1	3.6	13.8	2.8	2.0	2.0	2.0	2.0	1.2	0.4	5.1	
主婦・主夫	87	18.5	10.3	23.0	6.9	1.1	6.9	31.0	10.3	3.4	1.1	2.3	4.6	18.4	1.1	-	-	1.1	3.4	2.3	-	20.7	
無職	81	6.2	7.4	38.3	11.1	11.1	13.6	28.4	14.8	8.6	1.2	4.8	-	4.8	2.5	1.2	2.5	-	1.2	-	-	17.3	
■区域別																							
高松圏域	257	21.4	7.4	21.4	9.7	7.4	14.0	26.5	18.3	6.2	1.9	5.1	3.9	14.8	2.7	1.6	2.3	1.9	3.1	2.3	-	8.6	
東部圏域	48	27.1	8.3	28.2	20.8	10.4	4.2	35.4	16.7	12.5	-	8.3	2.1	4.2	-	-	-	-	2.1	-	-	6.3	
小豆圏域	11	8.1	-	9.1	36.4	8.1	8.1	36.4	8.1	18.2	-	9.1	-	18.2	-	-	-	-	-	9.1	-	9.1	
中西部圏域	146	12.3	11.0	26.7	9.6	6.2	10.3	27.4	17.8	6.2	2.1	3.4	0.7	11.0	2.7	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	-	0.7	17.1
西部圏域	65	20.0	8.2	32.3	7.7	9.2	10.8	30.8	15.4	10.6	1.5	1.5	1.5	10.8	-	-	-	1.5	1.5	-	-	15.4	
居住年数別																							
3年未満	49	24.5	4.1	18.4	18.4	6.1	14.3	24.5	28.6	4.1	2.0	4.1	6.1	10.2	2.0	4.1	2.0	2.0	2.0	-	-	8.1	
3年以上~10年未満	71	18.3	2.8	18.9	12.7	8.5	14.1	16.9	14.1	7.0	-	7.0	5.6	23.9	2.8	1.4	2.8	2.8	4.2	5.6	-	12.7	
10年以上~20年未満	94	27.7	13.8	17.0	11.7	6.4	10.6	27.7	20.2	5.3	3.2	4.3	2.1	13.8	3.2	1.1	2.1	2.1	-	-	-	5.3	
20年以上	298	15.4	9.1	30.2	9.7	8.4	11.1	32.6	16.1	8.4	1.7	4.4	1.3	9.4	1.7	0.7	1.0	0.7	2.0	1.0	0.3	12.8	

2. 防災意識・防災対策について

(1) 大地震が起きた場合の心配事

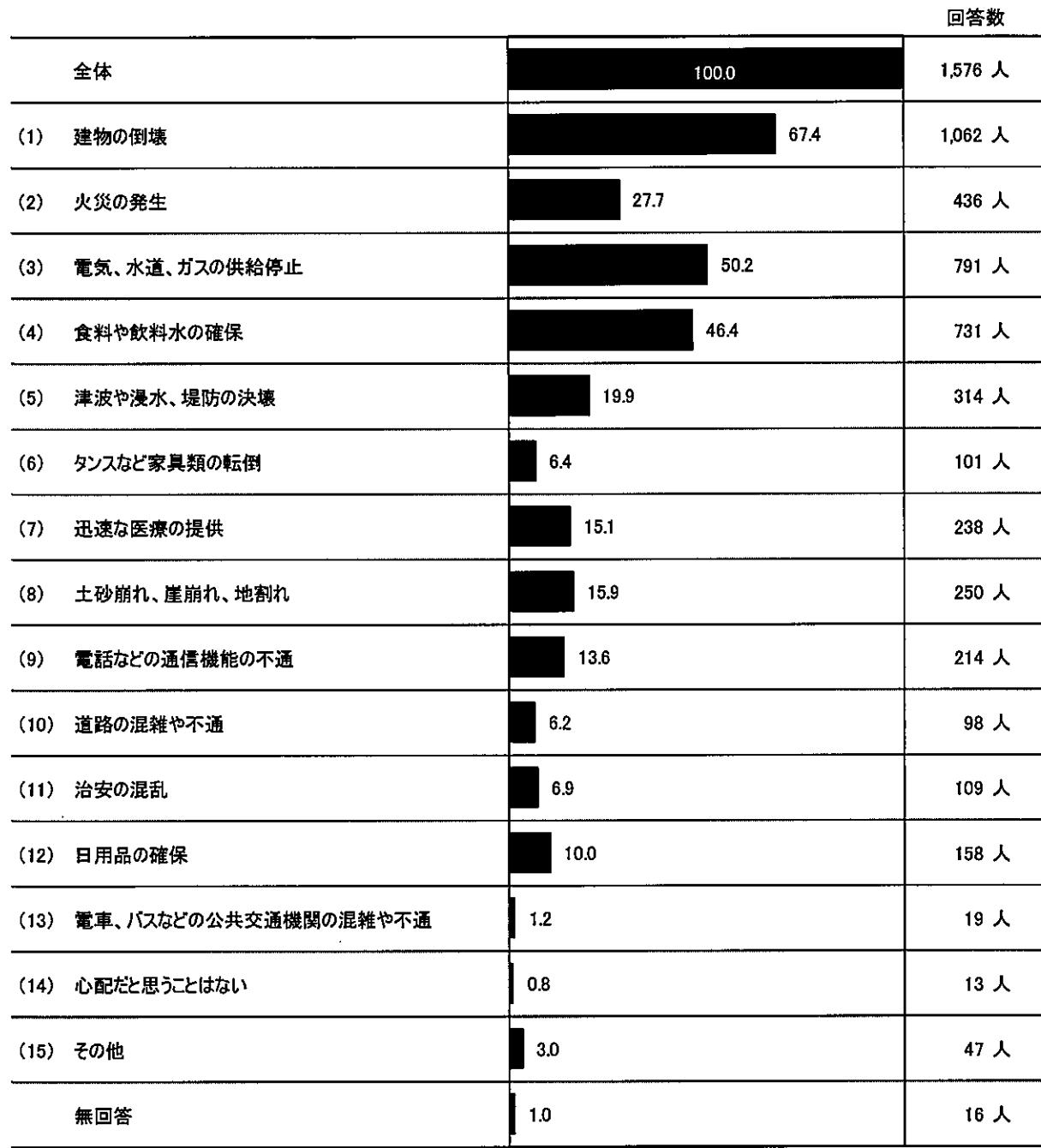
問3 あなたは、もし南海トラフ地震のような大地震が起きた場合、どのようなことが心配ですか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1 建物の倒壊	67.4%
2 火災の発生	27.7%
3 電気、水道、ガスの供給停止	50.2%
4 食料や飲料水の確保	46.4%
5 津波や浸水、堤防の決壊	19.9%
6 タンスなど家具類の転倒	6.4%
7 迅速な医療の提供	15.1%
8 土砂崩れ、崖崩れ、地割れ	15.9%
9 電話などの通信機能の不通	13.6%
10 道路の混雑や不通	6.2%
11 治安の混乱	6.9%
12 日用品の確保	10.0%
13 電車、バスなどの公共交通機関の混雑や不通	1.2%
14 心配だと思うことはない	0.8%
15 その他（具体的に：）	3.0%
(無回答)	1.0%

大地震が起きた場合の心配事について、「建物の倒壊」(67.4%) が最も多く、次いで「電気、水道、ガスの供給停止」(50.2%)、「食料や飲料水の確保」(46.4%)、「火災の発生」(27.7%)などとなっている。

図表 2-(1)-1 大地震が起きた場合の心配事



グラフ単位:(%)

大地震が起こった場合の心配事について、

性別にみると、男女ともに「建物の倒壊」が6割を超え最も多く、その比率は『男性』(69.8%)、『女性』(64.9%)となっており、これに「電気、水道、ガスの供給停止』『男性』(50.2%)、『女性』(50.5%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「建物の倒壊」が半数を越え最も多くなっている。これに『20~29歳』、『30~39歳』、『40~49歳』では「食料や飲料水の確保」が、そのほかの年齢では「電気、水道、ガスの供給停止」が続いている。

職業別にみると、いずれも「建物の倒壊」が6割を超え最も多く、これに『会社、商店、官公庁などに勤務』では「食料や飲料水の確保」が、そのほかの職業では「電気、水道、ガスの供給停止」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「建物の倒壊」が6割を超え最も多くなっている。これに『西讃圏域』では「食料や飲料水の確保」が、『高松圏域』、『東讃圏域』、『中讃圏域』では「電気、水道、ガスの供給停止」が、『小豆圏域』では「電気、水道、ガスの供給停止」、「食料や飲料水の確保」が同率で続いている。

居住年数別にみると、いずれも「建物の倒壊」が半数を超える最も多く、特に『20年以上』が7割を超え最も多くなっている。これに『20年以上』では「電気、水道、ガスの供給停止」が、そのほかでは「食料や飲料水の確保」が続いている。

図表 2-(1)-2 大地震が起きた場合の心配事

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)		
		回答者数(人)	建物の倒壊	火災の発生	電気・水道・ガスの供給停止	食料や飲料水の確保	津波や浸水・堤防の決壊	タンスなど家具類の転倒	迅速な医療の提供	土砂崩れ・崖崩れ・地割れ	電話などの通信機能の不通	道路の混雑や不通	治安の混乱	日用品の確保	電車・バスなどの公共交通機関の混雑や不通	心配だと思うことはない	その他	無回答
単位:比率(%)																		
全体		1,576	67.4	27.7	50.2	46.4	19.9	6.4	15.1	15.9	13.6	6.2	6.9	10.0	1.2	0.8	3.0	1.0
性別	男性	765	69.8	29.3	50.2	45.0	19.2	6.5	14.6	18.4	10.8	6.7	7.7	9.0	0.4	0.9	2.0	0.9
	女性	770	64.9	25.6	50.5	47.9	21.0	6.5	15.7	13.4	16.4	5.7	6.1	11.0	1.8	0.8	4.0	0.9
年齢別	20~29歳	79	67.1	15.2	29.1	57.0	25.3	1.3	20.3	8.9	31.6	3.8	11.4	13.9	2.5	1.3	5.1	-
	30~39歳	139	68.3	23.0	43.2	51.8	26.6	6.5	13.7	12.2	11.5	4.3	12.2	14.4	1.4	-	5.0	-
	40~49歳	199	59.8	24.1	46.7	57.8	22.6	6.0	19.1	11.1	16.6	3.5	7.5	10.1	-	1.0	7.0	0.5
	50~59歳	263	67.3	24.0	55.9	51.7	16.0	5.7	11.4	16.3	8.4	5.7	9.1	14.1	0.8	0.8	3.8	0.8
	60~69歳	405	71.4	29.4	50.9	40.7	22.5	6.4	14.6	20.5	11.4	8.1	6.4	7.4	1.5	0.5	0.7	1.0
	70歳以上	449	66.6	32.7	54.1	39.4	18.9	8.2	15.6	16.0	15.1	8.9	3.6	7.8	1.1	1.3	1.8	1.8
職業別	農林漁業	118	66.9	23.7	48.3	32.2	21.2	6.8	11.9	28.8	14.4	6.8	6.8	5.1	-	1.7	2.5	5.1
	商工業、サービス業、自由業など	189	69.8	36.0	49.7	46.0	13.8	4.8	13.8	15.9	15.3	5.3	7.4	10.6	-	-	2.1	1.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	66.1	24.8	47.1	54.9	22.6	5.3	14.6	14.8	13.5	6.2	8.4	11.6	1.1	0.4	3.6	0.2
	主婦・主夫	302	63.2	25.5	58.6	41.1	18.2	7.0	14.6	15.2	15.6	6.6	5.6	11.6	1.7	1.3	4.0	1.0
	無職	351	71.2	29.6	49.9	42.7	20.8	8.8	17.9	14.0	10.5	6.0	5.1	7.4	1.7	1.4	2.0	0.9
地域別	高松圏域	763	65.5	28.6	52.3	45.1	18.3	7.1	15.2	16.4	14.2	6.4	7.1	11.0	1.0	1.0	2.5	0.9
	東讃圏域	145	72.4	24.1	44.1	42.1	25.5	4.8	13.1	24.1	15.2	6.9	4.1	11.7	0.7	0.7	1.4	0.7
	小豆圏域	44	72.7	25.0	50.0	50.0	27.3	-	18.2	15.9	11.4	2.3	-	4.5	-	-	6.8	2.3
	中讃圏域	432	64.6	27.3	52.3	48.4	18.8	6.5	15.7	13.2	13.4	6.9	7.2	8.6	1.9	0.9	3.9	1.4
	西讃圏域	192	76.0	28.1	41.7	49.5	22.9	6.3	14.1	13.5	10.9	4.2	9.4	9.4	1.0	-	3.1	0.5
居住年数別	3年未満	104	55.8	15.4	45.2	54.8	22.1	3.8	19.2	11.5	14.4	6.7	13.5	12.5	1.9	2.9	4.8	1.9
	3年以上~10年未満	164	59.1	27.4	47.0	51.8	21.3	6.1	20.1	8.5	18.3	6.1	9.8	10.4	1.8	1.8	4.9	-
	10年以上~20年未満	223	59.2	24.2	55.2	55.6	19.7	4.5	11.7	13.0	17.0	5.4	7.2	14.3	0.4	-	5.4	-
	20年以上	1,034	71.5	29.3	50.7	42.6	20.0	7.1	14.7	18.3	11.9	6.4	5.7	8.8	1.0	0.7	2.0	1.2

(2) 南海トラフ地震に備えて現在取り組んでいる対策

問4 あなたは、南海トラフ地震に備えて、どのような対策をとっていますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=1,576】

1 携帯ラジオや懐中電灯を準備している	65.9%
2 近くの学校や公園など避難場所を決めている	41.2%
3 貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	20.9%
4 風呂などに水をためおきするようにしている	16.1%
5 食料や飲料水を備蓄している ⇒付問1にお進みください	27.4%
6 消火器や消火用のバケツを準備している	14.3%
7 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	12.2%
8 自分の家の耐震性を強化している	7.4%
9 家族や親類などと非常時の連絡方法を決めている	12.8%
10 防災訓練に積極的に参加している	14.1%
11 特に何もしていない	25.8%
12 その他（具体的に：）	1.5%
(無回答)	1.8%

南海トラフ地震に備えて現在取り組んでいる対策について、「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」(65.9%) が最も多く、次いで「近くの学校や公園など避難場所を決めている」(41.2%)、「食料や飲料水を備蓄している」(27.4%) などとなっている。

図表 2-(2)-1 南海トラフ地震に備えて現在取り組んでいる対策

	回答数
全体	100.0
(1) 携帯ラジオや懐中電灯を準備している	65.9
(2) 近くの学校や公園など避難場所を決めている	41.2
(3) 貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	20.9
(4) 風呂などに水をためおきするようにしている	16.1
(5) 食料や飲料水を備蓄している	27.4
(6) 消火器や消火用のバケツを準備している	14.3
(7) 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	12.2
(8) 自分の家の耐震性を強化している	7.4
(9) 家族や親類などと非常時の連絡方法を決めている	12.8
(10) 防災訓練に積極的に参加している	14.1
(11) 特に何もしていない	25.8
(12) その他	1.5
無回答	1.8

グラフ単位:(%)

南海トラフ地震に備えて現在取り組んでいる対策について、

性別にみると、男女ともに「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も多く、その比率は『男性』(64.3%)、『女性』(67.8%) となっており、これに「近くの学校や公園など避難場所を決めている』『男性』(37.4%)、『女性』(45.5%) が続いている。

年齢別にみると、全ての年齢で「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も多くなっている。これに「近くの学校や公園など避難場所を決めている」が続いている。『20～29歳』では「特に何もしていない」が4割を超え他の年齢と大きく離れている。

職業別にみると、いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が半数を超える最も多くなっている。これに「近くの学校や公園など避難場所を決めている」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が半数を超える最も多く、特に『小豆圏域』では7割を超え最も多くなっている。これに「近くの学校や公園など避難場所を決めている」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も多く、特に『20年以上』では7割を超える最も多くなっている。これに「近くの学校や公園など避難場所を決めている」が続いている。

図表 2-(2)-2 南海トラフ地震に備えて現在取り組んでいる対策

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	無回答
単位:比率(%)													
回答者数(人)	1,576	65.9	41.2	20.9	16.1	27.4	14.3	12.2	7.4	12.8	14.1	25.8	1.5 1.8
機器ラジオや懐中電灯を準備している			近くの学校や公園など避難場所を決めている	貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	風呂などに水をためおきするようにしている	食料や飲料水を備蓄している	消火器や消火用のバケツを準備している	家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	自分の家の耐震性を強化している	家族や親類などと非常時の連絡方法を決めている	防災訓練に積極的に参加している	特に何もしていない	その他
性別	男性	765	64.3	37.4	20.7	14.1	25.8	14.5	13.9	8.1	11.0	15.4	26.7 1.4 1.7
	女性	770	67.8	45.5	21.2	18.6	29.2	14.0	10.5	6.9	14.4	12.2	25.5 1.6 1.6
年齢別	20~29歳	79	34.2	24.1	11.4	2.5	13.9	3.8	3.8	2.5	10.1	1.3	45.6 - -
	30~39歳	139	43.9	33.1	12.2	8.6	16.5	2.9	7.9	10.8	9.4	10.1	30.2 1.4 0.7
	40~49歳	199	54.8	38.7	14.1	13.6	24.1	7.5	12.6	7.5	12.1	6.5	31.2 3.5 -
	50~59歳	263	63.9	38.4	15.6	11.8	32.7	12.9	13.3	7.2	9.9	11.4	26.2 1.1 0.8
	60~69歳	405	74.1	46.4	21.0	19.5	32.1	17.3	12.8	7.2	11.4	18.3	21.5 1.0 1.0
	70歳以上	449	78.2	45.7	31.4	22.3	27.6	20.5	13.8	7.8	17.6	17.8	23.2 1.6 4.0
職業別	農林漁業	118	74.6	52.5	18.6	21.2	28.0	18.6	11.0	12.7	16.9	31.4	16.1 1.7 5.1
	商工業、サービス業、自由業など	189	64.6	33.9	22.8	16.9	28.6	11.6	10.1	7.9	8.5	9.0	27.5 1.1 1.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	56.3	39.4	13.5	12.3	23.0	9.4	10.7	7.5	10.7	9.4	29.9 1.6 0.5
	主婦・主夫	302	75.2	51.7	26.5	21.2	35.1	15.9	14.6	7.9	17.5	16.2	20.2 0.7 1.3
	無職	351	72.4	37.6	27.4	16.8	27.9	20.5	14.5	5.4	13.1	15.4	27.4 1.7 2.6
区域別	高松圏域	763	66.7	40.6	21.0	16.9	27.7	13.2	13.5	6.9	12.6	14.0	25.6 1.0 1.4
	東讃圏域	145	59.3	31.7	20.7	16.6	26.9	15.9	10.3	4.8	8.3	17.9	29.7 0.7 2.1
	小豆圏域	44	70.5	50.0	13.6	9.1	29.5	13.6	13.6	9.1	9.1	18.2	22.7 - 2.3
	中讃圏域	432	67.4	44.2	22.7	17.6	29.6	14.1	10.6	9.3	16.4	13.7	24.8 2.5 0.9
	西讃圏域	192	63.5	42.2	18.2	10.9	21.4	18.2	11.5	6.8	9.9	12.0	26.6 1.6 4.7
居住年数別	3年未満	104	42.3	27.9	16.3	4.8	19.2	1.9	7.7	10.6	8.7	2.9	37.5 1.0 1.9
	3年以上~10年未満	164	51.2	38.4	15.2	12.8	23.2	6.1	9.8	9.1	12.8	7.9	28.7 0.6 -
	10年以上~20年未満	223	59.6	40.4	15.7	12.6	29.1	9.4	14.3	6.7	9.9	5.4	30.9 3.1 1.3
	20年以上	1,034	72.7	43.8	23.6	18.9	29.0	17.9	12.8	7.2	13.9	17.7	23.4 1.3 1.6

(3) ライフラインが途絶した場合に備えた備蓄量

【問4で「5」と答えた方にお聞きします】

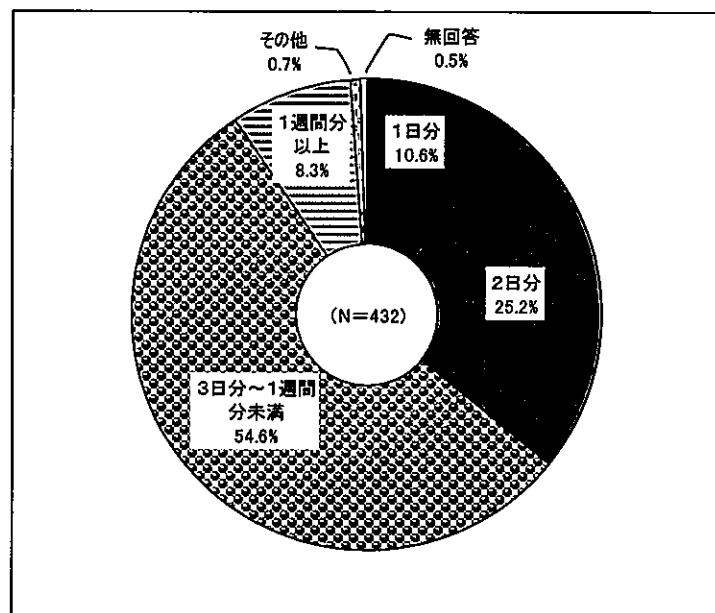
付問1 地震により交通手段、電気、水道などライフラインが途絶した場合に備えて、食料、飲料水などを何日分備蓄していますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=432】

1 1日分	10.6%
2 2日分	25.2%
3 3日分～1週間分未満	54.6%
4 1週間分以上	8.3%
5 その他（理由：）	0.7%
(無回答)	0.5%

ライフラインが途絶した場合に備えた備蓄量について、「3日分～1週間分未満」(54.6%)が最も多く、次いで「2日分」(25.2%)、「1日分」(10.6%)、「1週間分以上」(8.3%)などとなっている。

図表2-(3)-1 ライフラインが途絶した場合に備えた備蓄量



ライフラインが途絶した場合に備えた備蓄量について、

性別にみると、男女ともに「3日分～1週間分未満」が最も多く、その比率は『男性』(54.3%)、『女性』(55.6%) となっており、これに「2日分」男女とも(24.9%)が続いている。

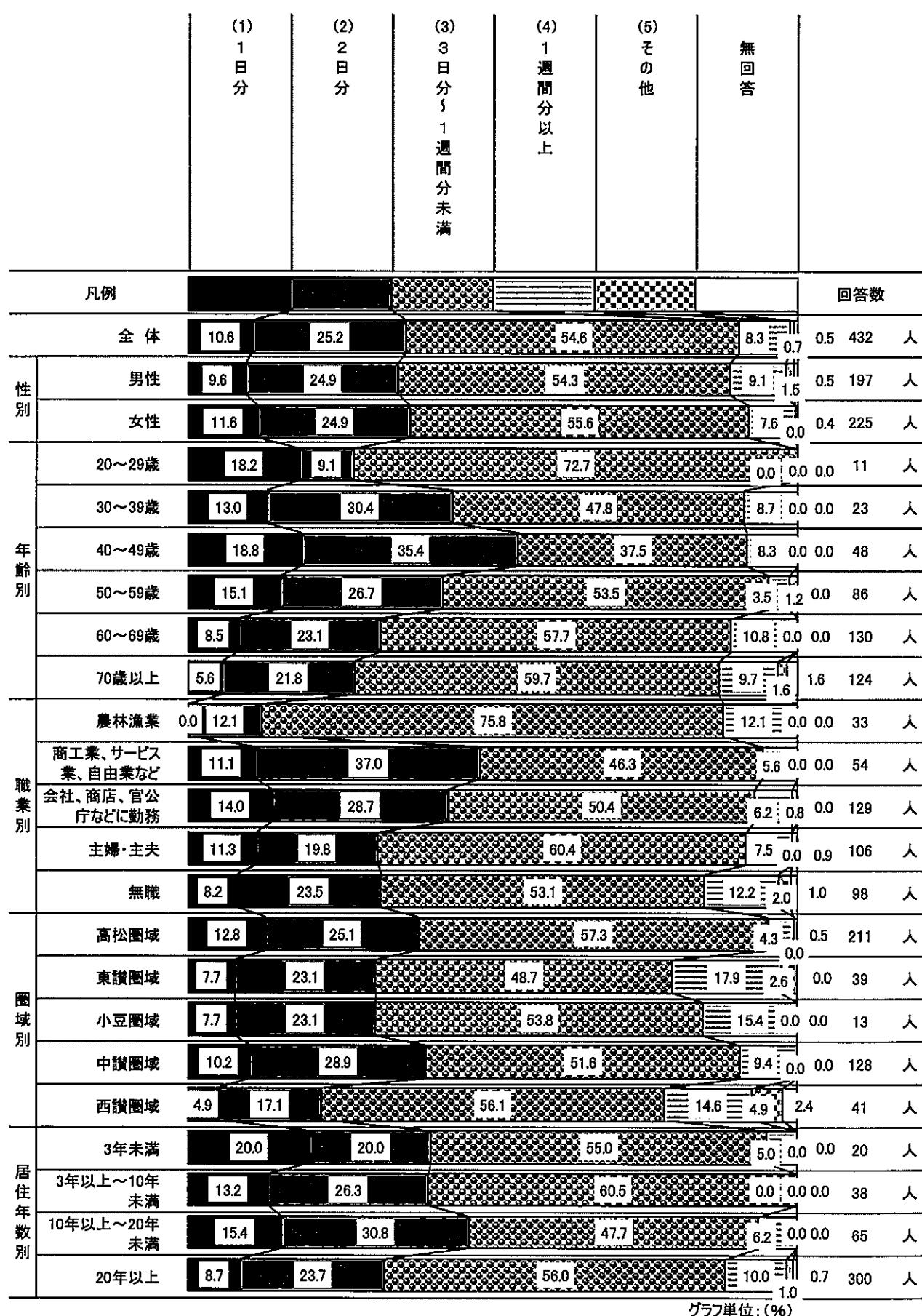
年齢別にみると、いずれも「3日分～1週間分未満」が最も多くなっている。特に『20～29歳』では7割を超えており、『40～49歳』では逆に「3日分～1週間分未満」に「1週間分以上」を合わせても5割に満たない。

職業別にみると、いずれも「3日分～1週間分未満」が最も多くなっている。特に『農林漁業』では7割を超えており、「1週間分以上」を加えると9割近くになる。

圏域別にみると、いずれも「3日分～1週間分未満」が最も多くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「3日分～1週間分未満」が最も多くなっている。特に『3年以上～10年未満』では6割を超え最も多くなっている。

図表 2-(3)-2 ライフラインが途絶した場合に備えた備蓄量



グラフ単位:(%)

(4) 南海トラフ地震に備えて今後取り組みたい対策

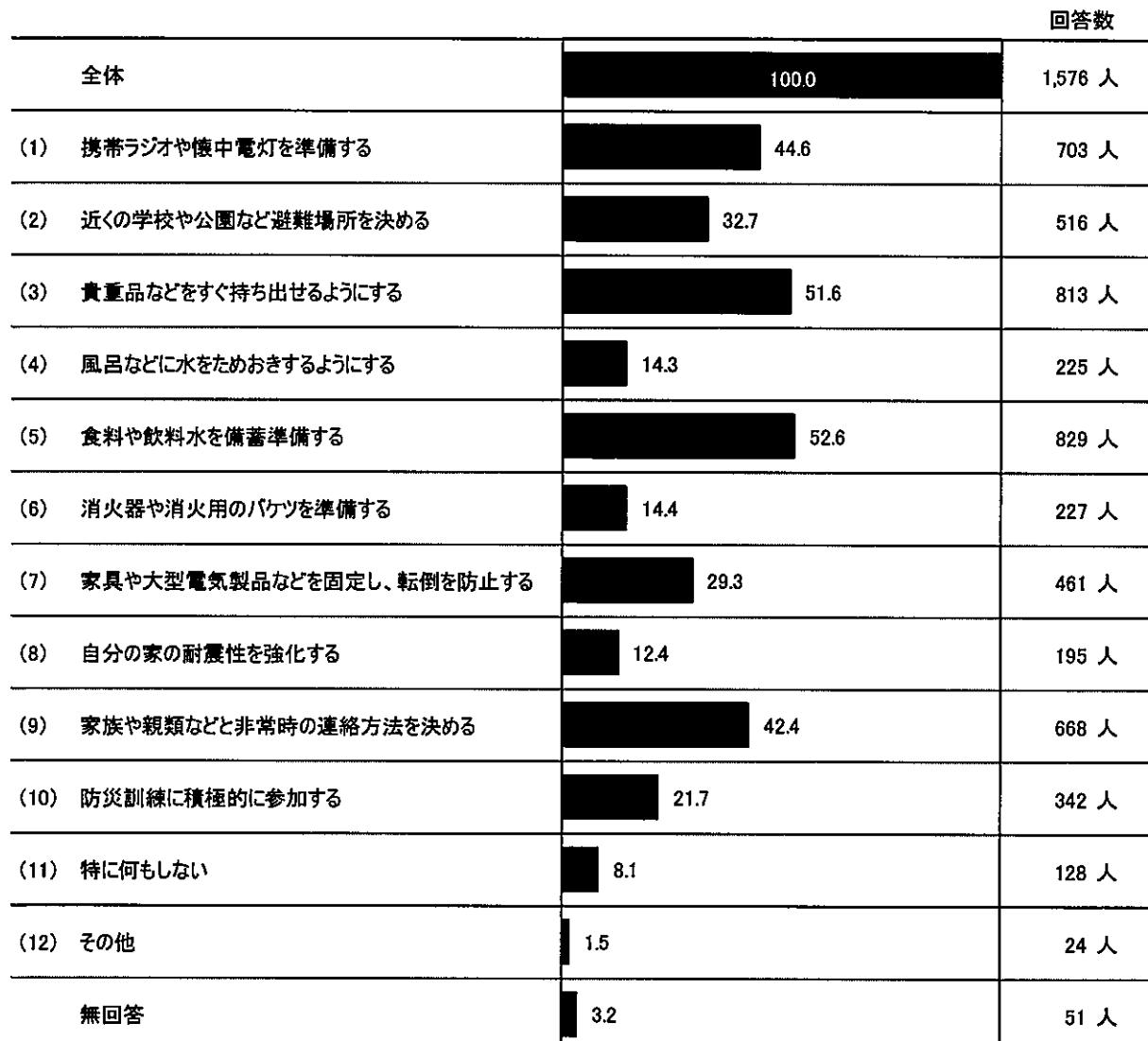
問5 あなたは、南海トラフ地震に備えて、今度どのような対策をとろうと考えていますか。次の
の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=1,576】

1 携帯ラジオや懐中電灯を準備する	44.6%
2 近くの学校や公園など避難場所を決める	32.7%
3 貴重品などをすぐ持ち出せるようにする	51.6%
4 風呂などに水をためおきするようにする	14.3%
5 食料や飲料水を備蓄準備する	52.6%
6 消火器や消火用のバケツを準備する	14.4%
7 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止する	29.3%
8 自分の家の耐震性を強化する	12.4%
9 家族や親類などと非常時の連絡方法を決める	42.4%
10 防災訓練に積極的に参加する	21.7%
11 特に何もない	8.1%
12 その他（具体的に：）	1.5%
（無回答）	3.2%

南海トラフ地震に備えて今後取り組みたい対策について、「食料や飲料水を備蓄準備する」(52.6%)が最も多く、次いで「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」(51.6%)、「携帯ラジオや懐中電灯を準備する」(44.6%)、「家族や親族などと非常時の連絡方法を決める」(42.4%)などとなっている。

図表 2-(4)-1 南海トラフ地震に備えて今後取り組みたい対策



グラフ単位:(%)

南海トラフ地震に備えて今後取り組みたい対策について、

性別にみると、男女ともに「食料や飲料水を備蓄準備する」が最も多く、その比率は『男性』(47.8%)、『女性』(57.7%)となっており、これに「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする』『男性』(46.5%)、『女性』(56.9%)が続いている。

年齢別にみると、ほぼ全ての年齢で「食料や飲料水を備蓄準備する」が最も多くなっているのに対し、『50~59歳』では「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする』が最も多く、『70歳以上』では「携帯ラジオや懐中電灯を準備する」が最も多くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「食料や飲料水を備蓄準備する」が最も多く、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』では「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする』が最も多くなっている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「食料や飲料水を備蓄準備する」と「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする』が1番目と2番目に多くなっているのに対し、『小豆圏域』は2番目に「家族や親類などと非常時の連絡方法を決める』が多くなっており、比率も5割を超え他と大きく離れている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上~10年未満』では「食料や飲料水を備蓄準備する』が、そのほかでは「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする』が最も多くなっている。

図表 2-(4)-2 南海トラフ地震に備えて今後取り組みたい対策

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	無回答	
単位:比率(%)		回答者数(人)	携帯ラジオや懐中電灯を準備する	近くの学校や公園など避難場所を決める	貴重品などをすぐ持ち出せるようにする	風呂などに水をためおきするようにする	食料や飲料水を備蓄準備する	消火器や消防用のバケツを準備する	家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止する	自分の家の耐震性を強化する	家族や親類などと非常時の連絡方法を決める	防災訓練に積極的に参加する	特に何もない	その他	
全体		1,576	44.6	32.7	51.6	14.3	52.6	14.4	29.3	12.4	42.4	21.7	8.1	1.5	3.2
性別	男性	765	42.4	29.9	46.5	11.6	47.8	14.9	27.7	12.5	39.3	21.4	11.1	1.7	2.6
	女性	770	47.1	35.7	56.9	16.6	57.7	14.3	31.3	11.6	46.2	21.9	4.9	1.4	3.5
年齢別	20~29歳	79	29.1	30.4	51.9	1.3	55.7	5.1	27.8	7.6	46.8	12.7	11.4	1.3	-
	30~39歳	139	36.0	25.2	47.5	2.9	63.3	7.2	29.5	5.8	49.6	12.9	7.2	1.4	0.7
	40~49歳	199	34.2	24.1	47.7	8.0	53.8	9.0	31.2	8.5	48.7	18.6	11.6	1.0	-
	50~59歳	263	37.3	22.8	51.3	13.3	47.5	9.1	28.1	13.3	44.5	19.0	9.1	1.9	1.5
	60~69歳	405	44.2	37.3	52.1	16.5	54.1	16.5	29.4	12.8	42.2	25.4	5.7	0.7	2.7
	70歳以上	449	59.9	41.0	55.0	20.9	50.6	22.5	30.1	14.9	37.0	25.6	7.6	2.4	6.9
職業別	農林漁業	118	46.6	36.4	55.9	14.4	53.4	24.6	23.7	14.4	46.6	35.6	5.1	1.7	5.9
	商工業、サービス業、自由業など	189	45.5	33.3	56.1	12.2	53.4	14.3	28.6	11.6	45.5	18.5	7.4	0.5	1.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	37.6	29.2	48.8	8.9	53.8	9.4	26.6	10.2	47.2	18.5	8.4	1.6	1.1
	主婦・主夫	302	51.7	38.1	57.9	22.5	57.0	15.6	35.8	14.9	44.4	25.8	4.3	0.7	4.0
	無職	351	48.7	32.5	47.6	16.0	47.3	19.1	31.3	12.5	32.2	20.2	12.3	2.6	5.4
地域別	高松圏域	763	41.8	31.8	50.2	15.6	50.9	15.2	29.0	11.7	41.2	20.3	8.3	1.2	3.9
	東讃圏域	145	41.4	24.8	49.7	11.0	46.2	9.0	28.3	12.4	43.4	20.7	11.7	1.4	3.4
	小豆圏域	44	45.5	38.6	65.9	11.4	40.9	15.9	22.7	9.1	56.8	25.0	4.5	2.3	2.3
	中讃圏域	432	48.8	34.0	52.3	14.4	55.1	13.4	29.4	13.4	43.1	23.4	7.4	2.3	1.9
	西讃圏域	192	48.4	38.0	53.6	12.0	61.5	17.2	32.3	13.5	41.7	23.4	7.3	1.0	3.6
居住年数別	3年未満	104	35.6	23.1	44.2	3.8	55.8	6.7	26.0	1.9	42.3	11.5	11.5	1.9	3.8
	3年以上~10年未満	164	39.6	28.0	47.6	7.9	55.5	9.8	31.1	7.3	48.8	18.9	7.9	1.8	1.8
	10年以上~20年未満	223	40.8	36.3	56.1	13.0	55.2	11.2	30.9	9.4	51.6	19.3	6.3	0.9	1.3
	20年以上	1,034	47.3	33.7	52.5	16.4	52.0	17.0	29.3	14.4	40.1	23.8	8.1	1.5	3.4

(5)自主防災組織への加入の有無

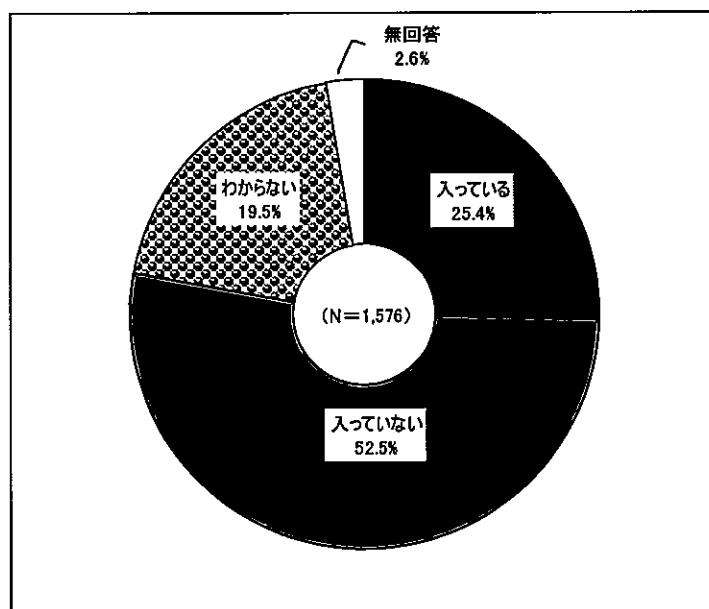
問6 災害から住民を守るために、消防団とは別に、自治会などを単位として、初期消火、避難誘導、被災者の救出・救護などの自主的な防災活動を行う組織を自主防災組織（自主防災会）といいます。あなたは、その自主防災組織に入っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1 入っている | 25.4% |
| 2 入っていない ⇒付問1にお進みください | 52.5% |
| 3 わからない | 19.5% |
| (無回答) | 2.6% |

自主防災組織への加入の有無について、「入っていない」が52.5%、「入っている」が25.4%、「わからない」が19.5%となっている。

図表2-(5)-1 自主防災組織への加入の有無



自主防災組織への加入の有無について、

性別にみると、男女ともに「入っていない」が半数を超えており、その比率は『男性』(54.1%)、『女性』(51.4%) となっている。一方、「入っている」は『男性』(28.5%)、『女性』(21.9%) となっている。

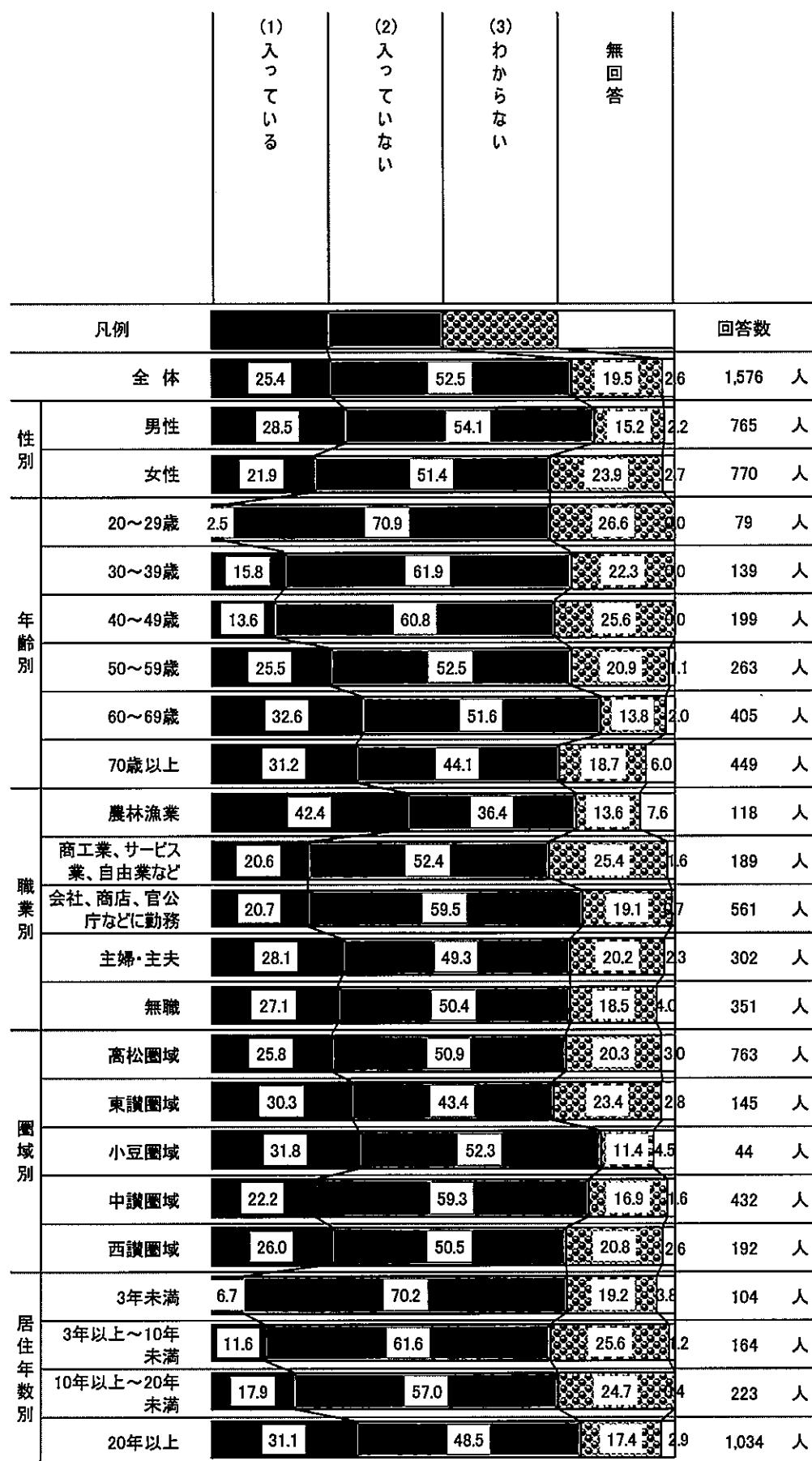
年齢別にみると、いずれも「入っていない」が「入っている」を上回っており、特に『20~29歳』では「入っている」が1割未満となっている。一方『60~69歳』、『70歳以上』では「入っている」が3割を越えている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業で「入っていない」が「入っている」を上回っている。一方で『農林漁業』では「入っている」の方が多く4割を超えている。

圏域別にみると、いずれも「入っていない」が「入っている」を上回っている。『東讃圏域』、『小豆圏域』では「入っている」が3割を超えている。

居住年数別にみると、いずれも「入っていない」が「入っている」を上回っており、『3年未満』では「入っている」が1割未満となっている。『20年以上』では「入っている」が3割を超え、居住年数が長いほど加入割合が高くなっている。

図表 2-(5)-2 自主防災組織への加入の有無



グラフ単位:(%)

(6) 自主防災組織に入っていない理由

【問6で「2」と答えた方にお聞きします】

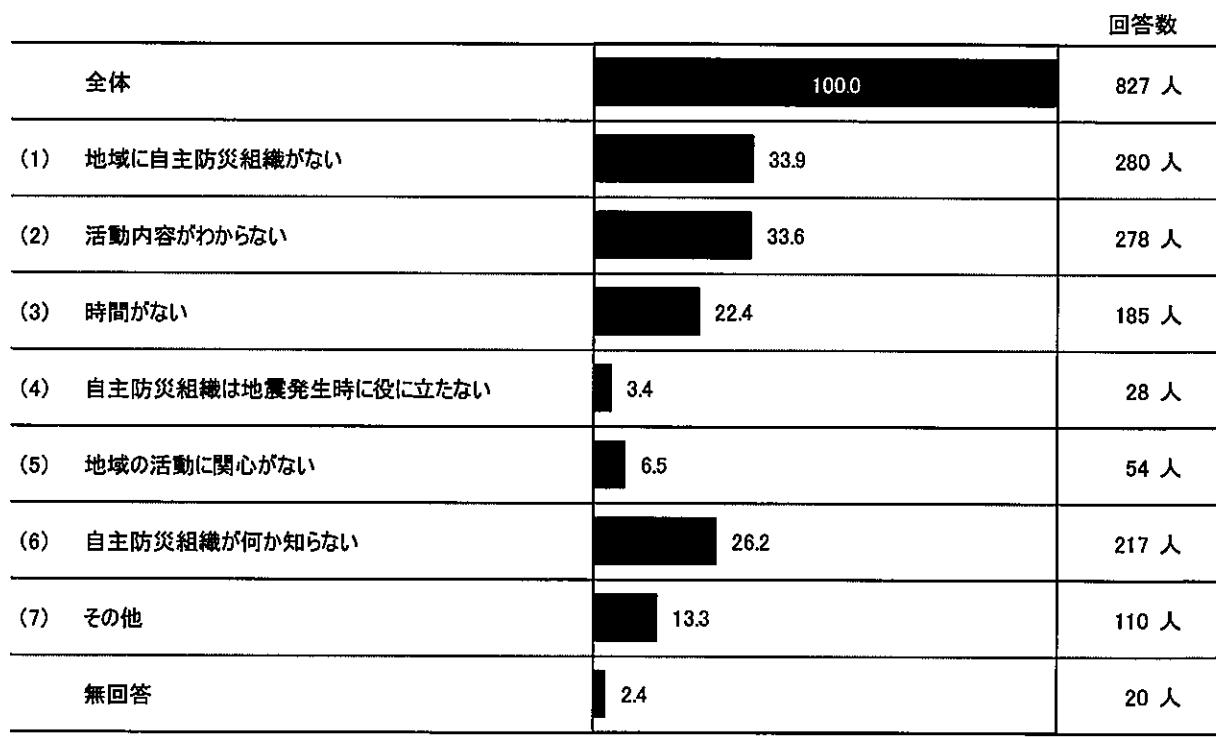
付問1 自主防災組織に入っていない理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=827】

1 地域に自主防災組織がない	33.9%
2 活動内容がわからない	33.6%
3 時間がない	22.4%
4 自主防災組織は地震発生時に役に立たない	3.4%
5 地域の活動に関心がない	6.5%
6 自主防災組織が何か知らない	26.2%
7 その他（具体的に：）	13.3%
(無回答)	2.4%

自主防災組織に入っていない理由について、「地域に自主防災組織がない」(33.9%)が最も多く、次いで「活動内容がわからない」(33.6%)、「自主防災組織が何か知らない」(26.2%)、「時間がない」(22.4%)などとなっている。

図表2-(6)-1 自主防災組織に入っていない理由



自主防災組織に入っていない理由について、

性別にみると、『男性』では「地域に自主防災組織がない」(33.6%)が、『女性』では「活動内容がわからない」(35.6%)が最も多く、これに『男性』では「活動内容がわからない」(32.1%)が、『女性』では「地域に自主防災組織がない」(33.8%)が続いている。

年齢別にみると、『20~29歳』、『30~39歳』では「自主防災組織が何か知らない」が半数を超える最も多く、『60~69歳』、『70歳以上』では「地域に自主防災組織がない」が最も多くなっている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業で「地域に自主防災組織がない」が最も多く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「時間がない」が、『農林漁業』では「地域に自主防災組織がない」、「活動内容がわからない」が同率で最も多くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』、『西讃圏域』では「活動内容がわからない」が最も多く、そのほかの圏域では「地域に自主防災組織がない」が最も多くなっている。これに『高松圏域』では「自主防災組織が何か知らない」が、『東讃圏域』では「時間がない」が、『西讃圏域』では「地域に自主防災組織がない」が、そのほかの圏域では「活動内容がわからない」が続いている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「地域に自主防災組織がない」が、『10年以上~20年未満』では「活動内容がわからない」が、そのほかでは「自主防災組織が何か知らない」が最も多くなっている。

図表 2-(6)-2 自主防災組織に入っていない理由

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)		
		回答者数 (人)	地域に自主防災組織がない	活動内容がわからない	時間がない	自主防災組織は地震発生時に役に立たない	地域の活動に関心がない	自主防災組織が何が知らない	その他	
単位:比率(%)										
全体		827	33.9	33.6	22.4	3.4	6.5	26.2	13.3	2.4
性別	男性	414	33.6	32.1	26.3	3.4	8.0	24.6	12.3	2.4
	女性	396	33.8	35.6	18.4	3.3	4.8	28.3	14.1	2.0
年齢別	20~29歳	56	7.1	37.5	28.6	-	5.4	51.8	7.1	3.6
	30~39歳	86	10.5	32.6	29.1	-	8.1	58.1	12.8	1.2
	40~49歳	121	26.4	35.5	27.3	4.1	9.9	28.9	11.6	1.7
	50~59歳	138	29.7	25.4	31.9	1.4	8.7	21.0	17.4	-
	60~69歳	209	40.2	36.8	23.9	3.3	5.3	19.6	10.5	1.9
	70歳以上	198	52.0	34.3	6.6	6.6	3.5	15.2	16.2	4.5
職業別	農林漁業	43	32.6	32.6	27.9	7.0	-	4.7	18.6	2.3
	商工業、サービス業、自由業など	99	39.4	35.4	19.2	3.0	6.1	24.2	12.1	2.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	334	24.9	33.8	35.0	1.5	8.1	34.4	8.7	0.6
	主婦・主夫	149	40.3	37.6	11.4	3.4	4.0	22.8	14.1	3.4
	無職	177	41.8	30.5	9.0	5.6	6.8	21.5	20.9	4.0
区域別	高松圏域	388	29.1	36.1	24.0	3.4	7.5	31.2	12.1	2.1
	東讃圏域	63	28.6	34.9	30.2	3.2	7.9	14.3	11.1	4.8
	小豆圏域	23	47.8	34.8	13.0	-	-	13.0	30.4	8.7
	中讃圏域	256	41.0	28.9	18.8	3.5	5.1	25.8	12.5	1.6
	西讃圏域	97	34.0	35.1	22.7	4.1	7.2	18.6	17.5	3.1
居住年数別	3年未満	73	13.7	30.1	24.7	-	5.5	43.8	11.0	2.7
	3年以上~10年未満	101	20.8	37.6	26.7	2.0	8.9	41.6	11.9	1.0
	10年以上~20年未満	127	19.7	40.9	26.8	1.6	8.7	33.1	15.0	0.8
	20年以上	502	42.8	31.5	19.9	4.6	5.6	19.1	13.3	2.6

(7)南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策

問7 県に対して、南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策はどのようなことがありますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1 食料、飲料水、医薬品等の備蓄	70.9%
2 地震に関する県防災計画の充実	21.1%
3 災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	64.5%
4 近県との広域応援体制の確立	14.1%
5 道路、堤防やため池などのハード整備	28.5%
6 市町が整備する防災資機材や防火水槽への助成	7.8%
7 自主防災組織の結成についての市町への支援	10.3%
8 防災訓練の実施	8.6%
9 災害時の心得や地震に関する知識の普及啓発	18.6%
10 学校での防災教育	9.0%
11 ボランティア活動の支援体制の確立	8.3%
12 その他（具体的に：）	1.7%
13 特にない	2.3%
(無回答)	3.4%

南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策について、「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」(70.9%)が最も多く、次いで「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」(64.5%)、「道路、堤防やため池などのハード整備」(28.5%)、「地震に関する県防災計画の充実」(21.1%)などとなっている。

図表 2-(7)-1 南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策

	回答数
全体	1,576 人
(1) 食料、飲料水、医薬品等の備蓄	70.9
(2) 地震に関する県防災計画の充実	21.1
(3) 災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	64.5
(4) 近県との広域応援体制の確立	14.1
(5) 道路、堤防やため池などのハード整備	28.5
(6) 市町が整備する防災資機材や防火水槽への助成	7.8
(7) 自主防災組織の結成についての市町への支援	10.3
(8) 防災訓練の実施	8.6
(9) 災害時の心得や地震に関する知識の普及啓発	18.6
(10) 学校での防災教育	9.0
(11) ボランティア活動の支援体制の確立	8.3
(12) その他	1.7
(13) 特にない	2.3
無回答	3.4

グラフ単位:(%)

南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策について、

性別にみると、男女ともに「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が最も多く、その比率は『男性』(66.9%)、『女性』(75.6%) となっており、これに「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」『男性』(63.7%)、『女性』(66.9%) が続いている。

年齢別にみると、『20~29 歳』では「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が 7 割を超え最も多くなっており、そのほかの年齢では「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が最も多くなっている。これに『20~29 歳』では「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が、そのほかの年齢では「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が続いている。

職業別にみると、ほとんどの職業で「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が最も多く、続いて「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が多くなっている。対して、『農林漁業』では逆に「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が最も多く「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が続いている。また、『農林漁業』では 3 番目に多い「道路、堤防やため池などのハード整備」が 4 割を超え、他の職業の比率と大きく離れている。

圏域別にみると、いずれも「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が最も多く、これに「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が最も多く、これに「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が続いている。

図表 2-(7)-2 南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)		
		回答者数(人)	食料・飲料水・医薬品等の備蓄	地震に関する緊防災計画の充実	災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	近県との広域応援体制の確立	道路・堤防やため池などのハード整備	市町が整備する防災資機材や防火水槽への助成	自主防災組織の結成についての市町への支援	防災訓練の実施	災害時の心得や地震に関する知識の普及啓発	学校での防災教育	ボランティア活動の支援体制の確立	その他	特になし	無回答
単位:比率(%)																
全体		1,576	70.9	21.1	64.5	14.1	28.5	7.8	10.3	8.6	18.6	9.0	8.3	1.7	2.3	3.4
性別	男性	765	66.9	21.8	63.7	13.2	29.9	8.8	11.8	10.1	19.9	7.6	8.9	2.1	2.4	2.6
	女性	770	75.6	20.5	66.9	14.5	26.9	6.8	8.6	7.0	18.1	10.5	7.7	1.2	2.3	3.5
年齢別	20~29歳	79	73.4	20.3	74.7	15.2	32.9	15.2	3.8	7.6	19.0	6.3	5.1	3.8	-	2.5
	30~39歳	139	79.1	22.3	59.7	15.8	28.1	8.6	6.5	7.9	17.3	23.0	6.5	3.6	-	0.7
	40~49歳	199	77.9	20.1	66.3	18.1	26.6	7.5	5.0	7.5	18.1	15.1	5.0	3.0	2.5	0.5
	50~59歳	263	74.1	20.2	67.3	15.6	28.5	8.4	9.5	5.7	18.3	5.3	12.5	1.1	2.7	1.1
	60~69歳	405	66.4	21.7	65.9	15.3	31.9	8.4	13.6	7.9	20.0	7.4	8.9	1.7	1.0	3.2
	70歳以上	449	68.4	21.6	62.8	8.9	25.2	5.3	12.2	11.6	19.4	6.2	8.0	0.2	4.2	6.0
職業別	農林漁業	118	56.8	19.5	62.7	11.0	40.7	10.2	16.1	6.8	19.5	5.9	11.9	-	2.5	6.8
	商工業、サービス業、自由業など	189	73.5	26.5	66.1	11.1	24.3	7.9	9.5	5.8	14.8	12.7	6.9	3.7	0.5	3.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	74.0	20.9	67.2	17.8	28.2	7.3	9.3	9.1	21.2	9.4	7.5	1.2	1.2	1.2
	主婦・主夫	302	74.5	20.5	64.2	11.6	28.5	7.9	10.9	8.6	15.9	10.9	7.6	0.7	3.0	3.3
	無職	351	67.8	19.7	63.8	12.0	27.9	7.4	9.4	9.4	19.9	6.3	9.7	2.6	4.6	3.7
区域別	高松圏域	763	71.8	22.8	62.8	15.1	29.8	7.1	8.7	8.3	18.3	9.8	7.6	1.7	2.1	2.9
	東讃圏域	145	67.6	21.4	58.6	6.9	29.7	13.1	12.4	7.6	14.5	6.2	11.7	0.7	4.1	6.2
	小豆圏域	44	86.4	20.5	75.0	6.8	31.8	6.8	13.6	11.4	9.1	6.8	-	2.3	2.3	-
	中讃圏域	432	69.2	18.5	66.4	16.4	25.2	8.8	11.3	10.2	20.8	8.8	9.7	2.1	1.9	2.5
	西讃圏域	192	70.3	20.3	68.8	12.0	29.2	4.7	12.0	6.3	19.8	8.9	7.3	1.6	3.1	5.7
居住年数別	3年未満	104	77.9	20.2	69.2	13.5	26.0	6.7	6.7	9.6	18.3	10.6	7.7	1.0	2.9	1.9
	3年以上~10年未満	164	80.5	20.7	62.8	15.9	27.4	9.1	3.0	10.4	14.6	17.1	4.9	4.3	3.0	1.8
	10年以上~20年未満	223	73.1	19.3	68.6	23.8	23.3	7.6	11.7	6.7	17.0	10.8	7.2	1.8	-	0.9
	20年以上	1,034	68.7	21.6	64.6	11.6	30.1	7.7	11.4	8.5	20.3	7.4	9.3	1.3	2.7	3.7

(8) 地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策

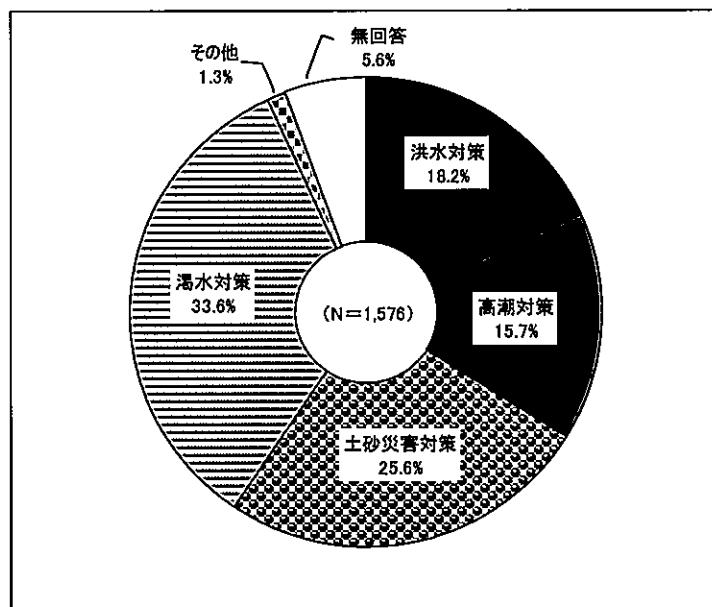
問8 県に対して、地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 洪水対策	18.2%
2 高潮対策	15.7%
3 土砂災害対策	25.6%
4 渇水対策	33.6%
5 その他（対策）	1.3%
(無回答)	5.6%

地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策について、「渴水対策」(33.6%)が最も多く、次いで「土砂災害対策」(25.6%)、「洪水対策」(18.2%)、「高潮対策」(15.7%)などとなっている。

図表2-(8)-1 地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策



地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策について、

性別にみると、男女ともに「渴水対策」が最も多く、その比率は『男性』(33.6%)、『女性』(33.8%)となっており、これに「土砂災害対策」『男性』(25.9%)、『女性』(25.8%)が続いている。

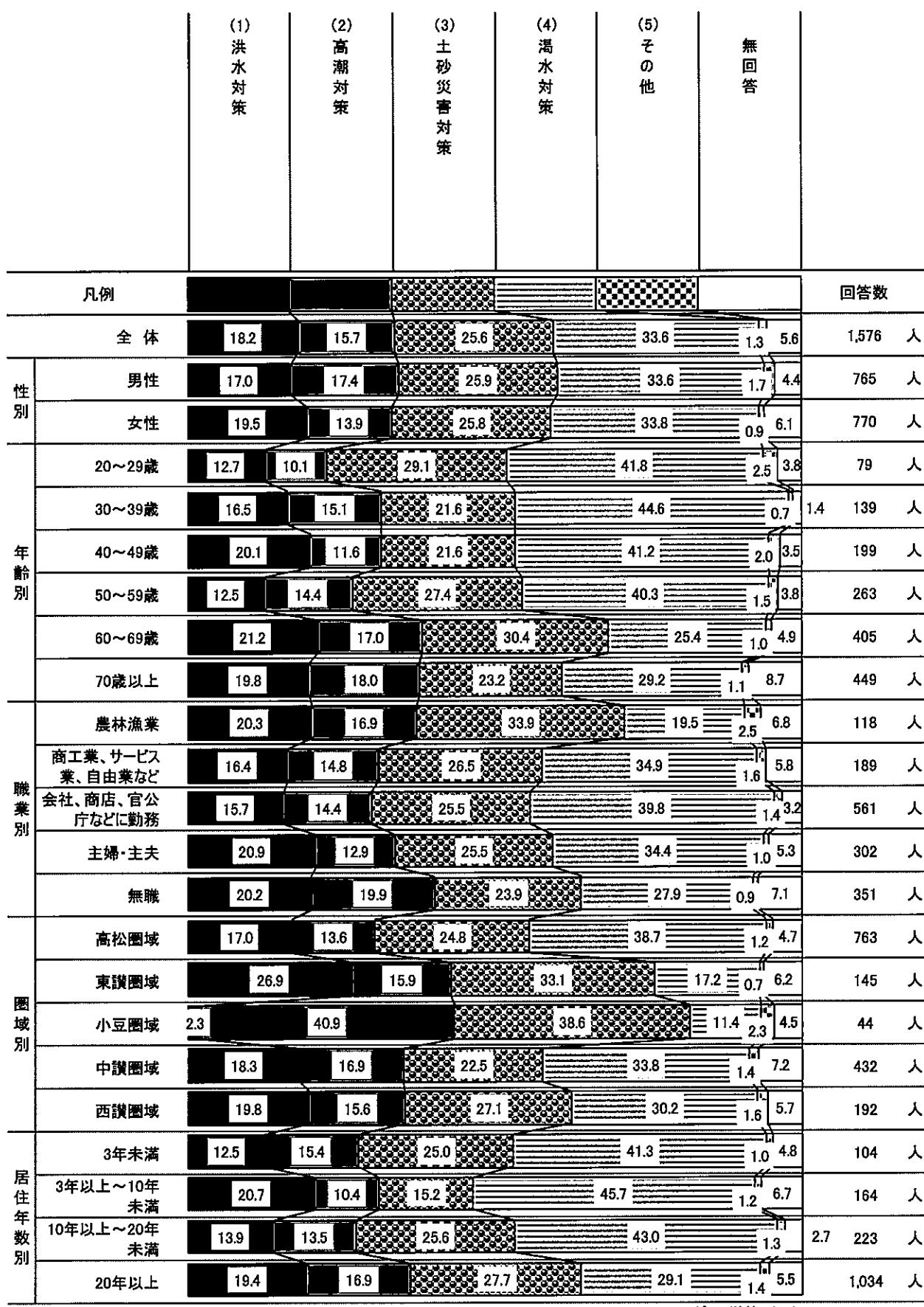
年齢別にみると、ほぼ全ての年齢で「渴水対策」が最も多く、『60~69歳』では「土砂災害対策」が最も多くなっている。これに『60~69歳』では「渴水対策」が、そのほかの年齢では「土砂災害対策」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』では「土砂災害対策」が最も多く、これに「洪水対策」が続いている。そのほかの職業では「渴水対策」が最も多く、これに「土砂災害対策」が続いている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「渴水対策」が、『東讃圏域』では「土砂災害対策」が、『小豆圏域』では「高潮対策」が最も多くなっている。これに『東讃圏域』では「洪水対策」が、そのほかの圏域では「土砂災害対策」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「渴水対策」が最も多くなっている。これに『3年以上~10年未満』では「洪水対策」が、そのほかでは「土砂災害対策」が続いている。

図表 2-(8)-2 地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策



グラフ単位:(%)

(9)ソフト対策として県に特に力を入れてほしい取り組み

問9 土砂災害は、昨年8月に広島市で発生した大規模なもののはじめ、多くの尊い人命を失つてきました。県は、土砂災害から県民の皆様の人命や財産を守るために、土砂災害に対する危険箇所において、砂防ダムなどの施設整備（ハード対策）を行っています。一方で、危険箇所を住民の皆様に周知するため、警戒区域の指定など、ソフト対策も併せて行うこととしています。そこで、ソフト対策として県に特に力を入れて欲しいものを、次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

- | | |
|---|-------|
| 1 土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定 | 67.2% |
| 2 住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築 | 48.8% |
| 3 大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化 | 47.3% |
| 4 砂防ボランティアや、防災士等の有資格者等の養成 | 11.1% |
| 5 児童・生徒への、土砂災害に関する学習機会の提供 | 23.1% |
| 6 住民を対象にした土砂災害に関する講習会の開催 | 20.7% |
| 7 住民参加型の土砂災害に関する避難訓練の実施 | 15.7% |
| 8 土砂災害防止月間等を活用した啓発活動や、マスコミ等と連携した広報活動 | 10.7% |
| (無回答) | 7.6% |

ソフト対策として県に特に力を入れてほしい取り組みについて、「土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定」（67.2%）が最も多く、次いで「住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築」（48.8%）、「大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化」（47.3%）、「児童・生徒への、土砂災害に関する学習機会の提供」（23.1%）などとなっている。

図表 2-(9)-1 ソフト対策として県に特に力を入れてほしい取り組み

	回答数
全体	100.0 1,576 人
(1) 土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定	67.2 1,059 人
(2) 住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築	48.8 769 人
(3) 大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化	47.3 745 人
(4) 砂防ボランティアや、防災士等の有資格者等の養成	11.1 175 人
(5) 児童・生徒への、土砂災害に関する学習機会の提供	23.1 364 人
(6) 住民を対象にした土砂災害に関する講習会の開催	20.7 326 人
(7) 住民参加型の土砂災害に関する避難訓練の実施	15.7 247 人
(8) 土砂災害防止月間等を活用した啓発活動や、マスコミ等と連携した広報活動	10.7 168 人
無回答	7.6 119 人

グラフ単位: (%)

ソフト対策として県に特に力を入れてほしい取り組みについて、

性別にみると、男女ともに「土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定」が最も多く、その比率は『男性』(66.0%)、『女性』(68.8%)となっており、これに『男性』では「住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築」(51.8%)が、『女性』では「大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化」(47.8%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定」が6割を超え最も多くなっている。これに『70歳以上』では「大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化」が、そのほかの年齢では「住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築」が続いている。

職業別にみると、いずれも「土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定」が6割を超え最も多くなっている。これに『農林漁業』、『主婦・主夫』では「大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化」が、そのほかの職業では「住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定」が6割を超える最も多くなっている。これに『西讃圏域』では「大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化」が、そのほかの圏域では「住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定」が6割を超える最も多くなっている。これに『20年以上』では「大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化」が、そのほかでは「住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築」が続いている。

図表 2-(9)-2 ソフト対策として県に特に力を入れてほしい取り組み

	(1) 回答者数 (人)	(2) の土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等	(3) 戒住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警 難体制の構築	(4) 強化活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の 大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊の	(5) 砂防ボランティアや、防災士等の有資格者等の養成	(6) 児童・生徒への、土砂災害に関する学習機会の提供	(7) 住民を対象にした土砂災害に関する講習会の開催	(8) 住民参加型の土砂災害に関する避難訓練の実施	と連携した広報活動や、マスコミ等	無回答
単位:比率(%)										
全体	1,576	67.2	48.8	47.3	11.1	23.1	20.7	15.7	10.7	7.6
性別	男性	765	66.0	51.8	46.5	10.8	21.3	22.9	13.5	12.0
	女性	770	68.8	46.9	47.8	11.4	25.6	18.8	17.9	9.6
年齢別	20~29歳	79	60.8	59.5	50.6	12.7	22.8	17.7	15.2	10.1
	30~39歳	139	66.2	49.6	46.8	11.5	39.6	18.0	22.3	10.8
	40~49歳	199	67.8	55.8	51.3	9.5	27.6	13.6	16.1	7.5
	50~59歳	263	72.2	52.9	52.5	13.7	16.3	18.6	12.2	13.3
	60~69歳	405	68.9	50.9	46.4	10.6	22.7	23.5	15.6	12.3
	70歳以上	449	64.8	40.8	42.8	10.5	21.4	24.5	15.8	9.8
職業別	農林漁業	118	62.7	39.0	50.8	9.3	14.4	27.1	16.1	11.9
	商工業、サービス業、自由業など	189	66.7	54.5	47.6	14.3	28.0	21.2	12.2	12.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	68.1	55.1	48.1	11.1	24.8	18.0	16.8	11.8
	主婦・主夫	302	69.2	41.7	49.3	12.6	25.8	22.5	18.5	8.6
	無職	351	67.8	47.9	42.2	8.8	19.9	22.2	13.4	10.8
地域別	高松圏域	763	68.8	50.9	50.3	10.2	21.9	18.5	14.3	12.2
	東讃圏域	145	66.2	44.1	40.7	13.1	24.1	25.5	16.6	9.0
	小豆圏域	44	72.7	59.1	54.5	11.4	22.7	20.5	13.6	4.5
	中讃圏域	432	66.7	46.3	42.8	12.3	24.1	20.8	18.1	11.1
	西讃圏域	192	61.5	47.4	48.4	10.4	25.0	25.5	15.6	6.3
居住年数別	3年未満	104	60.6	52.9	48.1	11.5	28.8	13.5	16.3	12.5
	3年以上~10年未満	164	64.0	54.9	45.7	13.4	27.4	14.0	19.5	11.6
	10年以上~20年未満	223	71.3	57.0	48.4	10.3	28.3	15.2	13.5	8.1
	20年以上	1,034	68.1	46.5	47.1	11.0	21.4	23.9	15.6	11.2

3. 食習慣・生活習慣について

(1) 健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況

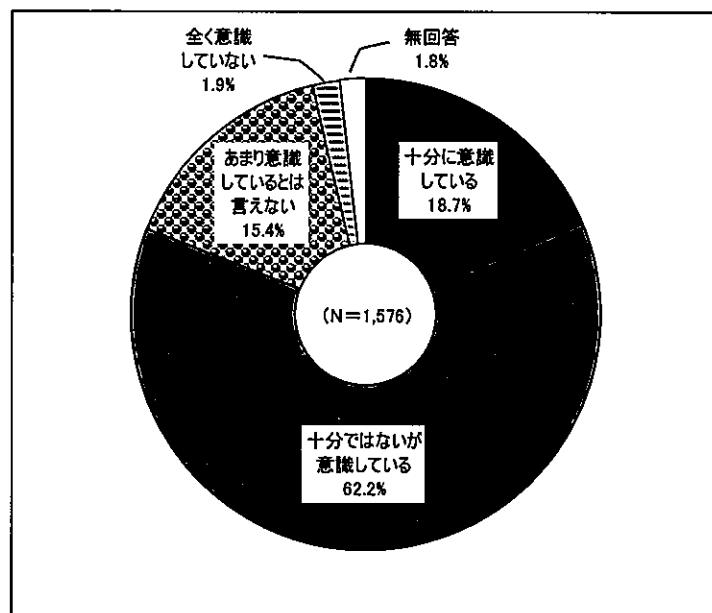
問10 あなたの健康や食生活についてよりよくすることをふだんから意識していますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

- | | |
|-------------------|-------|
| 1 十分に意識している | 18.7% |
| 2 十分ではないが意識している | 62.2% |
| 3 あまり意識しているとは言えない | 15.4% |
| 4 全く意識していない | 1.9% |
| (無回答) | 1.8% |

健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況について、「十分ではないが意識している」(62.2%) が最も多く、次いで「十分に意識している」(18.7%)、「あまり意識しているとは言えない」(15.4%)、「全く意識していない」(1.9%) などとなっている。

図表 3-(1)-1 健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況



健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況について、

性別にみると、男女ともに「十分でないが意識している」が最も多く、その比率は『男性』(60.1%)、『女性』(64.8%)となっており、これに『男性』では「あまり意識しているとは言えない」(18.7%)が、『女性』では「十分に意識している」(20.5%)が続いている。いずれも「十分に意識している」と「十分でないが意識している」を合わせた【意識している】が「あまり意識しているとは言えない」と「全く意識していない」を合わせた【意識していない】を上回っている。

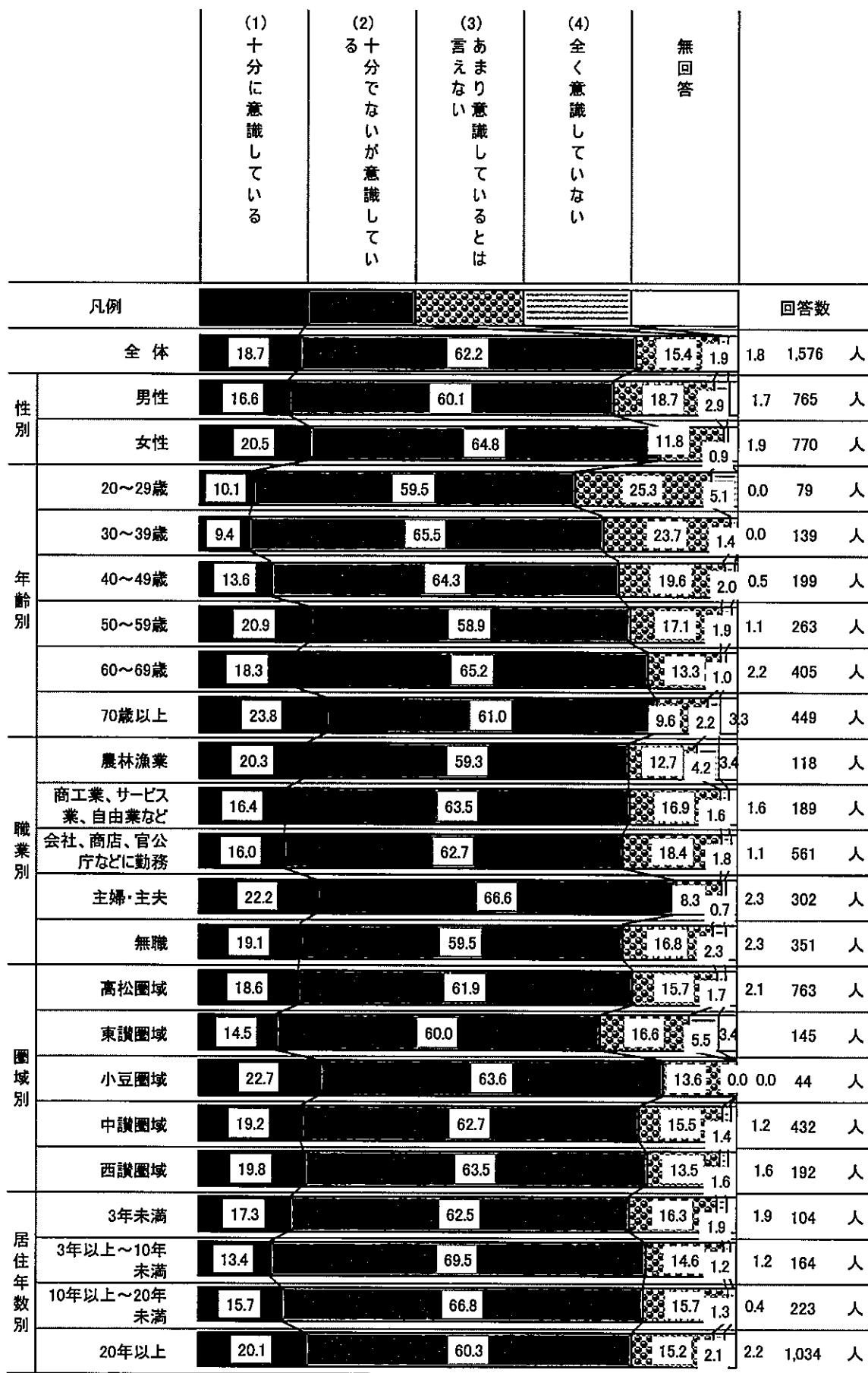
年齢別にみると、いずれも「十分でないが意識している」が半数を超える最も多くなっている。また、いずれも【意識している】が【意識していない】を上回っている。

職業別にみると、いずれも「十分でないが意識している」が半数を超える最も多くなっている。また、いずれも【意識している】が【意識していない】を上回っている。特に『主婦・主夫』では【意識している】が8割を超え最も多くなっている。

圏域別にみると、いずれも「十分でないが意識している」が6割を超え最も多くなっている。また、いずれも【意識している】が【意識していない】を上回っている。特に『小豆圏域』では【意識している】が最も多くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「十分でないが意識している」が6割を超える最も多くなっている。また、いずれも【意識している】が【意識していない】を上回っている。特に『3年以上～10年未満』では【意識している】が最も多くなっている。

図表 3-(1)-2 健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況



グラフ単位:(%)

(2) 1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度

問11 1日に1回以上、家族と一緒に食事をすることがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

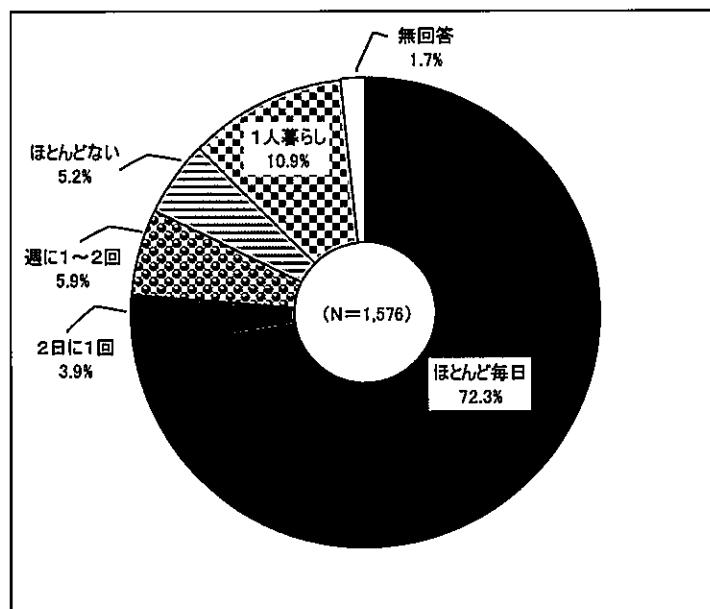
【回答者数=1,576】

1 ほとんど毎日	72.3%
2 2日に1回	3.9%
3 週に1~2回	5.9%
4 ほとんどない	5.2%
5 1人暮らし	10.9%
(無回答)	1.7%

1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度について、「ほとんど毎日」(72.3%)が最も多く、次いで「週に1~2回」(5.9%)、「ほとんどない」(5.2%)などとなっている。

「1人暮らし」と答えた人は10.9%である。

図表3-(2)-1 1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度



1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度について、

性別にみると、男女ともに「ほとんど毎日」が最も多く、その比率は『男性』(71.1%)、『女性』(74.3%)となっており、これに「週に1～2回」『男性』(7.1%)『女性』(4.5%)が続いている。

「1人暮らし」と答えた人は、『男性』が9.0%、『女性』が12.6%である。

年齢別にみると、いずれも「ほとんど毎日」が半数を超える最も多く、これに『30～39歳』、『60～69歳』では「ほとんどない」が、『70歳以上』では「週に1～2回」と「ほとんどない」が、そのほかの年齢では「週に1～2回」が続いている。

「1人暮らし」と答えた人は、『20～29歳』が24.1%、『30～39歳』が7.9%、『40～49歳』が5.5%、『50～59歳』が6.1%、『60～69歳』が8.6%、『70歳以上』が16.7%である。

職業別にみると、いずれも「ほとんど毎日」が6割を超え最も多く、これに『無職』では「ほとんどない」が、そのほかの職業では「週に1～2回」が続いている。

「1人暮らし」と答えた人は、『農林漁業』が7.6%、『商工業、サービス業、自由業など』が7.9%、『会社、商店、官公庁などに勤務』が7.1%、『主婦・主夫』が7.9%、『無職』が22.2%である。

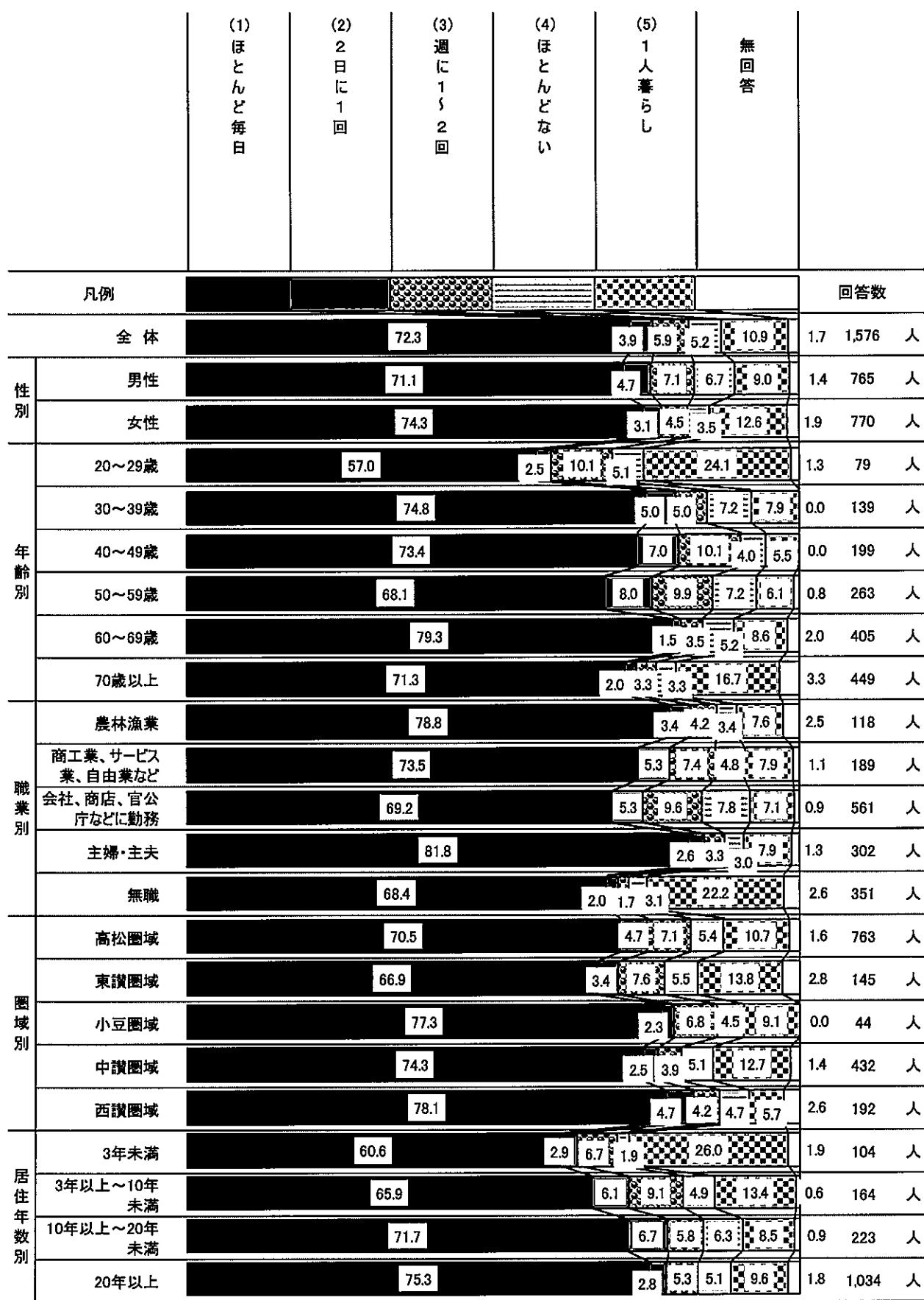
圏域別にみると、いずれも「ほとんど毎日」が6割を超える最も多く、これに『中讃地域』では「ほとんどない」が、『西讃地域』では「2日に1回」と「ほとんどない」が、そのほかの圏域では「週に1～2回」が続いている。

「1人暮らし」と答えた人は、『高松地域』が10.7%、『東讃地域』が13.8%、『小豆地域』が9.1%、『中讃地域』が12.7%、『西讃地域』が5.7%である。

居住年数別にみると、いずれも「ほとんど毎日」が6割を超える最も多く、これに『10年以上20年未満』では「2日に1回」が、そのほかの居住年数では「週に1～2回」が続いている。

「1人暮らし」と答えた人は、『3年未満』が26.0%、『3年以上10年未満』が13.4%、『10年以上20年未満』が8.5%、『20年以上』が9.6%である。

図表 3-(2)-2 1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度



グラフ単位:(%)

(3) 食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようになっている人の状況

問12 食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようになっていますか。次の中から1つだけ選んでください。

【主食】：ごはん、パン、うどんなど 【主菜】：肉、魚、卵、大豆料理など

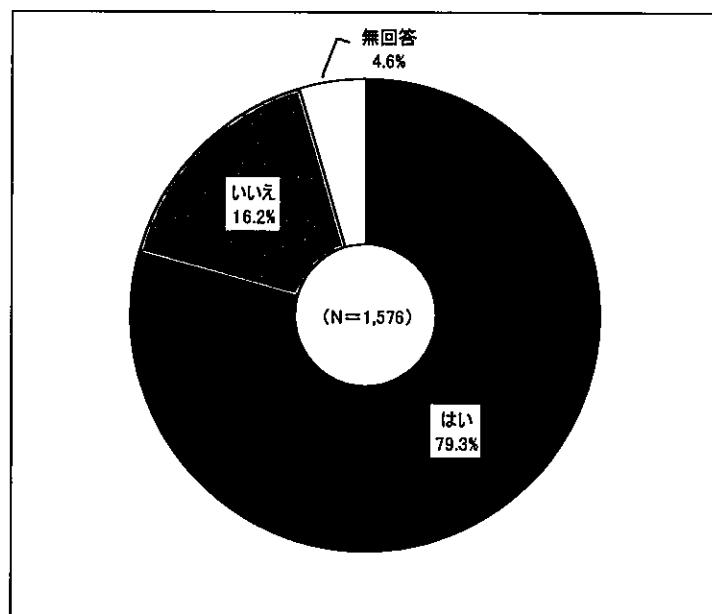
【副菜】：野菜、きのこ、いも、海藻料理など

【回答者数=1,576】

1 はい	79.3%
2 いいえ	16.2%
(無回答)	4.6%

食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようになっている人の状況について、「はい」(79.3%)、「いいえ」(16.2%)、などとなっている。

図表 3-(3)-1 食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようになっている人の状況



食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようになっている人の状況について、

性別にみると、男女ともに「はい」が最も多く、その比率は『男性』(75.9%)『女性』(82.7%)となっている。

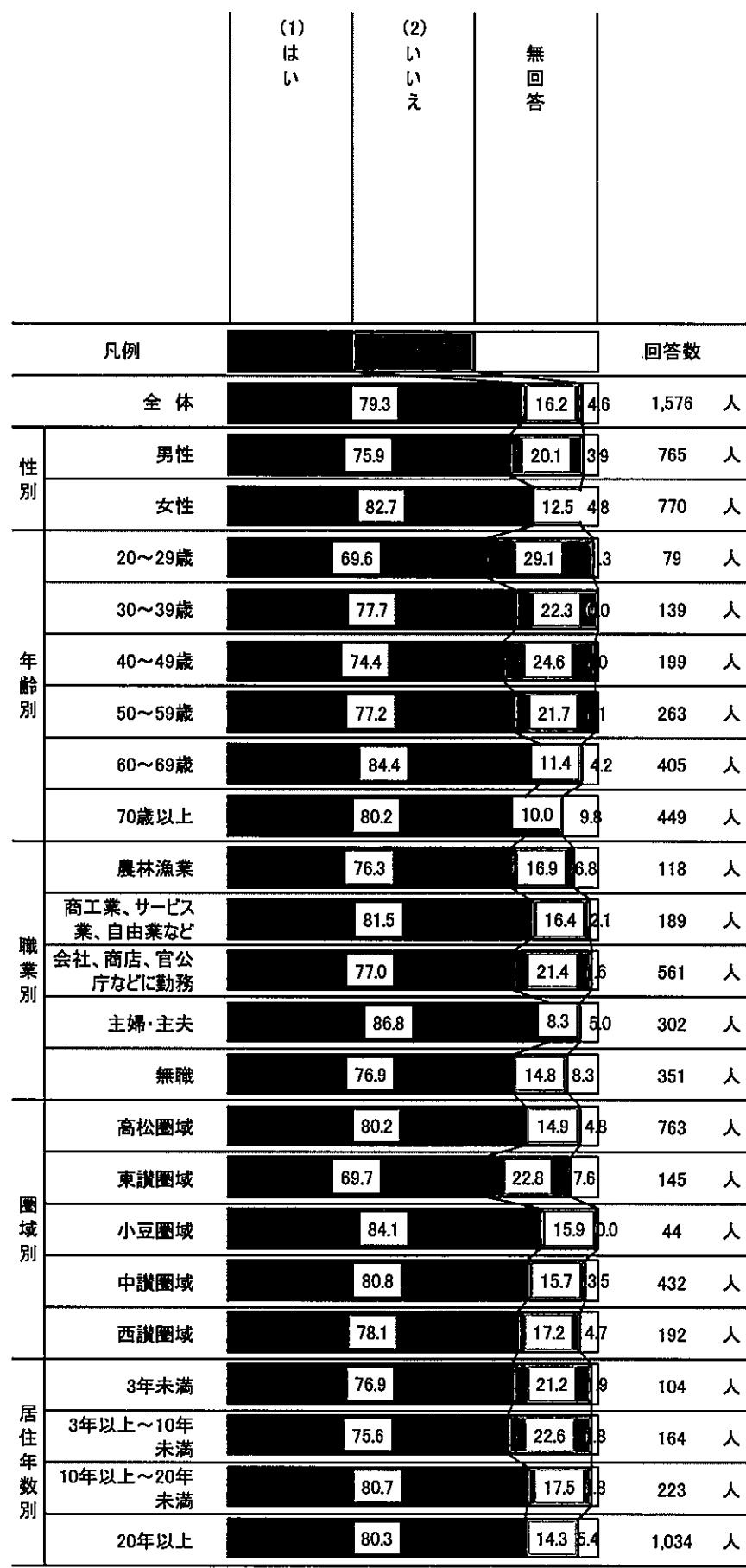
年齢別にみると、いずれも「はい」が6割を超え最も多く、特に『60~69歳』(84.4%)が最も多くなっている。

職業別にみると、いずれも「はい」が7割を超え最も多く、特に『主婦・主夫』(86.8%)が最も多くなっている。

圏域別にみると、いずれも「はい」が6割を超え最も多く、特に『小豆圏域』(84.1%)が最も多くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「はい」が7割を超え最も多く、特に『10年以上~20年未満』(80.7%)が最も多くなっている。

図表 3-(3)-2 食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようしている人の状況



グラフ単位:(%)

(4)うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況

問13 うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

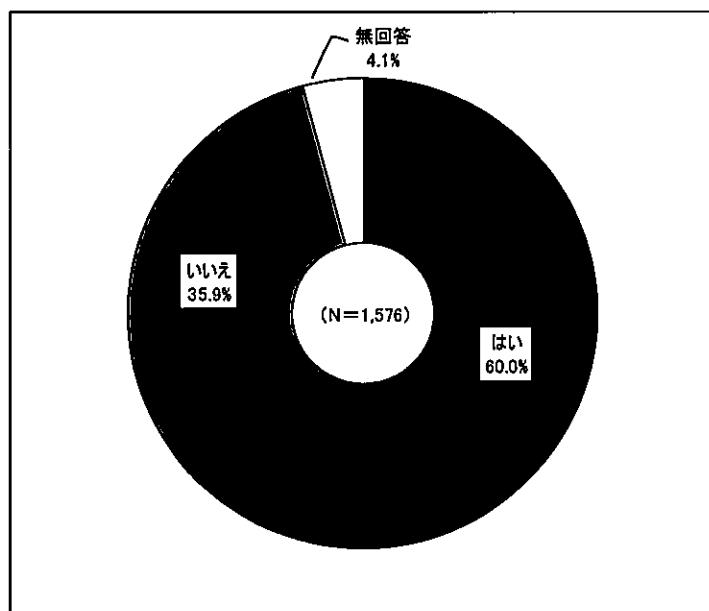
【副食】：おかず ※寿司やおにぎりなどのご飯類、パン類は除く

【回答者数=1,576】

1 はい	60.0%
2 いいえ	35.9%
(無回答)	4.1%

うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況について、「はい」(60.0%)、「いいえ」(35.9%)などとなっている。

図表 3-(4)-1 うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況



うどんを食べるときは副食をいつしょにとるようにしている人の状況について、

性別にみると、男女ともに「はい」が最も多く、その比率は『男性』(55.2%)『女性』(65.2%)となっている。

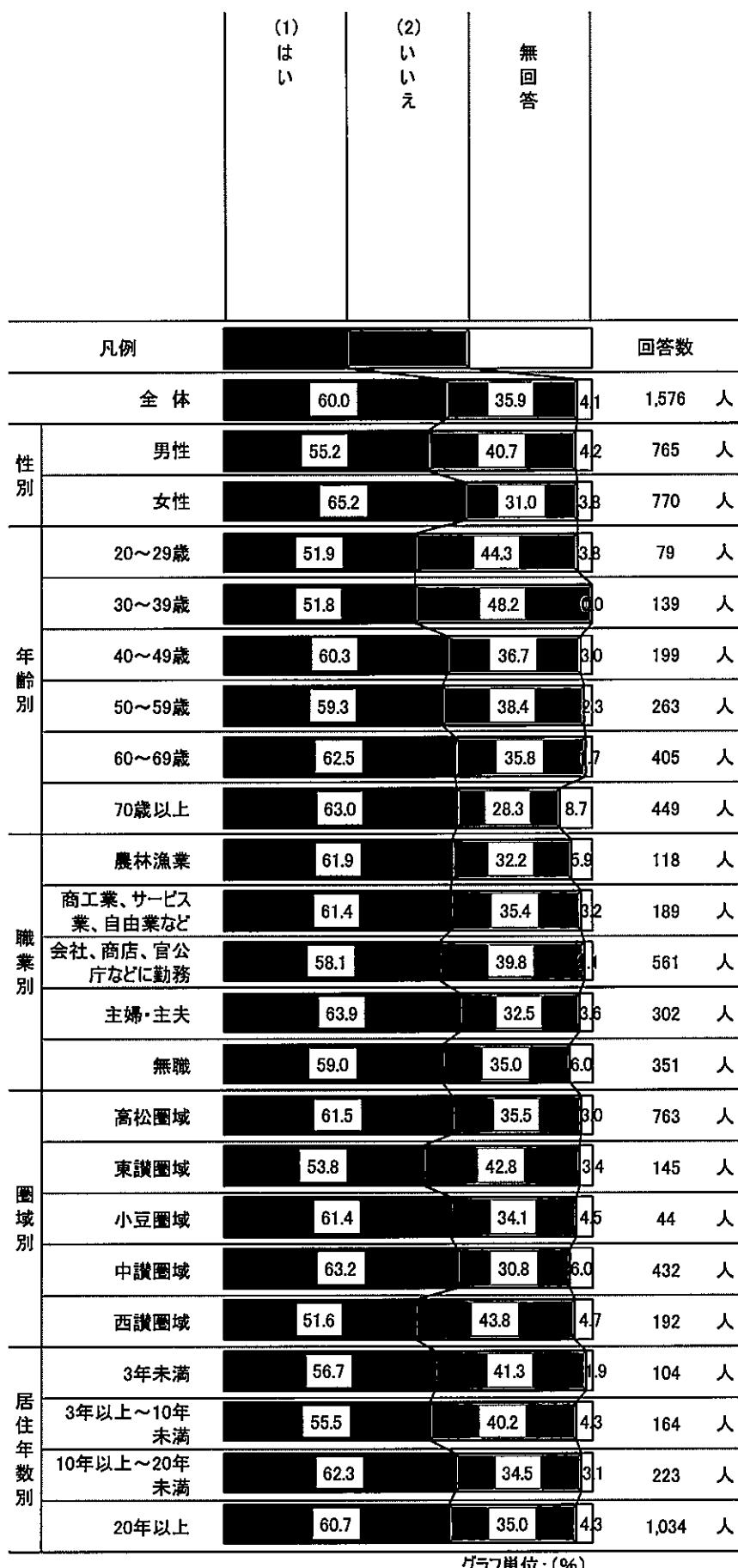
年齢別にみると、いずれも「はい」が半数を超える最も多く、特に『70歳以上』(63.0%)が最も多くなっている。

職業別にみると、いずれも「はい」が半数を超える最も多く、特に『主婦・主夫』(63.9%)が最も多くなっている。

圏域別にみると、いずれも「はい」が半数を超える最も多く、特に『中讃圏域』(63.2%)が最も多くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「はい」が半数を超える最も多く、特に『10年以上～20年未満』(62.3%)が最も多くなっている。

図表3-(4)-2 うどんを食べるときは副食をいつしょにとるようにしている人の状況



グラフ単位:(%)

(5)朝食の摂取頻度

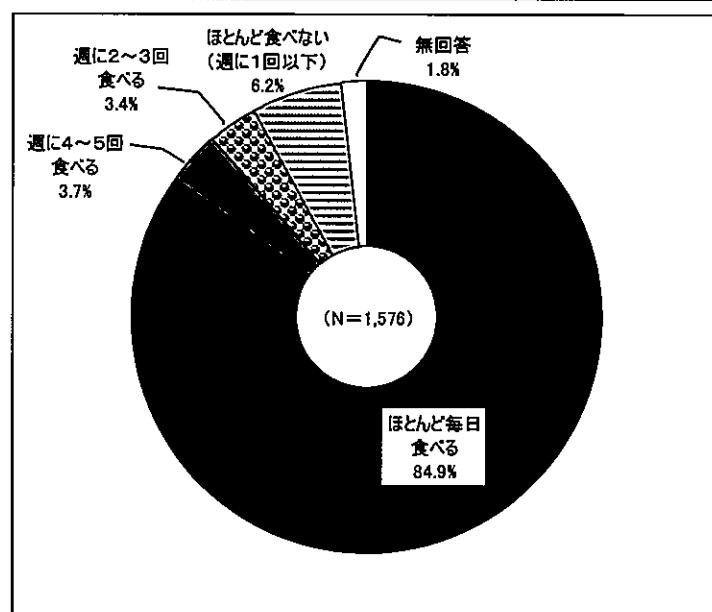
問14 朝食をどの程度食べますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

- | | |
|--------------------|-------|
| 1 ほとんど毎日食べる | 84.9% |
| 2 週に4～5回食べる | 3.7% |
| 3 週に2～3回食べる | 3.4% |
| 4 ほとんど食べない（週に1回以下） | 6.2% |
| (無回答) | 1.8% |

朝食の摂取頻度について、「ほとんど毎日食べる」(84.9%)が最も多く、次いで「ほとんど食べない（週に1回以下）」(6.2%)、「週に4～5回食べる」(3.7%)、「週に2～3回食べる」(3.4%)などとなっている。

図表3-(5)-1 朝食の摂取頻度



朝食の摂取頻度について、

性別にみると、男女ともに「ほとんど毎日食べる」が最も多く、その比率は『男性』(82.0%)『女性』(88.2%)となっており、これに「ほとんど食べない』『男性』(8.2%)、『女性』(4.0%)が続いている。

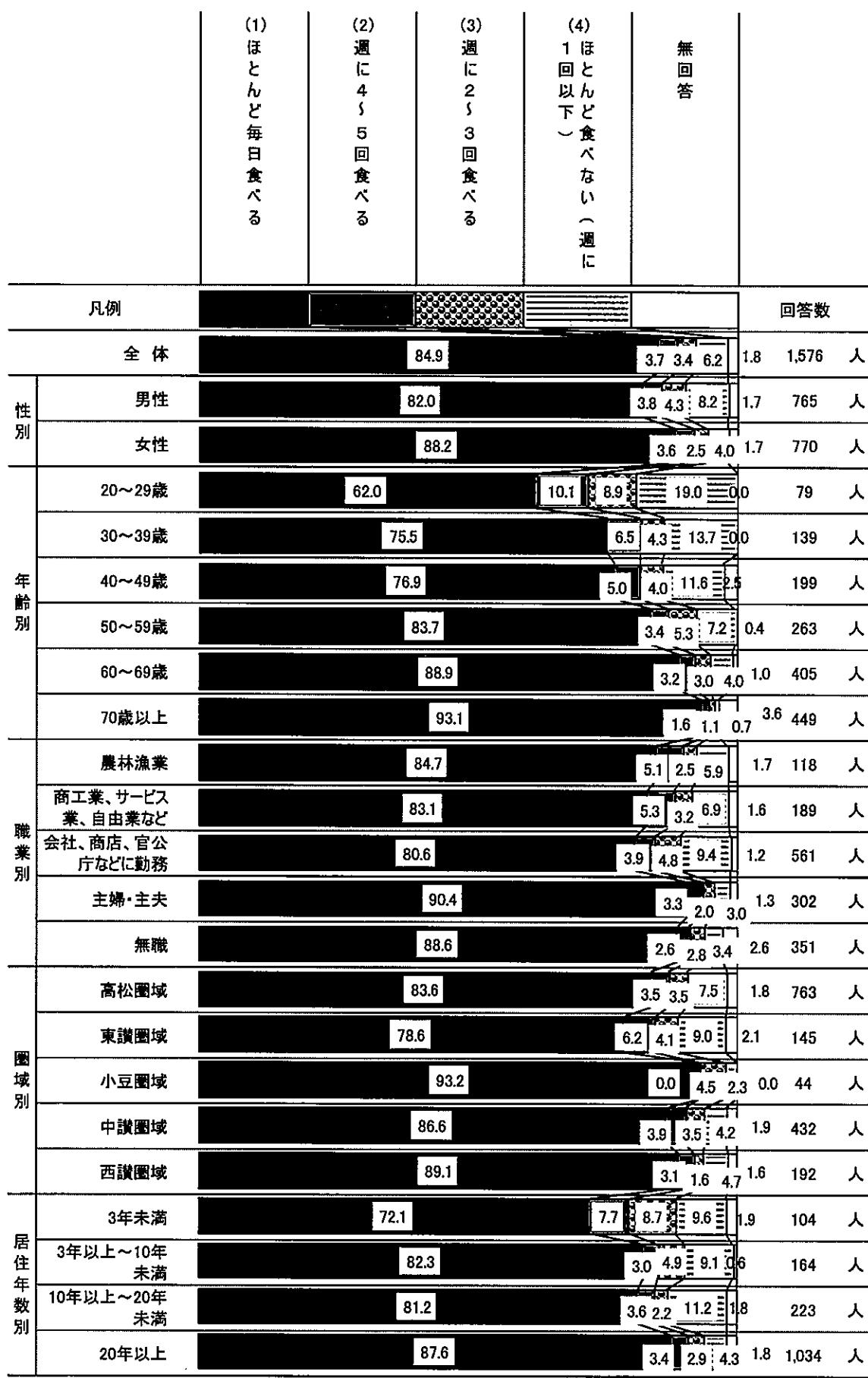
年齢別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が6割を超え最も多く、これに『70歳以上』では「週に4~5回食べる」が、そのほかの年齢では「ほとんど食べない（週に1回以下）」が続いている。

職業別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が8割を超え最も多く、これに『主婦・主夫』では「週に4~5回食べる」が、そのほかの職業では「ほとんど食べない（週に1回以下）」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が7割を超え最も多く、これに『小豆圏域』では「週に2~3回食べる」が、そのほかの圏域では「ほとんど食べない（週に1回以下）」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が7割を超える最も多く、これに「ほとんど食べない（週に1回以下）」が続いている。

図表 3-(5)-2 朝食の摂取頻度



グラフ単位:(%)

(6)身長・体重

問15 差し支えなければ、あなたの身長・体重をご記入ください。

【回答者数=1,576】

身長

(無回答)

8.4%

体重

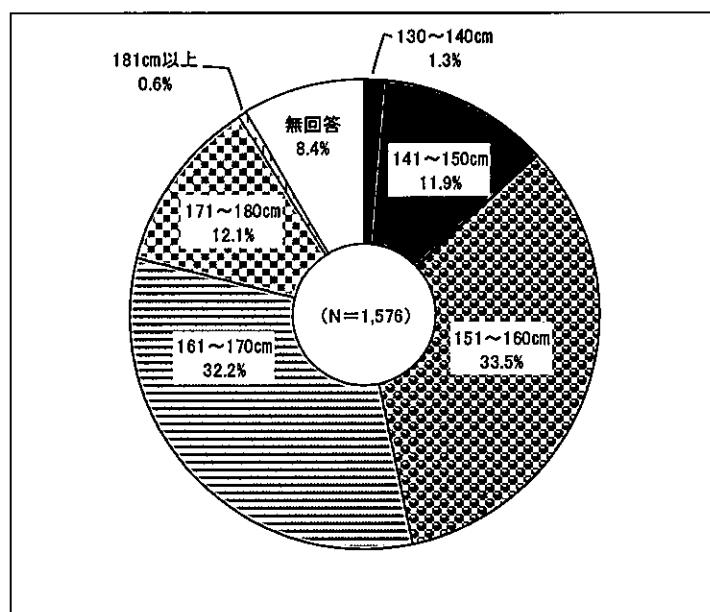
(無回答)

9.8%

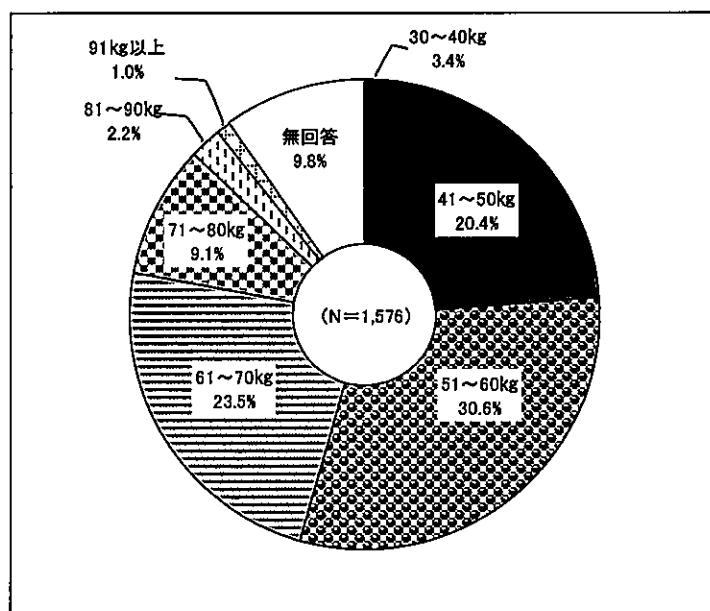
身長について、平均は（160.9 cm）となっている。

体重について、平均は（58.9 kg）となっている。

図表 3-(6)-1 身長



図表 3-(6)-2 体重



身長について、

性別にみると、『男性』では「161cm～170cm」(52.0%)が、『女性』では「151cm～160cm」(51.6%)が最も多くなっており、これに『男性』では「171cm～180cm」(24.1%)が、『女性』では「141cm～150cm」(23.1%)が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『40～49歳』では「161cm～170cm」が、『30～39歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「151cm～160cm」が最も多くなっている。『50～59歳』では「151cm～160cm」、「161cm～170cm」が同率で最も多くなっている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業で「161cm～170cm」が最も多く、『主婦・主夫』では「151cm～160cm」が最も多くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「151cm～160cm」が、そのほかの圏域では「161cm～170cm」が最も多くなっている。

居住年数別にみると、ほぼ全ての居住年数で「151cm～160cm」が最も多く、『3年未満』では「161cm～170cm」が最も多くなっている。

体重について、

性別にみると、『男性』では「61kg～70kg」(35.6%)が、『女性』では「41kg～50kg」(35.3%)が最も多くなっており、これに「51kg～60kg」『男性』(30.1%)、『女性』(31.9%)が続いている。

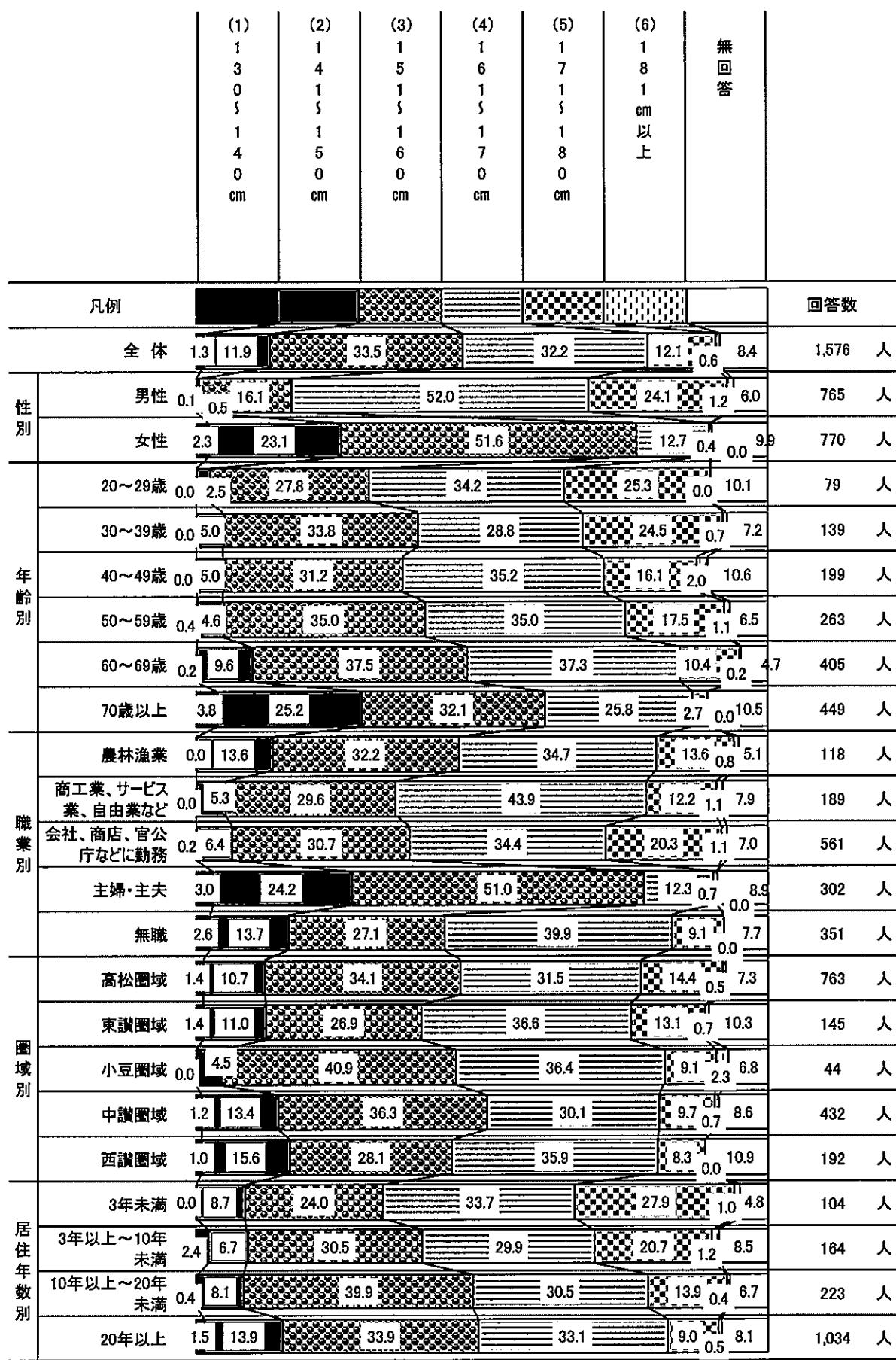
年齢別にみると、ほぼ全ての年齢で「51kg～60kg」が最も多く、『30～39歳』では「41kg～50kg」が最も多くなっている。

職業別にみると、いずれも「51kg～60kg」が最も多く、これに『主婦・主夫』では「41kg～50kg」が、そのほかの職業では「61kg～70kg」が続いている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「51kg～60kg」が最も多く、『小豆圏域』では「61kg～70kg」が最も多くなっている。

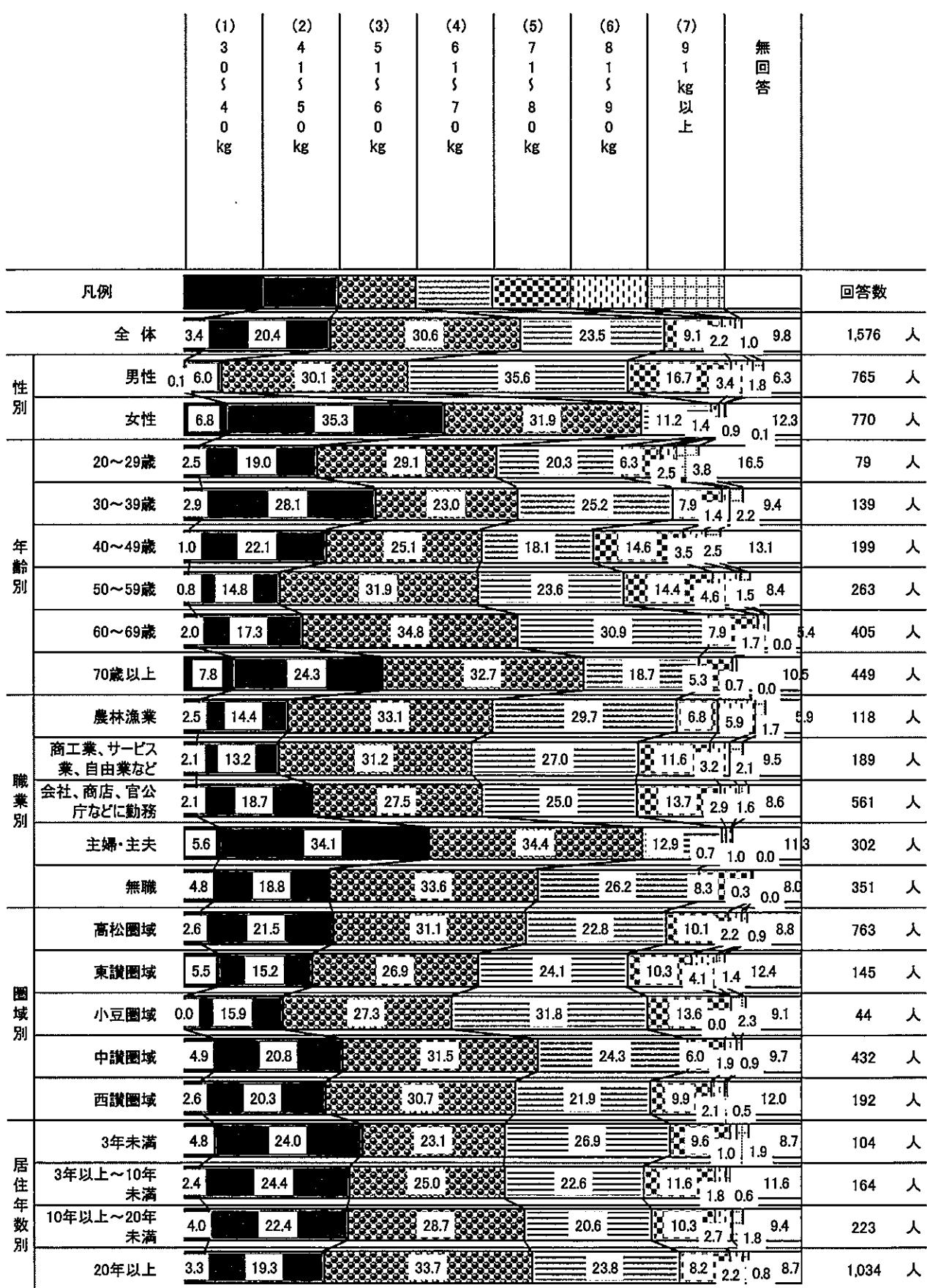
居住年数別にみると、ほぼ全ての居住年数で「51kg～60kg」が最も多く、『3年未満』では「61～70kg」が最も多くなっている。

図表 3-(6)-3 身長



グラフ単位:(%)

図表 3-(6)-4 体重



グラフ単位:(%)

4. 地域医療の充実について

(1) 自分の最期を迎えるたい場所

問16 あなたは、ご自分の最期をどこで迎えたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

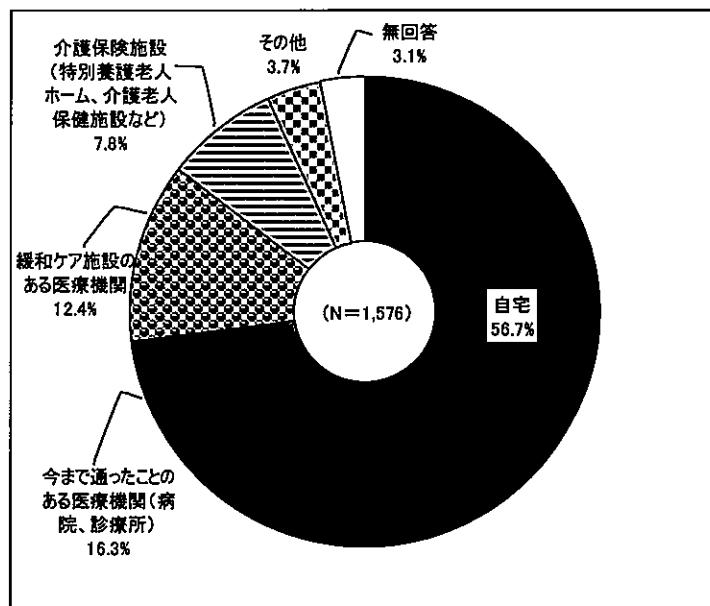
【回答者数=1,576】

- | | | |
|--------------------------------|--------------|-------|
| 1 自宅 | ⇒問17にお進みください | 56.7% |
| 2 今まで通ったことのある医療機関（病院、診療所） | | 16.3% |
| 3 緩和ケア施設のある医療機関 | | 12.4% |
| 4 介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など） | | 7.8% |
| 5 その他（具体的に：） | | 3.7% |
| (無回答) | | 3.1% |

3、4、5を選んだ方は、問18にお進みください

自分の最期を迎えるたい場所について、「自宅」(56.7%) が最も多く、次いで「今まで通ったことのある医療機関（病院、診療所）」(16.3%)、「緩和ケア施設のある医療機関」(12.4%)、「介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）」(7.8%) などとなっている。

図表 4-(1)-1 自分の最期を迎えるたい場所



自分の最期を迎える場所について、

性別にみると、男女ともに「自宅」が最も多く、その比率は、『男性』(63.3%)、『女性』(50.0%)となっており、これに「今まで通ったことのある医療機関（病院、診療所）」『男性』(15.6%)、『女性』(17.3%)が続いている。

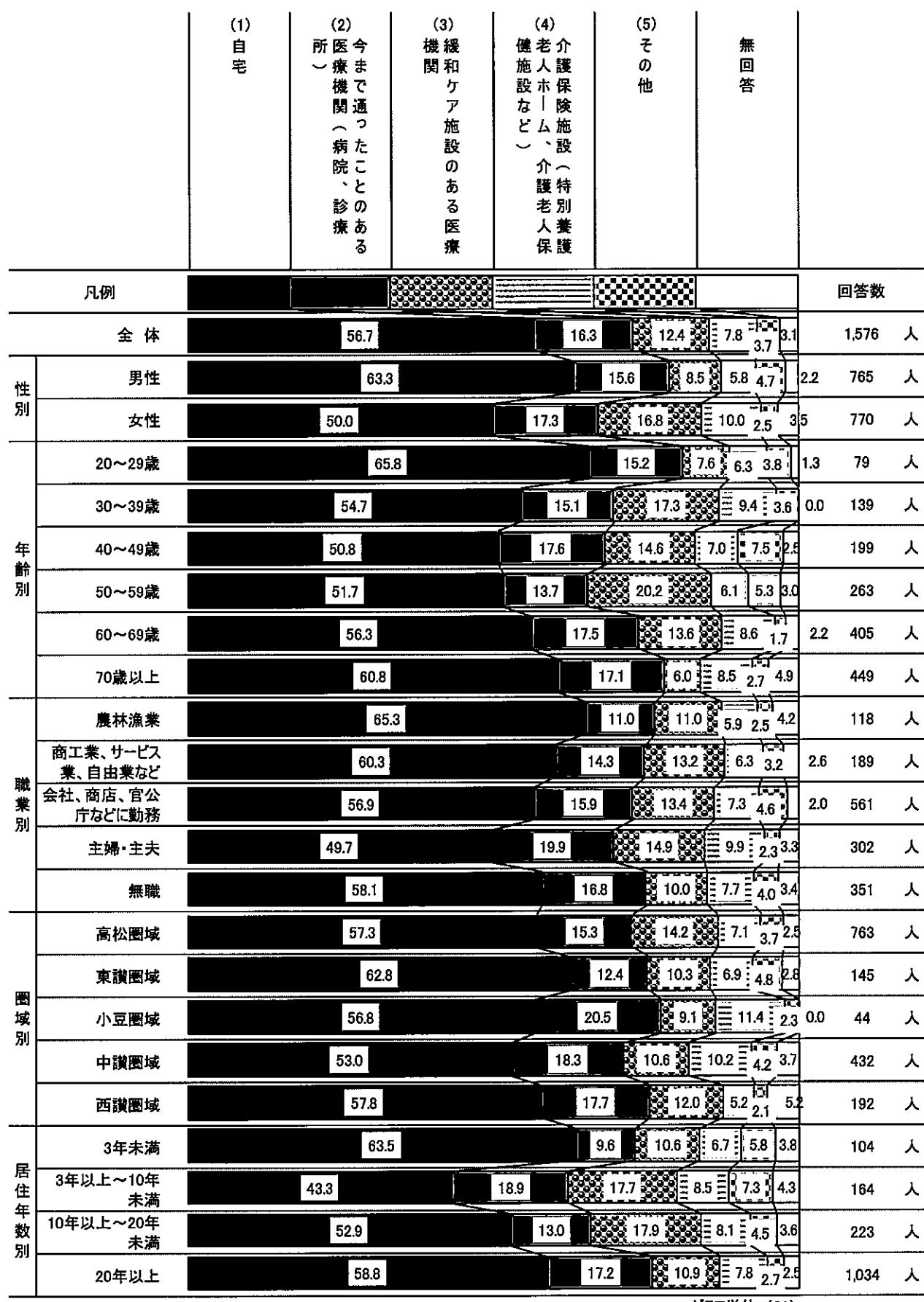
年齢別にみると、いずれも「自宅」が半数を超えて最も多くなっている。また『50～59歳』では「緩和ケア施設のある医療機関」が2割を超え、そのほかの年齢と比べるとやや多くなっている。

職業別にみると、いずれも「自宅」が最も多くなっている。また『主婦・主夫』では「緩和ケア施設のある医療機関」がそのほかの職業と比べるとやや多くなっている。

圏域別にみると、いずれも「自宅」が半数を超えて最も多くなっている。また『小豆圏域』では「今まで通ったことのある医療機関（病院、診療所）」がそのほかの圏域と比べるとやや多くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「自宅」が最も多くなっている。また『3年以上～10年未満』では「今まで通ったことのある医療機関（病院、診療所）」がそのほかと比べるとやや多くなっている。

図表 4-(1)-2 自分の最期を迎える場所



グラフ単位:(%)

(2) 自宅で最期を迎える理由

【問16で「1 自宅」と答えた方にお聞きします】

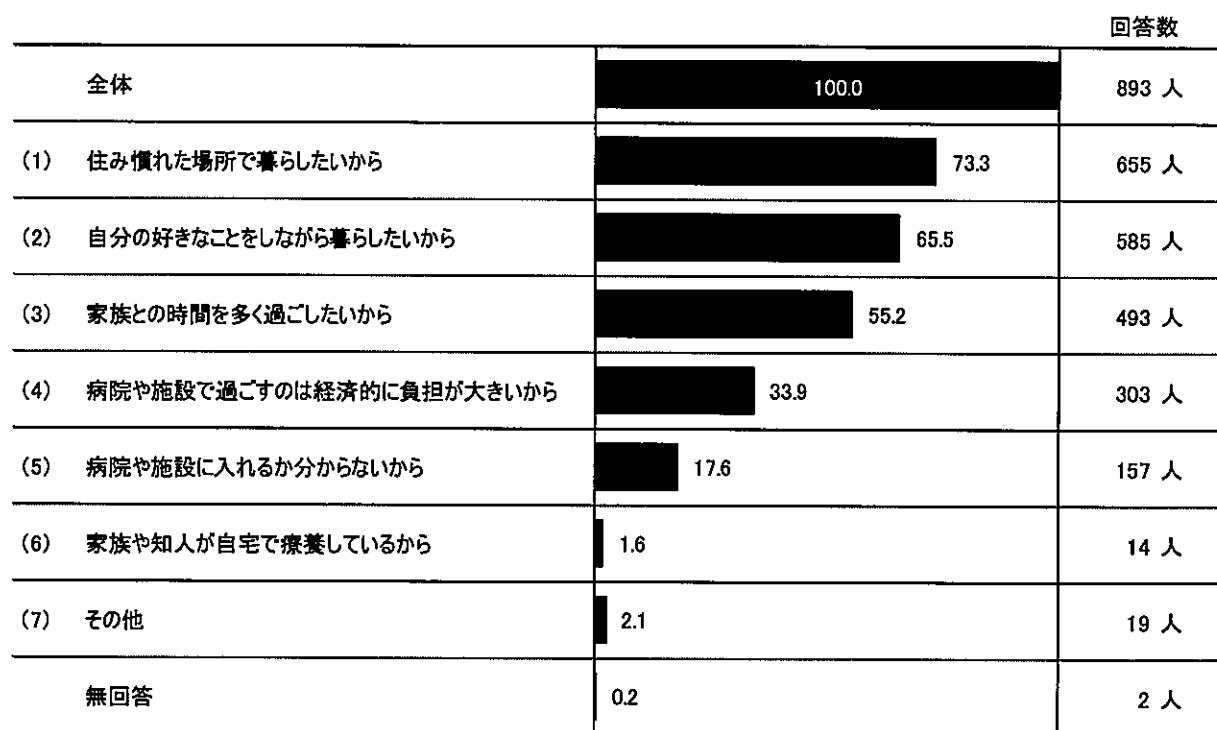
問17 なぜ、自宅で最期を迎えるたいと思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=893】

1 住み慣れた場所で暮らしたいから	73.3%
2 自分の好きなことをしながら暮らしたいから	65.5%
3 家族との時間を多く過ごしたいから	55.2%
4 病院や施設で過ごすのは経済的に負担が大きいから	33.9%
5 病院や施設に入れるか分からないから	17.6%
6 家族や知人が自宅で療養しているから	1.6%
7 その他（具体的に：）	2.1%
(無回答)	0.2%

自宅で最期を迎える理由について、「住み慣れた場所で暮らしたいから」(73.3%) が最も多く、次いで「自分の好きなことをしながら暮らしたいから」(65.5%)、「家族との時間を多く過ごしたいから」(55.2%)、「病院や施設で過ごすのは経済的に負担が大きいから」(33.9%) などとなっている。

図表 4-(2)-1 自宅で最期を迎える理由



自宅で最期を迎える理由について、

性別にみると、男女ともに「住み慣れた場所で暮らしたいから」が最も多く、その比率は『男性』(74.0%)、『女性』(71.9%)となっており、これに「自分の好きなことをしながら暮らしたいから」『男性』(65.9%)『女性』(65.7%)が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』では「住み慣れた場所で暮らしたいから」、「家族との時間を多く過ごしたいから」が同率で最も多くなっている。『50～59歳』では「自分の好きなことをしながら暮らしたいから」が、そのほかの年齢では「住み慣れた場所で暮らしたいから」が最も多くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』では「自分の好きなことをしながら暮らしたいから」が最も多く、そのほかの職業では「住み慣れた場所で暮らしたいから」が7割を超える最も多くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「自分の好きなことをしながら暮らしたいから」が最も多く、そのほかの圏域では「住み慣れた場所で暮らしたいから」が6割を超え最も多くなっている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』では「家族との時間を多く過ごしたいから」が最も多く、そのほかでは「住み慣れた場所で暮らしたいから」が6割を超え最も多くなっている。

図表 4-(2)-2 自宅で最期を迎える理由

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答	
単位:比率(%)										
全体		893	73.3	65.5	55.2	33.9	17.6	1.6	2.1	0.2
性別	男性	484	74.0	65.9	54.3	32.4	15.9	1.9	2.5	0.4
	女性	385	71.9	65.7	56.1	36.1	20.3	1.3	1.8	-
年齢別	20～29歳	52	63.5	57.7	63.5	23.1	3.8	-	1.9	1.9
	30～39歳	76	69.7	64.5	69.7	21.1	6.6	2.6	2.6	-
	40～49歳	101	70.3	64.4	62.4	38.6	18.8	3.0	4.0	-
	50～59歳	136	67.6	70.6	57.4	37.5	30.9	0.7	0.7	-
	60～69歳	228	75.4	67.5	50.9	37.3	20.2	0.9	1.8	0.4
	70歳以上	273	78.0	65.2	49.8	33.3	15.0	2.2	2.2	-
職業別	農林漁業	77	74.0	55.8	58.4	33.8	16.9	1.3	-	-
	商工業、サービス業、自由業など	114	68.4	74.6	60.5	34.2	15.8	3.5	1.8	-
	会社、商店、官公庁などに勤務	319	73.0	64.3	58.9	32.9	18.2	1.6	2.2	0.6
	主婦・主夫	150	73.3	69.3	56.0	32.7	20.0	-	2.0	-
	無職	204	75.0	65.2	44.6	36.8	17.6	1.5	2.0	-
地域別	高松圏域	437	76.0	66.4	56.3	34.8	17.6	1.6	2.3	0.2
	東讃圏域	91	71.4	60.4	41.8	29.7	18.7	-	1.1	-
	小豆圏域	25	80.0	84.0	72.0	32.0	16.0	-	12.0	-
	中讃圏域	229	69.0	65.9	54.6	36.7	18.3	1.7	1.7	0.4
	西讃圏域	111	72.1	61.3	59.5	28.8	15.3	2.7	0.9	-
居住年数別	3年未満	66	74.2	72.7	62.1	28.8	9.1	-	3.0	-
	3年以上～10年未満	71	64.8	66.2	70.4	28.2	15.5	1.4	5.6	-
	10年以上～20年未満	118	67.8	63.6	57.6	37.3	19.5	-	1.7	-
	20年以上	608	75.0	65.6	52.3	34.5	18.6	2.0	1.5	0.3

(3)自宅以外で最期を迎える理由

【問16で「1 自宅」以外と答えた方にお聞きします】

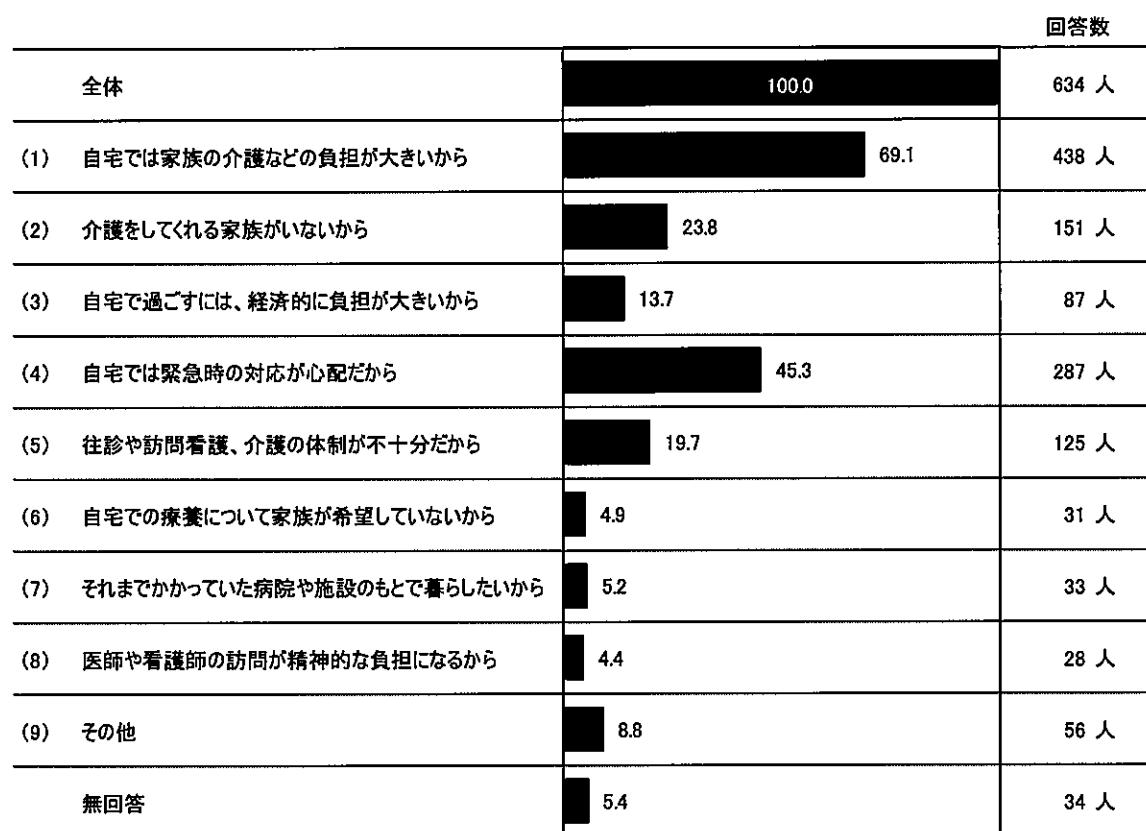
問18 なぜ、自宅以外の所で最期を迎えるたいと思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=634】

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1 自宅では家族の介護などの負担が大きいから | 69.1% |
| 2 介護をしてくれる家族がいないから | 23.8% |
| 3 自宅で過ごすには、経済的に負担が大きいから | 13.7% |
| 4 自宅では緊急時の対応が心配だから | 45.3% |
| 5 往診や訪問看護、介護の体制が不十分だから | 19.7% |
| 6 自宅での療養について家族が希望していないから | 4.9% |
| 7 それまでかかっていた病院や施設のもとで暮らしたいから | 5.2% |
| 8 医師や看護師の訪問が精神的な負担になるから | 4.4% |
| 9 その他（具体的に：） | 8.8% |
| (無回答) | 5.4% |

自宅以外で最期を迎える理由について、「自宅では家族の介護などの負担が大きいから」(69.1%)が最も多く、次いで「自宅では緊急時の対応が心配だから」(45.3%)、「介護をしてくれる家族がいないから」(23.8%)、「往診や訪問看護、介護の体制が不十分だから」(19.7%)などとなっている。

図表 4-(3)-1 自宅以外で最期を迎える理由



グラフ単位:(%)

自宅以外で最期を迎える理由について、

性別にみると、男女ともに「自宅では家族の介護などの負担が大きいから」が最も多く、その比率は『男性』(63.6%)、『女性』(73.5%)となっており、これに「自宅では緊急時の対応が心配だから」『男性』(45.1%)、『女性』(45.5%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「自宅では家族の介護などの負担が大きいから」が6割を超え最も多く、これに「自宅では緊急時の対応が心配だから」が続いている。

職業別にみると、いずれも「自宅では家族の介護などの負担が大きいから」が半数を超え最も多く、これに「自宅では緊急時の対応が心配だから」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「自宅では家族の介護などの負担が大きいから」が6割を超える最も多く、これに「自宅では緊急時の対応が心配だから」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「自宅では家族の介護などの負担が大きいから」が半数を超える最も多く、これに「自宅では緊急時の対応が心配だから」が続いている。

図表 4-(3)-2 自宅以外で最期を迎える理由

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	無回答	
		回答者数(人)	自宅では家族の介護などの負担が大きいから	介護をしてくれる家族がないから	自宅で過ごすには、経済的に負担が大きいから	自宅では緊急時の対応が心配だから	往診や訪問看護、介護の体制が不十分だから	自宅での療養について家族が希望していないから	これまでかかっていた病院や施設のもとで暮らしたいから	医師や看護師の訪問が精神的な負担になるから	その他	
単位:比率(%)												
全体		634	69.1	23.8	13.7	45.3	19.7	4.9	5.2	4.4	8.8	5.4
性別	男性	264	63.6	19.7	12.5	45.1	24.6	7.2	3.0	4.9	13.3	6.8
	女性	358	73.5	27.1	15.1	45.5	15.9	3.4	7.0	4.2	5.6	3.9
年齢別	20~29歳	26	69.2	-	15.4	46.2	19.2	-	-	3.8	11.5	7.7
	30~39歳	63	84.1	6.3	12.7	30.2	11.1	-	1.6	-	6.3	4.8
	40~49歳	93	73.1	21.5	21.5	40.9	12.9	1.1	2.2	1.1	16.1	4.3
	50~59歳	119	71.4	19.3	16.8	42.0	17.6	3.4	3.4	3.4	10.9	3.4
	60~69歳	168	66.7	26.8	10.7	51.8	25.6	4.2	8.3	4.8	5.4	6.0
	70歳以上	154	61.7	37.0	11.0	49.4	22.7	12.3	7.8	9.1	7.8	5.8
職業別	農林漁業	36	61.1	36.1	8.3	38.9	25.0	2.8	5.6	2.8	11.1	11.1
	商工業、サービス業、自由業など	70	77.1	14.3	12.9	50.0	17.1	4.3	1.4	1.4	7.1	2.9
	会社、商店、官公庁などに勤務	231	74.9	15.6	16.9	41.1	18.2	3.0	2.2	3.5	10.4	4.8
	主婦・主夫	142	75.4	26.1	14.1	47.2	15.5	4.2	12.0	4.9	6.3	4.2
	無職	135	52.6	37.0	11.1	49.6	25.9	9.6	5.9	7.4	9.6	5.2
地域別	高松圏域	307	69.1	23.1	14.3	48.9	21.2	5.9	6.2	5.2	8.5	4.9
	東讃圏域	50	70.0	28.0	14.0	36.0	16.0	4.0	2.0	2.0	8.0	4.0
	小豆圏域	19	78.9	15.8	5.3	42.1	21.1	-	-	5.3	10.5	5.3
	中讃圏域	187	66.8	21.4	15.5	44.4	18.7	3.2	4.8	4.3	9.1	7.0
	西讃圏域	71	71.8	32.4	8.5	39.4	18.3	7.0	5.6	2.8	9.9	4.2
居住年数別	3年未満	34	55.9	17.6	20.6	29.4	11.8	-	2.9	2.9	17.6	14.7
	3年以上~10年未満	86	72.1	15.1	16.3	41.9	20.9	-	4.7	1.2	11.6	5.8
	10年以上~20年未満	97	70.1	18.6	10.3	37.1	16.5	1.0	1.0	3.1	12.4	5.2
	20年以上	400	69.5	27.8	13.8	49.3	20.5	7.5	6.5	5.5	6.8	4.3

(4)「かかりつけ医」の有無

【全員の方にお聞きします】

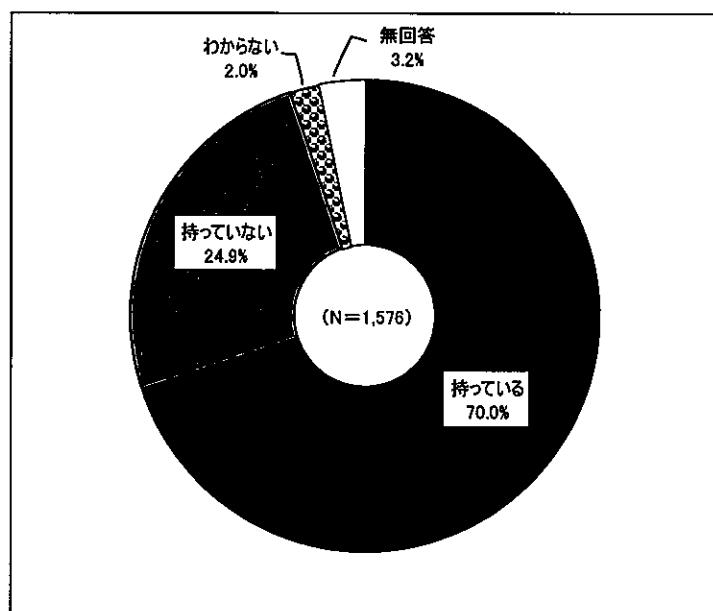
問19 あなたは、日ごろから病気やけがの時に診察を受けることを決めている「かかりつけ医」を持っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 持っている	⇒問20にお進みください	70.0%
2 持っていない	⇒問21にお進みください	24.9%
3 わからない		2.0%
(無回答)		3.2%

「かかりつけ医」の有無について、「持っている」(70.0%)、「持っていない」(24.9%)、「わからない」(2.0%)などとなっている。

図表 4-(4)-1 「かかりつけ医」の有無



「かかりつけ医」の有無について、

性別にみると、男女ともに「持っている」が最も多く、その比率は『男性』(66.5%)、『女性』(73.4%) となっている。

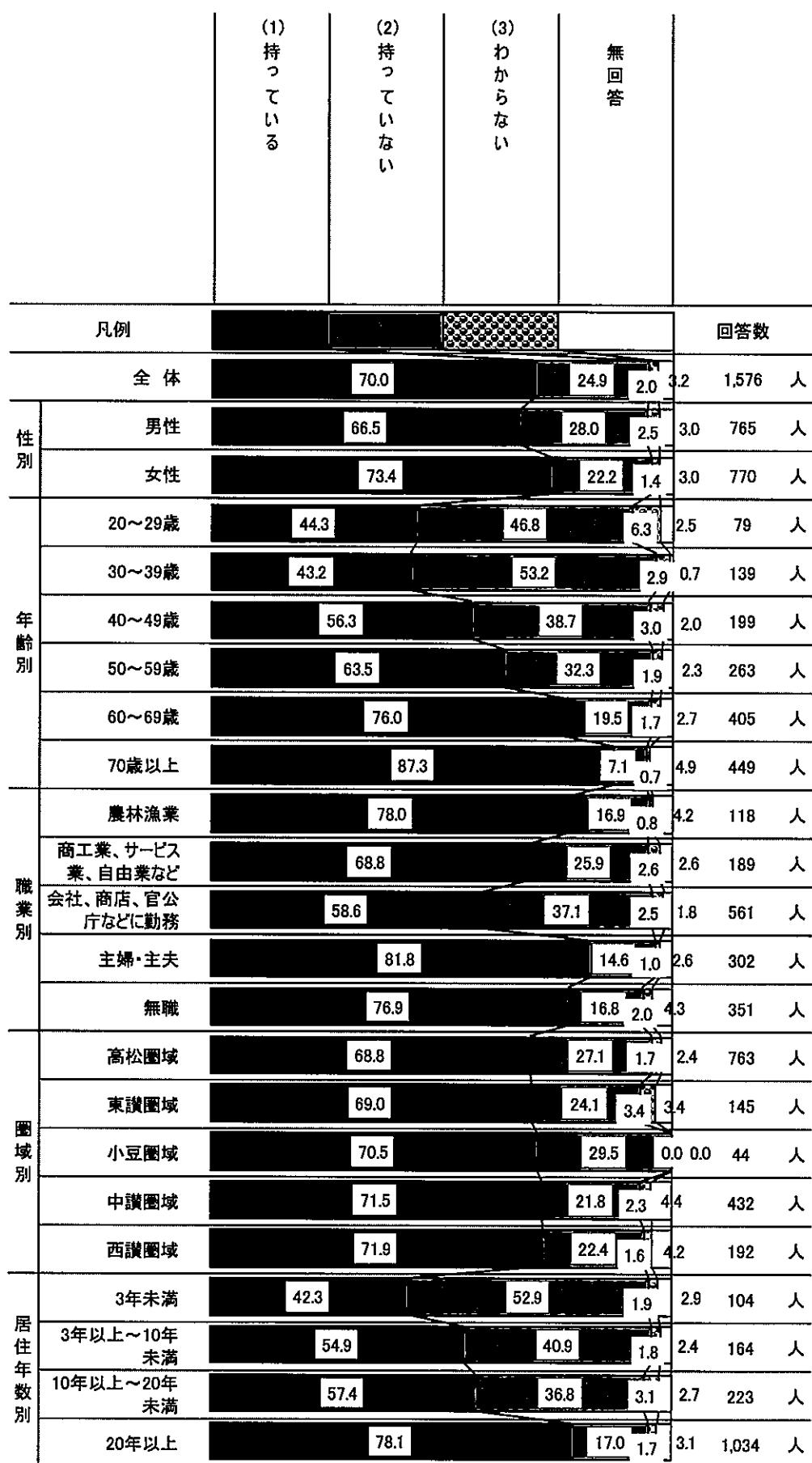
年齢別にみると、『20～29 歳』、『30～39 歳』では「持っていない」が最も多く、「持っていない」が「持っている」をやや上回っている。そのほかの年齢では「持っている」が半数を超え、特に『70 歳以上』では 8 割を超える結果となっている。

職業別にみると、いずれも「持っている」が半数を超える最も多く、「持っている」が「持っていない」を上回っているものの、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「持っていない」が 3 割を超える結果となっている。

団域別にみると、いずれも「持っている」が 6 割を超える最も多く、「持っている」が「持っていない」を上回っている。

居住年数別にみると、『3 年未満』では「持っていない」が半数を超える最も多く、「持っていない」が「持っている」をやや上回っている。そのほかでは「持っている」が半数を超える、特に『20 歳以上』では 7 割を超える結果となっている。

図表 4-(4)-2 「かかりつけ医」の有無



グラフ単位:(%)

(5)「かかりつけ医」の所属施設

【問19で「1 持っている」と答えた方にお聞きします】

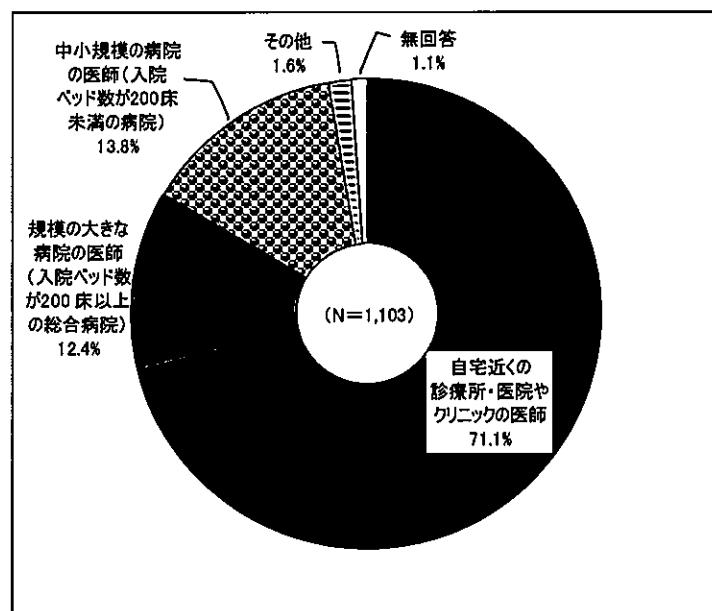
問20 あなたのかかりつけ医は、どのような施設の医師ですか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,103】

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| 1 自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師 | 71.1% |
| 2 規模の大きな病院の医師（入院ベッド数が200床以上の総合病院） | 12.4% |
| 3 中小規模の病院の医師（入院ベッド数が200床未満の病院） | 13.8% |
| 4 その他（具体的に：） | 1.6% |
| （無回答） | 1.1% |

「かかりつけ医」の所属施設について、「自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師」(71.1%)が最も多く、次いで「中小規模の病院の医師（入院ベッド数が200床未満の病院）」(13.8%)、「規模の大きな病院の医師（入院ベッド数が200床以上の総合病院）」(12.4%)などとなっている。

図表 4-(5)-1 「かかりつけ医」の所属施設



「かかりつけ医」の所属施設について、

性別にみると、男女ともに「自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師」が最も多く、その比率は『男性』(69.7%)、『女性』(71.9%)となっており、これに「中小規模の病院の医師（入院ベッド数が200床未満の病院）」「男性」(14.9%)、『女性』(13.1%)が続いている。

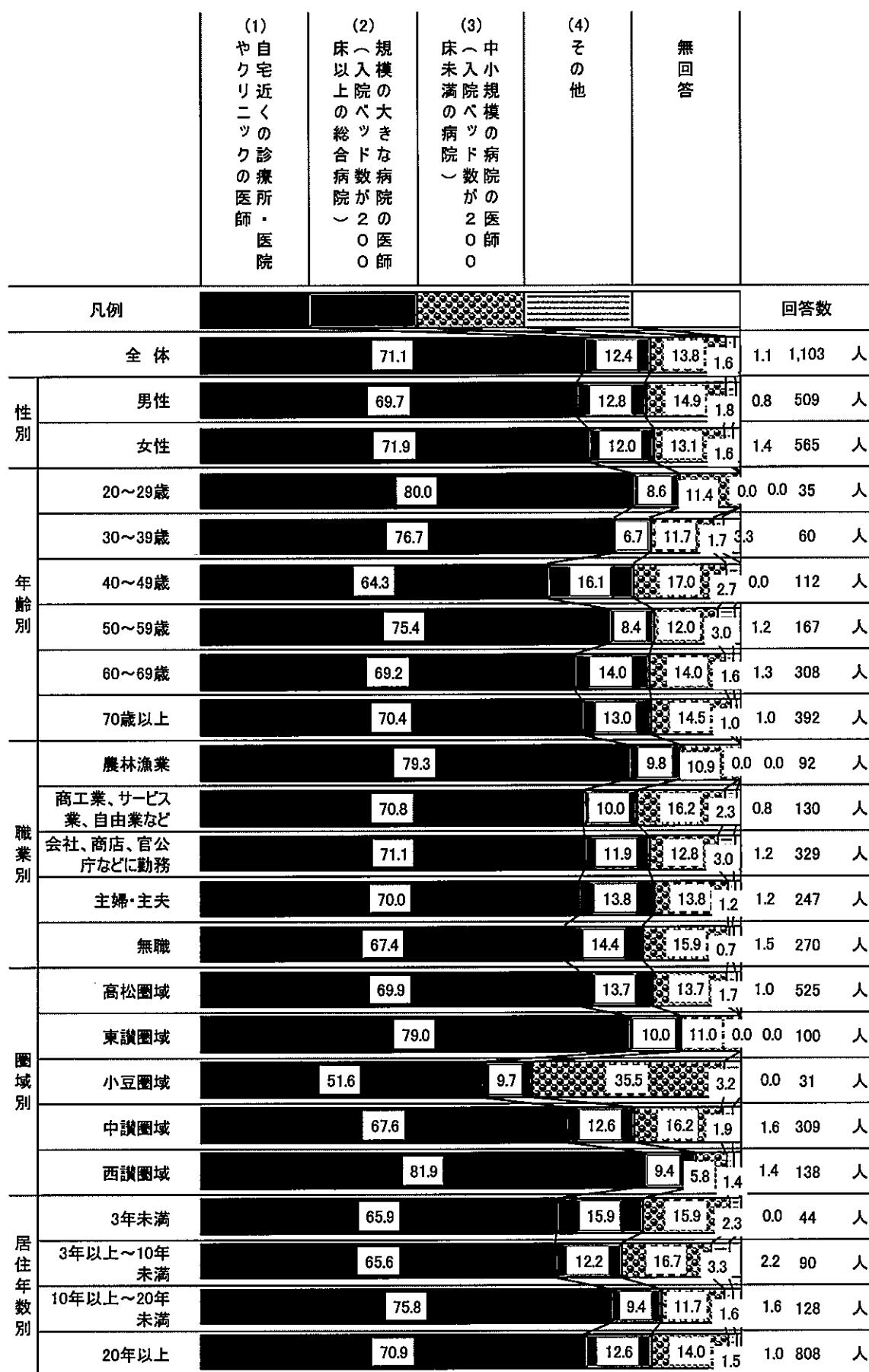
年齢別にみると、いずれも「自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師」が6割を超え最も多く、これに『60～69歳』では「規模の大きな病院の医師（入院ベッド数が200床以上の総合病院）」、「中小規模の病院の医師（入院ベッド数が200床未満の病院）」が同率で続いている。そのほかの年齢では「中小規模の病院の医師（入院ベッド数が200床未満の病院）」が続いている。

職業別にみると、いずれも「自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師」が6割を超え最も多く、これに『主婦・主夫』では「規模の大きな病院の医師（入院ベッド数が200床以上の総合病院）」、「中小規模の病院の医師（入院ベッド数が200床未満の病院）」が同率で続いている。そのほかの職業では「中小規模の病院の医師（入院ベッド数が200床未満の病院）」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師」が半数を超える多くなっている。これに『高松圏域』では「規模の大きな病院の医師（入院ベッド数が200床以上の総合病院）」、「中小規模の病院の医師（入院ベッド数が200床未満の病院）」が同率で続いている。『西讃圏域』では「規模の大きな病院の医師（入院ベッド数が200床以上の総合病院）」が、そのほかの圏域では「中小規模の病院の医師（入院ベッド数が200床未満の病院）」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師」が6割を超える多く、これに『3年未満』では「規模の大きな病院の医師（入院ベッド数が200床以上の総合病院）」、「中小規模の病院の医師（入院ベッド数が200床未満の病院）」が同率で続いている。そのほかでは「中小規模の病院の医師（入院ベッド数が200床未満の病院）」が続いている。

図表 4-(5)-2 「かかりつけ医」の所属施設



グラフ単位:(%)

(6)「かかりつけ医」を持っていない理由

【問19で「2 持っていない」と答えた方にお聞きします】

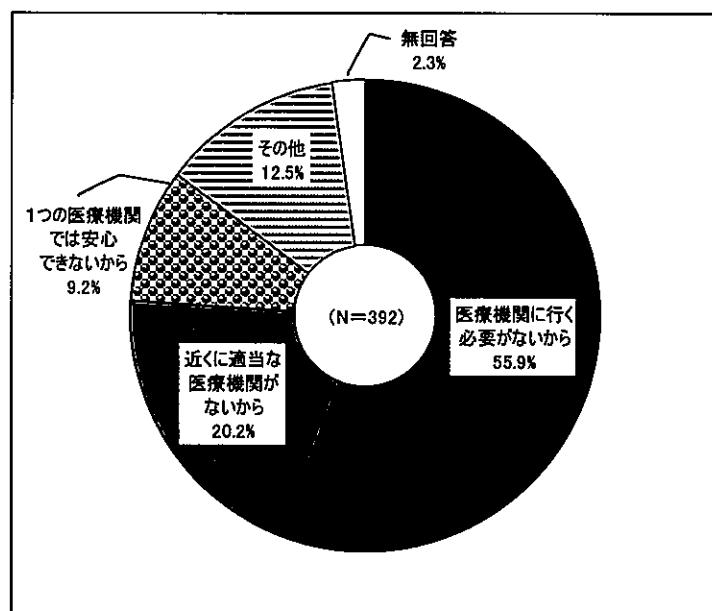
問21 「かかりつけ医」を持っていない理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=392】

1 医療機関に行く必要がないから	55.9%
2 近くに適当な医療機関がないから	20.2%
3 1つの医療機関では安心できないから	9.2%
4 その他（具体的に：）	12.5%
(無回答)	2.3%

「かかりつけ医」を持っていない理由について、「医療機関に行く必要がないから」(55.9%)が最も多く、次いで「近くに適当な医療機関がないから」(20.2%)、「その他」(12.5%)、「1つの医療機関では安心できないから」(9.2%)などとなっている。

図表 4-(6)-1 「かかりつけ医」を持っていない理由



「かかりつけ医」を持っていない理由について、

性別にみると、男女ともに「医療機関に行く必要がないから」が最も多く、『男性』(53.3%)、『女性』(59.1%)となっており、これに「近くに適当な医療機関がないから』『男性』(23.4%)、『女性』(16.4%)が続いている。

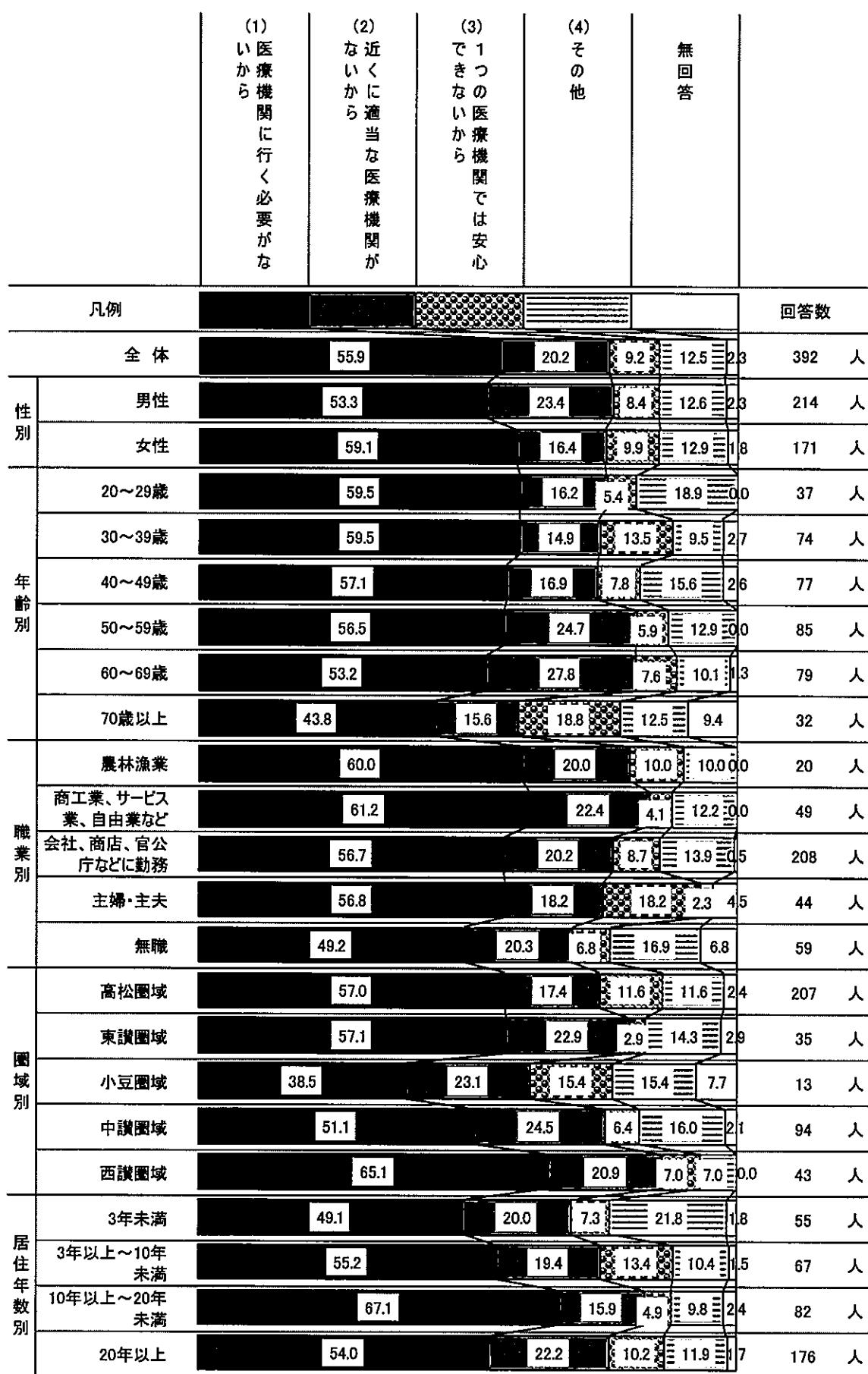
年齢別にみると、いずれも「医療機関に行く必要がないから」が最も多くなっている。これに『20～29歳』では「その他」が、『70歳以上』では「1つの医療機関では安心できないから」が、そのほかの年齢では「近くに適当な医療機関がないから」が続いている。

職業別にみると、いずれも「医療機関に行く必要がないから」が最も多く、これに『主婦・主夫』では「近くに適当な医療機関がないから」、「1つの医療機関では安心できないから」が同率で続いている。そのほかの職業では「近くに適当な医療機関がないから」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「医療機関に行く必要がないから」が最も多く、これに「近くに適当な医療機関がないから」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「医療機関に行く必要がないから」が最も多く、これに『3年未満』では「その他」が、そのほかでは「近くに適当な医療機関がないから」が続いている。

図表 4-(6)-2 「かかりつけ医」を持っていない理由



グラフ単位:(%)

(7) 地域包括ケアシステムの構築の推進にあたり、特に重要だと思うこと

【全員の方にお聞きします】

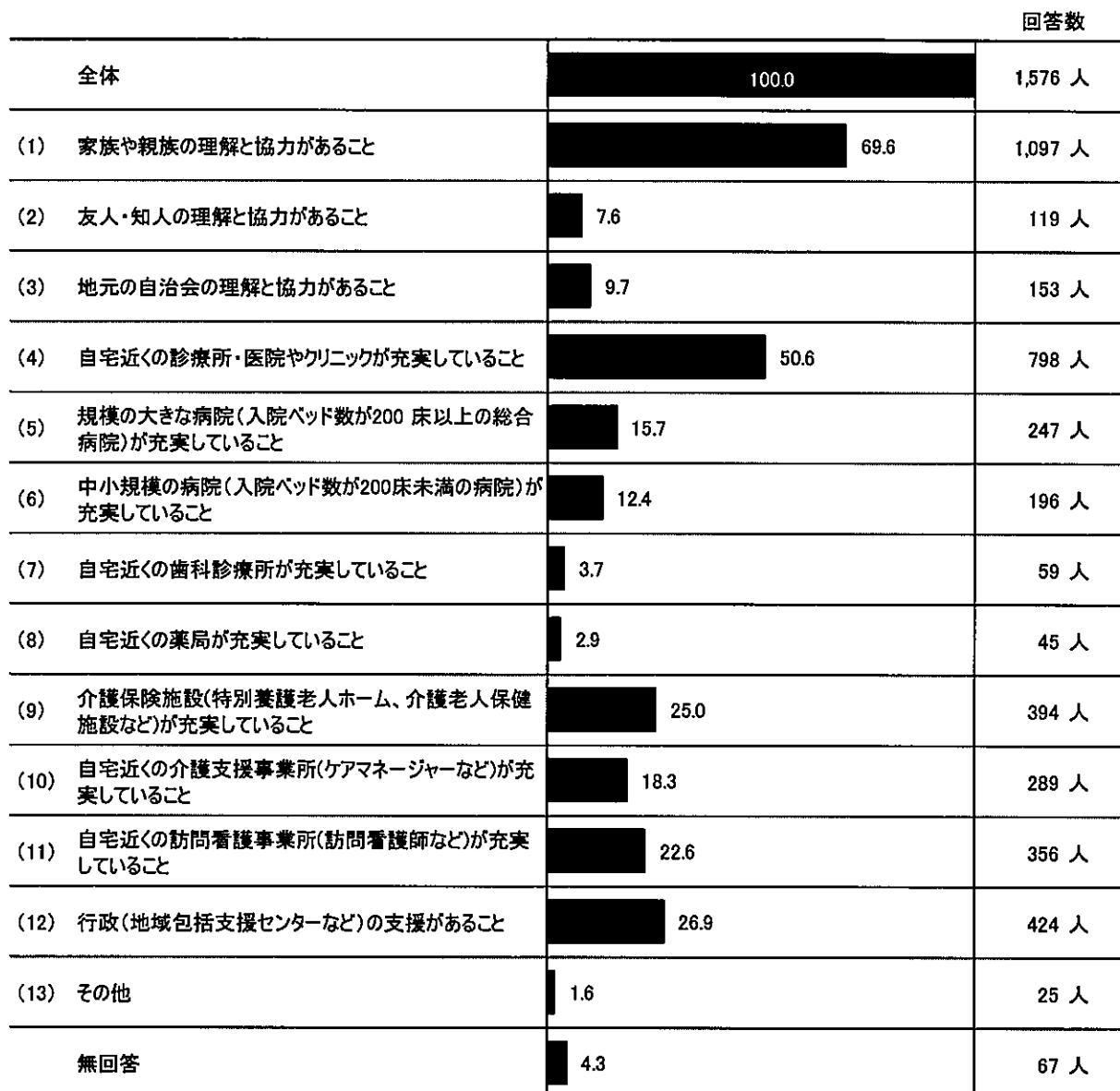
問22 国では、疾病を抱えても、自宅等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を継続することができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進していますが、あなたが特に重要なと思うものは何ですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1 家族や親族の理解と協力があること	69.6%
2 友人・知人の理解と協力があること	7.6%
3 地元の自治会の理解と協力があること	9.7%
4 自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること	50.6%
5 規模の大きな病院（入院ベッド数が200床以上の総合病院）が充実していること	15.7%
6 中小規模の病院（入院ベッド数が200床未満の病院）が充実していること	12.4%
7 自宅近くの歯科診療所が充実していること	3.7%
8 自宅近くの薬局が充実していること	2.9%
9 介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）が充実していること	25.0%
10 自宅近くの介護支援事業所（ケアマネージャーなど）が充実していること	18.3%
11 自宅近くの訪問看護事業所（訪問看護師など）が充実していること	22.6%
12 行政（地域包括支援センターなど）の支援があること	26.9%
13 その他（具体的に：）	1.6%
（無回答）	4.3%

地域包括ケアシステムの構築の推進にあたり、特に重要なと思うことについて、「家族や親族の理解と協力があること」(69.6%)が最も多く、次いで「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」(50.6%)、「行政（地域包括支援センターなど）の支援があること」(26.9%)、「介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）が充実していること」(25.0%)などとなっている。

図表 4-(7)-1 地域包括ケアシステムの構築の推進にあたり、特に重要だと思うこと



グラフ単位:(%)

地域包括ケアシステムの構築の推進にあたり、特に重要なことについて、

性別にみると、男女ともに「家族や親族の理解と協力があること」が最も多く、その比率は『男性』(69.0%)、『女性』(70.5%)となっており、これに「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること』『男性』(50.8%)、『女性』(50.1%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「家族や親族の理解と協力があること」が6割を超え最も多く、これに「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」が続いている。

職業別にみると、いずれも「家族や親族の理解と協力があること」が6割を超え最も多く、これに「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「家族や親族の理解と協力があること」が6割を超え最も多く、これに「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「家族や親族の理解と協力があること」が6割を超える最も多く、これに「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」が続いている。

図表 4-(7)-2 地域包括ケアシステムの構築の推進にあたり、特に重要だと思うこと

	(1) 回答者数 (人)	(2) 家族や親族の理解と協力があること	(3) 友人・知人の理解と協力があること	(4) 地元の自治会の理解と協力があること	(5) と自宅近くの診療所・病院やクリニックが充実していること	(6) 合規規模の大病院(へ入院ベッド数が200床未満の病院)が充実していること	(7) 中小規規模の歯科診療所が充実していること	(8) 自宅近くの薬局が充実していること	(9) 介護施設(特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など)が充実していること	(10) 介護保険施設(特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など)が充実していること	(11) 自宅近くの介護支援事業所(訪問看護師など)が充実していること	(12) 行政(地域包括支援センターなどの支援があること)	(13) その他	無回答		
単位:比率(%)																
全体	1,576	69.6	7.6	9.7	50.6	15.7	12.4	3.7	2.9	25.0	18.3	22.6	26.9	1.6	4.3	
性別	男性	765	69.0	7.8	10.6	50.8	16.7	14.8	3.4	2.9	23.1	17.1	21.0	25.4	1.8	4.4
	女性	770	70.5	7.1	8.6	50.1	14.6	10.4	4.0	2.5	27.1	20.3	24.3	29.0	1.4	3.5
年齢別	20~29歳	79	83.5	12.7	16.5	57.0	15.2	8.9	5.1	7.6	17.7	12.7	16.5	22.8	-	1.3
	30~39歳	139	78.4	9.4	10.8	46.0	18.7	5.8	2.9	5.0	19.4	18.7	30.9	27.3	2.2	0.7
	40~49歳	199	79.9	11.1	7.5	48.7	14.1	15.1	3.5	1.5	22.6	20.1	21.6	31.2	3.0	1.5
	50~59歳	263	68.8	6.1	8.0	53.6	12.5	11.0	1.5	2.7	24.3	20.9	25.1	32.3	1.9	3.4
	60~69歳	405	67.7	4.7	7.9	50.6	15.8	14.8	3.2	2.5	29.4	17.3	21.2	32.8	1.0	5.2
	70歳以上	449	63.0	7.6	11.6	49.7	18.0	12.9	5.6	2.0	26.1	18.7	21.6	18.0	1.6	5.6
職業別	農林漁業	118	72.9	12.7	18.6	51.7	11.9	10.2	3.4	2.5	25.4	8.5	22.0	14.4	2.5	5.9
	商工業、サービス業、自由業など	189	72.0	7.9	11.6	52.4	15.9	14.3	3.2	3.2	23.3	20.6	18.5	29.6	1.6	3.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	75.0	8.0	8.0	51.2	13.0	11.9	2.5	2.3	24.2	20.0	24.6	30.8	1.6	2.5
	主婦・主夫	302	67.9	5.6	8.3	46.4	19.9	10.6	6.0	3.3	26.5	20.9	22.8	28.5	1.0	4.6
	無職	351	61.8	6.0	8.8	52.1	18.5	15.4	4.3	2.6	26.2	17.4	22.2	25.6	1.4	5.1
区域別	高松圏域	763	70.1	6.2	8.1	50.9	15.9	13.8	4.1	3.4	24.4	19.7	24.2	27.5	1.2	3.3
	東讃圏域	145	74.5	9.0	9.7	46.2	13.1	15.9	2.1	5.5	27.6	18.6	20.7	24.1	0.7	2.8
	小豆圏域	44	70.5	2.3	6.8	59.1	15.9	15.9	4.5	-	34.1	15.9	29.5	29.5	-	2.3
	中讃圏域	432	67.8	9.7	13.7	48.8	16.9	9.0	2.8	1.9	22.7	17.6	20.1	27.1	2.5	6.3
	西讃圏域	192	67.7	8.3	7.8	55.2	14.1	11.5	5.7	1.6	28.6	15.1	21.4	25.5	2.1	5.2
居住年数別	3年未満	104	74.0	7.7	12.5	58.7	19.2	9.6	2.9	1.9	17.3	16.3	21.2	29.8	2.9	2.9
	3年以上~10年未満	164	71.3	6.7	8.5	44.5	17.1	8.5	1.8	3.7	22.0	18.3	27.4	36.6	1.8	3.7
	10年以上~20年未満	223	71.7	6.7	7.2	45.3	11.2	14.3	3.6	3.1	22.0	24.7	25.6	32.3	0.9	2.7
	20年以上	1,034	68.9	7.6	10.2	52.1	16.2	13.2	4.1	2.6	27.2	17.7	21.4	24.4	1.5	4.4

(8)今後の香川の在宅医療の充実を図るために、特に力を入れてほしいと思うこと

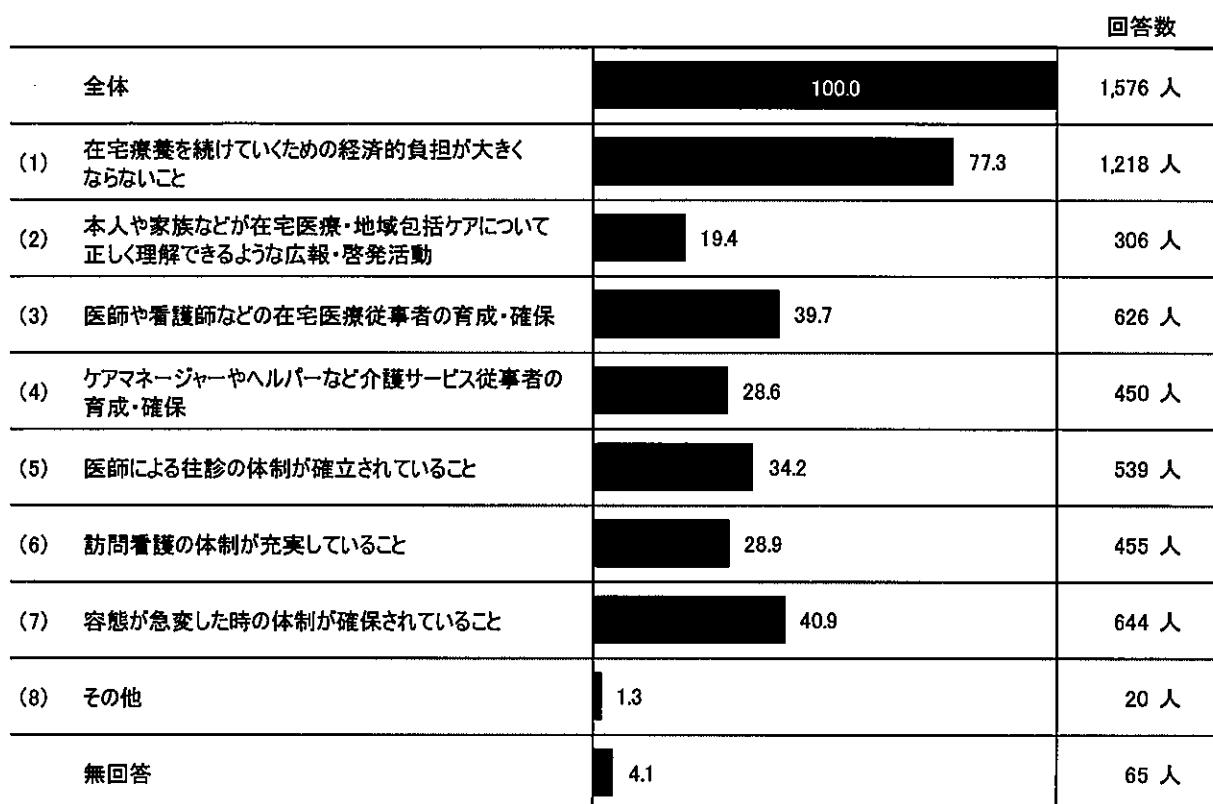
問23 今後の香川の在宅医療の充実を図るために、あなたが特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

- | | |
|---|-------|
| 1 在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくならないこと | 77.3% |
| 2 本人や家族などが在宅医療・地域包括ケアについて正しく理解できるような広報・啓発活動 | 19.4% |
| 3 医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保 | 39.7% |
| 4 ケアマネージャーやヘルパーなど介護サービス従事者の育成・確保 | 28.6% |
| 5 医師による往診の体制が確立されていること | 34.2% |
| 6 訪問看護の体制が充実していること | 28.9% |
| 7 容態が急変した時の体制が確保されていること | 40.9% |
| 8 その他（具体的に：） | 1.3% |
| (無回答) | 4.1% |

今後の香川の在宅医療の充実を図るために、特に力を入れてほしいと思うことについて、「在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくならないこと」(77.3%)が最も多く、次いで「容態が急変した時の体制が確保されていること」(40.9%)、「医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保」(39.7%)、「医師による往診の体制が確立されていること」(34.2%)などとなっている。

図表 4-(8)-1 今後の香川の在宅医療の充実を図るために、特に力を入れてほしいと思うこと



グラフ単位:(%)

今後の香川の在宅医療の充実を図るために、特に力を入れてほしいと思うことについて、性別にみると、男女ともに「在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくならないこと」が最も多く、その比率は『男性』(78.2%)、『女性』(76.6%) なっており、これに『男性』では「医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保」(43.7%) が、『女性』では「容態が急変した時の体制が確保されていること」(42.5%) が続いている。

年齢別にみると、いずれも「在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくならないこと」が 7 割を超え最も多く、これに『20～29 歳』、『30～39 歳』、『60～69 歳』では「容態が急変した時の体制が確保されていること」が、『40～49 歳』、『50～59 歳』では「医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保」が、『70 歳以上』では「医師による往診の体制が確立されていること」が続いている。

職業別にみると、いずれも「在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくならないこと」が 6 割を超え最も多く、これに『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』では「医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保」が、そのほかの職業では「容態が急変した時の体制が確保されていること」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくならないこと」が 7 割を超える最も多く、これに『高松圏域』、『中讃圏域』では「容態が急変した時の体制が確保されていること」が、そのほかの圏域では「医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくならないこと」が 7 割を超える最も多く、これに『20 年以上』では「医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保」が、そのほかでは「容態が急変した時の体制が確保されていること」が続いている。

図表 4-(8)-2 今後の香川の在宅医療の充実を図るために、特に力を入れてほしいと思うこと

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	その他	無回答
	回答者数(人)	いふこと 在宅医療を続けていくための経済的負担が大きくならない	く本人や家族などが在宅医療でできるよう広報・啓発活動について理解できるよう広報・啓発活動を地域包括ケアについて正し	医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保	ケアマネージャーやヘルパーなど介護サービス従事者の育成・確保	医師による往診の体制が確立されていること	訪問看護の体制が充実していること	容態が急変した時の体制が確保されていること	その他	無回答
単位:比率(%)										
全体	1,576	77.3	19.4	39.7	28.6	34.2	28.9	40.9	1.3	4.1
性別	男性	765	78.2	19.1	43.7	27.3	33.3	27.6	40.0	1.0
	女性	770	76.6	20.3	36.0	30.6	35.2	29.5	42.5	1.4
年齢別	20~29歳	79	75.9	27.8	44.3	31.6	29.1	16.5	48.1	2.5
	30~39歳	139	87.8	15.1	36.7	34.5	28.1	32.4	41.0	1.4
	40~49歳	199	80.9	24.1	42.7	30.7	29.6	21.6	41.2	2.5
	50~59歳	263	82.5	15.6	39.2	38.0	30.0	28.5	38.0	1.9
	60~69歳	405	74.8	20.7	41.5	27.2	34.1	32.3	43.2	1.0
	70歳以上	449	72.4	19.4	37.9	22.3	41.6	29.2	40.3	0.9
職業別	農林漁業	118	66.1	19.5	44.1	21.2	43.2	29.7	39.8	0.8
	商工業、サービス業、自由業など	189	82.5	19.6	37.0	29.6	28.6	28.6	44.4	2.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	82.7	19.6	42.4	33.5	29.1	26.7	40.3	1.6
	主婦・主夫	302	71.2	20.9	28.8	28.8	41.1	32.1	45.0	0.3
	無職	351	75.2	19.1	46.2	24.5	37.3	28.5	38.7	0.9
地域別	高松圏域	763	78.2	21.0	36.2	30.9	35.8	29.6	40.5	0.9
	東讃圏域	145	82.1	20.0	44.8	22.1	32.4	28.3	40.7	3.4
	小豆圏域	44	81.8	11.4	65.9	18.2	27.3	29.5	40.9	2.3
	中讃圏域	432	74.5	18.3	37.7	26.9	32.9	25.9	43.5	2.3
	西讃圏域	192	75.0	17.2	48.4	30.2	33.9	32.8	36.5	1.0
居住年数別	3年未満	104	80.8	24.0	39.4	29.8	26.9	28.9	45.2	1.0
	3年以上~10年未満	164	81.1	17.7	31.7	37.8	28.0	24.4	46.3	2.4
	10年以上~20年未満	223	76.2	19.7	41.3	30.5	36.3	29.1	41.7	0.9
	20年以上	1,034	76.8	19.5	41.1	27.5	35.6	29.4	40.1	1.2

